

2021 年度

シラバス



久留米信愛短期大学

KURUME SHIN-AI COLLEGE

久留米信愛短期大学の建学の精神と教育理念

建学の精神は、キリストの教えに基づいた真の価値観を持つ人間を育成することである。シヨファイユの幼きイエズス修道会創立者レーヌ・アンティエの言葉に、「人々が神を知り、神を愛するようになるために、私たちの全生涯を捧げましょう」、そして「マリアにおいて幼子となられた神の愛を世に示す」とあるように、創立者と幼きイエズス修道会のカリスマが本学の建学の精神の根底にある。

教育理念はこの建学の精神に基づいて、以下のように示される。

カトリックの精神を基盤として、学生の全人格的な開花を目指す。学生一人ひとりが主体性を確立し、それぞれの可能性を最大限に伸ばして自己形成を図ると共に、豊かな心をもって社会の建設に貢献する人間を育成する。この教育理念を具現化するため、5つの柱に従い教育する。

1. キリストの教えに根ざした教育
2. 一人ひとりを大切にする教育
3. 能力の開発を目指す教育
4. 自己形成を促す教育
5. 社会貢献への態度を形成する教育

久留米信愛短期大学及び学科の教育目的・目標

建学の精神「キリストの教えに基づいた真の価値観を持つ人間を育成する」に基づいた本学全体及び学科の教育目的・目標は以下の通りである。

本学全体の教育目的・目標は、「自己を他者に生かす」ことのできる「豊かな心をもって社会の建設に貢献する人間を育成する」ことである。

幼児教育学科の教育目的・目標は、「自己を他者に生かす喜びを知り、子どもとの関わりの中で実践できる保育者を養成する。そのために子どもの発達理解と支援に必要な知識、保育方法・技術を身につけた保育者を育成する」ことである。

フードデザイン学科の教育目的・目標は、「食に関するあらゆる場において、豊かな感性と総合的な技術をもった栄養士を養成する。すなわち、自分を他者に生かす喜びをもち、健康的な食事を計画・調理・提供できる基礎知識と食空間を演出できる応用力を身につけた栄養士を育成する」ことである。

はじめに

皆さんの入学を、心より歓迎いたします。

シラバス(syllabus)という言葉については、既にご存知かもしれませんが、開講される科目について事前に立てられた授業の計画や内容の概略を記したもののことです。皆さんの学びのガイドブックとも言うべき本冊子には、それぞれの科目ごとにディプロマ・ポリシーとの関連、授業の目的、到達目標、授業の概要、各回の授業計画、成績評価の方法・基準、留意事項、準備学習(必要時間含む)、課題のフィードバック、テキストおよび参考書等、その科目を学んでいく上で必要なことが記載されています。授業が始まる前に、目を通しておいってください。その科目の全体像が予め分かっていると、各回の授業の間につながりができ、理解しやすくなると思います。

また、前期・後期の授業開始の前には、履修ガイダンスが開催されます。卒業および免許・資格の取得などに必要な科目について、見落としがないように心がけましょう。

それから、皆さんが本学で学生生活を過ごされる上で、さまざまな約束事、決まりを1冊にまとめた“ルールブック”として「学生便覧」があります。その中に、例えば学則、履修規程、成績考査規程、各学科のカリキュラムなども掲載されています。繰り返しになりますが、卒業、免許・資格の取得、単位の修得方法、成績評価などに関する事柄は、それらの中で定められています。

これまでの学校生活に比べて、自主的に考え、自ら判断し、自らの意志と責任で行動する場面が増えてくると思います。卒業後の進路や人生プランなどを視野に入れながら、本学における2年間の学生生活を、未来へ向けての確かな足場を固める時期、“雌伏の時”としてください。

2021年4月

教務部長

履修上の留意事項

履修に際しては、各学期の授業開始前に行われる学科別の履修ガイダンスやシラバスを参考にしてください。ここでは、各学科に共通する用語・事項等について説明します。

1. 講義

教員が学生に対し、当該科目の専門的な知識・内容などについて解説する授業形式。
本学では1単位につき15時間を定めています。

2. 演習

教員の講義とともに、学生も討議・研究発表等を行いつつ指導を受ける授業形態。
本学では1単位の授業時間を30時間と定めています。

3. 実験・実習・実技

本学ではいずれも1単位につき45時間の授業と定めています。

4. インターンシップ

在学中に一定期間企業等において、自分の専攻や希望する職業に関連する就業体験を積むことにより、学習効果を高める教育プログラムのことです。

5. 選択科目

卒業必修以外の科目であり、学生の意志によって履修を決定する科目のことです。
ただし、選択科目であっても、免許・資格の必修科目の場合もあるので注意してください。

6. 選択必修科目

複数の科目の内から、1ないし複数の科目の履修が義務づけられている科目のことです。

7. コマ

1授業時限(90分)を指します。

8. 授業の回数

1学期15回の授業を行います。

9. 授業の出席

成績評価の前提として、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。
遅刻、早退は3回で1回の欠席となります。

10. 履修届と履修中止願

履修届とは、授業科目を履修し、単位を修得するために提出する届のことです。
履修中止願は、履修届に記載した科目を、所定の手続きに従って学期の途中で中止する場合に提出する願のことです。

11. 成績考査

筆記試験、論文、レポート、口頭試験、実技、作品等によって行われる学業成績の評価のことで、合格した場合は、その科目の修了を認める単位が与えられます。

12. 成績評価

本学では、成績をAA(90～100点)、A(80～89点)、B(70～79点)、C(60～69点)、D(59点以下)、F(失格・放棄)で表し、AA、A、B、Cが合格となります。

13. グレード・ポイント・アベレージ(Grade Point Average: GPAと略称)

本学では、成績のAAを4点、Aを3点、Bを2点、Cを1点、DとFを0点として、次の計算式によって平均点(GPA)を算出します。履修中止が認められた科目の単位数は、計算式の分母に含まれません。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{AAの修得単位数}) \times 4 + (\text{Aの修得単位数}) \times 3 + (\text{Bの修得単位数}) \times 2 + (\text{Cの修得単位数}) \times 1}{\text{履修総単位数(D, Fの単位数を含む)}}$$

14. 追試験と特別追試験

追試験は、試験を受けられなかった者が後日、認定されて受験する試験のことです。

特別追試験は、追試験を受けられなかった者および追試験において不合格であった者が受験する試験のことです。

15. 再試験と特別再試験

再試験は、不合格になった科目について再び受験する試験のことです。

特別再試験は、再試験を受けられなかった者および再試験において不合格であった者が受験する試験のことです。

16. 再履修

単位を修得できなかった科目を、次学期以降に再び履修することです。

17. 科目等履修生

本学の学生でない者で本学の授業科目を履修する者のことです。

18. オフィスアワー

学生の質問・相談などに応じるための時間として、教員があらかじめ設定している時間帯のことです。前期と後期とでは時間帯が異なる場合があります。

19. 学生便覧

学生生活に必要な学則や諸規程などを掲載している冊子のことです。

分からないとき、確かめたいときには学生便覧を開いてみてください。

20. 学則

学校の組織や教育課程、管理などについての事項を定めた規則のことです。

21. 卒業

学則に定められた全課程を履修し終えることです。

本学では、2年以上在学し、62単位以上を修得しなければなりません。

22. カリキュラムとカリキュラム・マップ

カリキュラムとは開講される科目全体を示した教育課程のことであり、カリキュラム・マップとは各々の科目の学習成果を示したものです。

23. 3つのポリシー

アドミッション・ポリシーとは入学者受け入れ方針、カリキュラム・ポリシーとは教育課程の編成方針、ディプロマ・ポリシーとは学位授与の方針のことです。

24. CAP制

授業科目には単位数が定められています。単位数は科目ごとに異なり、通常の講義科目では2単位、演習科目では1単位、実験・実習・実技科目では1単位となっています。

講義科目1単位は、大学における15時間の講義に加えて30時間の予習・復習からなる自己学習が伴った45時間の学習を行った上で、また、演習科目1単位は、大学における30時間の演習に加えて15時間予習・復習からなる自己学習が伴った45時間の学習を行った上で、さらに試験等により合格の評価を受けることで与えられるものです。つまり、単位を修得するには、教室外の自己学習時間が必要とされています。これは、多数の科目を履修すると、学習時間が確保できず、単位が取得できないことを意味します。

ある科目の単位を取得するには、その科目を履修することを学期(前期ならびに後期)の始めに登録する必要があります。単位取得に必要な学習時間の確保のため、各学生が1学期に履修を登録できる総単位数に上限を設定しています。これをCAP制といいます。

原則として、各期に履修登録できる総単位数の上限は、下記となっています。

1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
30単位	25単位	25単位	20単位

ただし、下記の学外実習科目は上限を超えて履修登録できます。

両学科	英語V(1単位)、ヨーロッパ文化(1単位)、ボランティア(1単位)
幼児教育学科	保育実習Ⅰ(4単位)・Ⅱ(2単位)・Ⅲ(2単位)、教育実習(5単位)の計13単位
フードデザイン学科	校外給食管理実習Ⅰ(1単位)・Ⅱ(1単位)、フードインターンシップ(1単位)、医療秘書実務実習(1単位)の計4単位

また、優秀な学生に対しては、より多くの科目の履修を認めます。前学期において、GPAが3.2以上の場合、次の学期に2単位多く履修登録ができます。

25. カリキュラム編成及び科目の教育内容に学生の意見を反映させる仕組み

科目の教育内容やカリキュラムの編成に関する意見がある場合は、学期末に行われる授業評価アンケートの裏側の自由記述欄に意見を書いてください。授業内容やカリキュラム編成に関して、学科及び教務部にてその意見を検討します。

目 次

建学の精神と教育理念、教育目的・目標	1	子どもの食と栄養Ⅰ	60
はじめに	2	子どもの食と栄養Ⅱ	61
履修上の留意事項	3	教育課程論	62
目次	6	保育内容総論	63
幼児教育学科		保育内容 健康	64
カリキュラム・ポリシー	11	保育内容 人間関係	65
ディプロマ・ポリシー	12	保育内容 環境	66
カリキュラム・マップ	13	保育内容 言葉	67
履修系統図	15	保育内容 表現	68
開講一覧表(履修届控)	16	音楽表現Ⅰ	69
キリスト教概論	19	音楽表現Ⅱ	70
信愛教育Ⅰ	20	造形表現	71
信愛教育Ⅱ	21	身体表現	72
信愛教育Ⅲ	22	言語表現	73
信愛教育Ⅳ	23	保育指導法Ⅰ	74
英語Ⅰ	24	保育指導法Ⅱ	75
英語Ⅱ	25	乳児保育Ⅰ	76
英語Ⅲ	26	乳児保育Ⅱ	77
英語Ⅳ	27	特別支援教育・保育Ⅰ	78
英語Ⅴ	28	特別支援教育・保育Ⅱ	79
フランス語Ⅰ	29	幼児音楽Ⅰ	80
フランス語Ⅱ	30	幼児音楽Ⅱ	81
生活とスポーツⅠ	31	幼児音楽Ⅲ	82
生活とスポーツⅡ	32	ピアノⅠ	83
情報科学	33	ピアノⅡ	84
キャリアガイダンスⅠ	34	器楽合奏	85
キャリアガイダンスⅡ	35	音楽保育	86
日本文学	36	基礎造形Ⅰ	87
日本国憲法	37	基礎造形Ⅱ	88
心理学	38	体育	89
ヨーロッパ文化	39	モンテッソーリ教育法Ⅰ	90
生活と環境	40	モンテッソーリ教育法Ⅱ	91
生命と自然	41	レクリエーション概論	92
基礎統計学	42	スポーツ・レクリエーション概論	93
ボランティア	43	レクリエーション指導法	94
保育原理	44	在宅保育論	95
教育原理	45	チャイルドプロジェクト	96
教職基礎論	46	保育実習指導Ⅰ	97
社会福祉論	47	保育実習指導Ⅱ	98
子ども家庭福祉	48	保育実習指導Ⅲ	99
子ども家庭支援論	49	保育実習Ⅰ	100
社会的養護Ⅰ	50	保育実習Ⅱ	101
社会的養護Ⅱ	51	保育実習Ⅲ	102
発達心理学	52	教育実習	103
子どもの理解と援助	53	保育・教職実践演習(幼稚園)	104
保育方法・技術	54		
幼児理解	55		
子ども家庭支援の心理学	56		
保育・教育相談支援	57		
子どもの保健	58		
子どもの健康と安全	59		

幼兒教育学科

幼児教育学科の皆さんへ

幼児教育学科の教育目的・目標は「自己を他者に生かす喜びを知り、子どもとの関わりの中で実践できる保育者を養成する。そのために子どもの発達を理解と支援に必要な知識、保育方法・技術を身につけた保育者を育成する」です。

この教育目的・目標をかなえるため、次項のカリキュラム・マップにそったカリキュラムを用意しています。

また、皆さんの興味・関心に合わせて学びを深めるために、以下の3つのプログラムの科目、プラスαの学びとして、幼児教育・保育に係る資格を取得するための科目を開講しています。

○モンテッソーリ教育プログラム

専用の演習室において、モンテッソーリの理論と独自の教具を使った実践を行い、モンテッソーリ教育の基本を学びます。

○音楽教育プログラム

音楽に関するより専門的で高度な技術を習得し、音楽面に秀でた保育者を目指します。

○子育て支援プログラム

認定ベビーシッターの資格取得を目指した学びの中で、子育て支援に関するより深い知識と技術を見につけます。

さらにプラスαの学びとして、レクリエーション・インストラクターやスポーツ・レクリエーション指導者の資格取得を目指した学びの中で、仲間づくりや人々のふれあい活動を支援する力を養うことができます。

どの科目を履修すれば良いか、しっかりと考えて選択することはとても大切です。単に免許、資格を取得するために履修科目を決定するのではなく、将来、保育者として地域社会に貢献するために「今、何を学ぶべきか」を考え、また、子どもたちの成長に深く関与するためには「どんな能力を伸ばし、どのような適性を身に付けなければならないか」を考えて履修科目を選択しましょう。

今、保育者には単に保育技術だけでなく、家族に対する支援や地域社会との連携など様々なことが求められています。そのためにも、積極的に学ぶことは将来の大きな糧となります。これからの2年間で皆さんが大きく成長されることを期待しています。

幼児教育学科長

カリキュラム・ポリシー

教育目的・目標に基づいた幼児教育学科のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)は以下の通りです。

幼児教育学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するため以下の教育内容と方法を実施する。

1. 教育内容

- ① 全学科共通の「信愛教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「キリスト教概論」を履修し、キリストの教えに基づく価値観を土台に人格形成の基本を養う。
- ② 基礎教育科目群の履修を通して、現代社会に生きる人間としての教養を身につけるとともに、「キャリアガイダンスⅠ・Ⅱ」で自らのキャリアを考え、社会人としての基礎を築く。
- ③ 「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」、「特別支援教育・保育Ⅰ・Ⅱ」、「発達心理学」と保育内容科目群の履修を通して子どもの心身の発達についての知識を習得し、子ども理解を深めて、一人ひとりの子どもの発達についての対応を学ぶ。
- ④ 子どもの保健や食と栄養に関する科目群の履修を通して、子どもの発達に合わせた支援の方法を学ぶ。また、「教育課程論」、「子どもの理解と援助」、「保育指導法Ⅰ・Ⅱ」、「保育方法・技術」、「モンテッソーリ教育法Ⅰ・Ⅱ」を通して、子どもの発達に合わせた保育の考え方や方法を学ぶ。
- ⑤ 言語・音楽・身体・造形表現に関する科目群を通して保育者に求められる表現の技術の習得を図る。
- ⑥ 保育実習・教育実習の事前に実習の計画・準備、実習後に振り返りを行い、その中で保育者になるための自己研鑽を行う。また「保育・教職実践演習(幼稚園)」のなかで実習を含むこれまでの学習を振り返り、自己の不足している点を明らかにし、それを補う学びを行い自己の研鑽力を高めて行く。
- ⑦ 「保育原理」、「教育原理」、「教職基礎論」の履修を通して日本の保育制度や基本的考え方などについて学ぶとともに、目指すべき保育者像を明らかにしてゆく。また社会福祉関係の科目群の履修を通して社会福祉の制度等の基本的な知識、現代社会における福祉の考え方などを学ぶとともに、実際の相談支援の方法等についての知識の習得を図る。そして教育実習・保育実習を通して保育の実際を学び、その中で子どもを取り巻く環境や保育者の使命についての理解を深める。
- ⑧ 「チャイルドプロジェクト」や選択科目群を自分の興味・関心に合わせて履修し、自らの研究課題設定やグループワークを通して学びの中で創意工夫する力を養う。

2. 教育方法

- ① 学修に対する自己評価、履修カルテの活用などを通して学びのフィードバックを行い、教育目的・目標に基づいたカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの整合性を図る。
- ② 専門教育科目では模擬保育などのロールプレイの手法を取り入れ、学生が実践力を高めることを図る。
- ③ ピアノなど個別の能力差のある分野については、個別指導を行い個々の能力に合わせた指導を実施する。
- ④ 主体的な学びの力を高めるために「チャイルドプロジェクト」や選択科目群の中でアクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施する。

ディプロマ・ポリシー

教育目的・目標に基づいた本学及び幼児教育学科のディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)は以下の通りです。

卒業までに身につけることとして、以下に掲げることが求められる。その所定の単位を修めた学生には卒業を認定し、短期大学士の学位を授与する。

全学共通カリキュラムの「信愛教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を履修し、キリストの教えに基づく豊かな人格形成の基本を養うとともに、専門領域の学習の土台を培う。

所属学科における理論的・実践的授業を履修し、地域社会に専門的職業を通して貢献できる総合能力である以下の8項目を身につける。

幼児教育学科は、

1. キリストの教えに基づく価値観を土台とした子どもとの関わりを実践できる。
2. 現代社会に生きる人間に必要な教養を身につけ、社会の一員として責任ある行動ができる。
3. 子ども的心身の発達についての知識を習得し、子ども理解を深め、一人ひとりの子どもに対応した関わりができる。
4. 子ども発達に合わせた支援の方法を身につけ、それを保育計画・実践に活用できる。
5. 保育者として必要な表現技術を習得し、子どもや保護者との円滑なコミュニケーションができる。
6. 保育者に求められる自己研鑽力を身につけ、保育者としての能力を伸ばすことができる。
7. 子どもを取り巻く環境と保育者の果たす使命を知り、家庭や地域社会に保育者として貢献できる。
8. 創意工夫して実践する力を養い、保育の実践に活用できる。

幼児教育学科 カリキュラム・マップ

ディプロマ・ポリシー8つの項目によるカリキュラム・マップ

ポイント ◎:2ポイント ○:1ポイント

領域・分野	授業科目	ディプロマ・ポリシー							
		1	2	3	4	5	6	7	8
基礎 教育 科目	キリスト教概論	◎	○						
	信愛教育Ⅰ	◎	○						
	信愛教育Ⅱ	◎	○						
	信愛教育Ⅲ	◎	○						
	信愛教育Ⅳ	◎	○						
	英語Ⅰ		◎						
	英語Ⅱ		◎						
	英語Ⅲ		◎						
	英語Ⅳ		◎						
	英語Ⅴ		◎						
	フランス語Ⅰ		◎						
	フランス語Ⅱ		◎						
	生活とスポーツⅠ		◎		○				
	生活とスポーツⅡ		◎	○	○				
	情報科学					◎			○
	キャリアガイダンスⅠ		◎					○	
	キャリアガイダンスⅡ		◎					○	
	日本文学		◎						
	日本国憲法		◎					○	
	心理学		◎	○	○				
	ヨーロッパ文化	○	◎						
	生活と環境		◎						
	生命と自然		◎				○	○	
	基礎統計学		◎						
	ボランティア	◎	○						
	専門 教育 科目	保育原理		○				○	◎
教育原理			○				○	◎	
教職基礎論								◎	
社会福祉論			○				○	◎	
子ども家庭福祉			○	○			○	◎	
子ども家庭支援論							○	◎	
社会的養護Ⅰ				○				◎	
社会的養護Ⅱ				○	○		○	◎	
発達心理学				◎	○			○	
子どもの理解と援助				○	◎		○		
保育方法・技術					◎		○	○	
幼児理解				○				◎	
子ども家庭支援の心理学				○	○			◎	
保育・教育相談支援				○	○			◎	
子どもの保健				○	◎			○	
子どもの健康と安全				○	◎				
子どもの食と栄養Ⅰ				○	◎			○	
子どもの食と栄養Ⅱ				○	◎			○	
教育課程論					◎			○	
保育内容総論				◎	○				
保育内容 健康				◎	○				
保育内容 人間関係				◎	○				
保育内容 環境				◎	○			○	
保育内容 言葉			◎	○					
保育内容 表現			◎	○	○		○		

専 門 教 育 科 目	音楽表現Ⅰ					◎			
	音楽表現Ⅱ					◎			○
	造形表現					◎			○
	身体表現				○	◎			○
	言語表現					◎			○
	保育指導法Ⅰ			○	◎		○	○	○
	保育指導法Ⅱ			○	○	○	◎		
	乳児保育Ⅰ			◎	○			○	
	乳児保育Ⅱ			◎	○			○	
	特別支援教育・保育Ⅰ			○	◎			○	
	特別支援教育・保育Ⅱ			○	◎			○	
	幼児音楽Ⅰ					◎	○		
	幼児音楽Ⅱ					◎	○		
	幼児音楽Ⅲ					◎			○
	ピアノⅠ					◎	○		
	ピアノⅡ					◎	○		
	器楽合奏			○		◎			
	音楽保育					○			◎
	基礎造形Ⅰ					◎			○
	基礎造形Ⅱ					◎			○
	体育				○	◎	○		○
	モンテッソーリ教育法Ⅰ				◎				○
	モンテッソーリ教育法Ⅱ				◎				○
	レクリエーション概論								◎
	スポーツ・レクリエーション概論				○			○	◎
	レクリエーション指導法				○	○	○		◎
	在宅保育論				○			◎	○
	チャイルドプロジェクト						○		◎
	保育実習指導Ⅰ						◎	○	○
	保育実習指導Ⅱ			○	○	○	◎		
	保育実習指導Ⅲ			○	○		◎	○	
	保育実習Ⅰ						○	◎	○
	保育実習Ⅱ						○	◎	
	保育実習Ⅲ			○	○		○	◎	
	教育実習			○	○			◎	
	保育・教職実践演習(幼稚園)						◎	○	○
ポイント合計	13	46	40	50	34	29	53	28	
ポイント割合(%)	4.4	15.7	13.7	17.1	11.6	9.9	18.1	9.6	

履修系統図〔幼児教育学科〕

ディプロマ・ポリシー	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	備考
キリストの教えに基づく価値観を土台とした子どもとの関わりを実践できる	キリスト教概論 信愛教育Ⅲ	信愛教育Ⅳ	信愛教育Ⅰ	信愛教育Ⅱ	
	ボランティア				
現代社会に生きる人間に必要な教養を身につけ、社会の一員として責任ある行動ができる	英語Ⅰ フランス語Ⅰ 生活とスポーツⅠ ↓ 生活とスポーツⅡ 情報科学 キャリアガイダンスⅠ 日本文学 心理学 生活と環境 生命と自然 日本国憲法 基礎統計学	英語Ⅱ フランス語Ⅱ	英語Ⅲ キャリアガイダンスⅡ	英語Ⅳ	英語Ⅴ ヨーロッパ文化
子どもの心身の発達についての知識を習得し、子ども理解を深め、一人ひとりの子どもに対応した関わりができる	保育内容総論 ↓ 保育内容 人間関係 ↓ 保育内容 表現	乳児保育Ⅰ 特別支援教育・保育Ⅰ 発達心理学 保育内容 健康	乳児保育Ⅱ 保育内容 言葉 保育内容 環境		
子どもの発達に合わせた支援の方法を身につけ、それを保育計画・実践に活用できる		保育方法・技術 教育課程論 子どもの保健	特別支援教育・保育Ⅱ 保育指導法Ⅰ 子どもの食と栄養Ⅰ 子どもの健康と安全 モンテッソーリ教育法Ⅰ	子どもの理解と援助 保育指導法Ⅱ 子どもの食と栄養Ⅱ モンテッソーリ教育法Ⅱ	
保育者として必要な表現技術を習得し、子どもや保護者との円滑なコミュニケーションができる	言語表現 音楽表現Ⅰ ピアノⅠ 基礎造形Ⅰ	幼児音楽Ⅰ ピアノⅡ 基礎造形Ⅱ	幼児音楽Ⅱ 音楽表現Ⅱ 造形表現 体育	幼児音楽Ⅲ 器楽合奏 身体表現	
保育者に求められる自己研鑽力を身につけ、保育者としての能力を伸ばすことができる		保育実習指導Ⅰ		保育・教職実践演習(幼稚園)	
		保育実習指導Ⅱ			
				保育実習指導Ⅲ	
		教育実習(教育実習指導)			
子どもを取り巻く環境と保育者の果たす使命を知り、家庭や地域社会に保育者として貢献できる	教育原理 社会福祉論 ↓ 子ども家庭福祉 幼児理解	教職基礎論 保育原理 社会的養護Ⅰ	子どもの家庭支援の心理学 子ども家庭支援論 社会的養護Ⅱ	保育・教育相談支援 在宅保育論	
	教育実習				
		保育実習Ⅰ			
		保育実習Ⅱ			
				保育実習Ⅲ	
創意工夫して実践する力を養い、保育の実践に活用できる		レクリエーション概論	レクリエーション指導法	音楽保育 スポーツ・レクリエーション概論	
		チャイルドプロジェクト			

開講一覽表 (履修届控)

番号	氏名	印
----	----	---

令和3年度入学 幼児教育学科	単 位							履修届(単位)				修得単位				合 修 得 単 位	マ 間 番 号 シ ー ト	
	学 則	開 講	卒 業 必 修	教 職 必 修	保 育 必 修	レ ク 必 修	ス ポ レ ク 必 修	ベ ピ 必 修	1年		2年		1年		2年			
									前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期			後 期
キリスト教概論講	2	2	2						2									1
信愛教育Ⅰ演	1	1	1								1							2
信愛教育Ⅱ演	1	1	1		*5			*5				1						3
信愛教育Ⅲ演	1	1	1						1									4
信愛教育Ⅳ演	1	1	1							1								5
英語Ⅰ演	1	1	*1		*3				1									6
英語Ⅱ演	1	1								1								7
英語Ⅲ演	1	1									1							8
英語Ⅳ演	1	1			2			2				1						9
英語Ⅴ演	1	1								1								10
フランス語Ⅰ演	1	1	*2		*4				1									11
フランス語Ⅱ演	1	1									1							12
生活とスポーツⅠ講	1	1	1	1	1			1	1									13
生活とスポーツⅡ実	1	1	1	1	1			1	1									14
情報科学講	2	2		2					2									15
キャリアガイダンスⅠ演	1	1								1								16
キャリアガイダンスⅡ演	1	1									1							17
日本文学講	2	2							2									18
日本国憲法講	2	2		2					2									19
心理学講	2	2			*5			*5	2									20
ヨーロッパ文化演	1	1	2							1								21
生活と環境講	2	2							2									22
生命と自然講	2	2							2									23
基礎統計学講	2	2							2									24
ボランティア演	1	1								1								25
小 計	33	33	12	8	10	0	0	10	20	3	2	2						
保育原理講	2	2	2		2			2		2								26
教育原理講	2	2	2	2	2			2	2									27
教職基礎論講	2	2		2	2			2		2								28
社会福祉論講	2	2			2			2	2									29
子ども家庭福祉講	2	2	2		2			2	2									30
子ども家庭支援論講	2	2			2			2		2								31
社会的養護Ⅰ講	2	2			2			2		2								32
社会的養護Ⅱ演	1	1			1			1			1							33
発達心理学講	2	2	2	2	2			2		2								34
子どもの理解と援助演	1	1			1			1			1							35
保育方法・技術演	1	1		1	*6			*6		1								36
幼児理解講	2	2		2					2									37
子ども家庭支援の心理学講	2	2			2			2			2							38
保育・教育相談支援演	1	1		1	1			1				1						39

番号		氏名		印
----	--	----	--	---

区分	科 目	単 位								履修届(単位)				修得単位				合 修 得 単 位 計	マ 間 番 号 ク シ ー ト	
		学 則	開 講	卒 業 必 修	教 職 必 修	保 育 必 修	レ ク 必 修	ス ポ レ ク 必 修	ベ ビ 必 修	1年		2年		1年		2年				
										前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期			
専 門 教 育 科 目	在 宅 保 育 論 講	2	2						2				2							77
	チャイルドプロジェクト	演	2	2	2			*6		*6			2							78
	保 育 実 習 指 導 I	演	2	2				2		2			2							79
	保 育 実 習 指 導 II	演	1	1				*7		*7			1							80
	保 育 実 習 指 導 III	演	1	1				*8		*8				1						81
	保 育 実 習 I	実	4	4				4	*10	*10	4			4						82
	保 育 実 習 II	実	2	2				*7		*7				2						83
	保 育 実 習 III	実	2	2				*8		*8					2					84
	教 育 実 習	実	5	5			5		*10	*10				5						85
	保 育・教職実践演習(幼稚園)	演	2	2			2	2			2				2					86
	小 計		89	89	20	30	40	60	8	10	62	15	22	19	16					
合 計		122	122	32	30	48	70	8	10	72	35	25	21	18						

- *1 または *2 のいずれか2単位以上
- *3 または *4 のいずれか2単位以上
- *5 いずれか6単位以上
- *6 いずれか6単位以上
- *7 または *8 のいずれか3単位以上
- *9 いずれか1単位以上
- *10 いずれか4単位以上

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修/選択	担当者			
キリスト教概論 Introduction to Christianity	1年前期	講義	2	卒業必修 資格選択必修	横田 君代			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
	◎	○						
授業の目的	旧約聖書による人間像を学ぶ。神の似姿として創造された人間本来の姿を学び、命の尊さを心に刻む。同時に(原)罪を犯した結果、弱さを背負い、闇の中で生き続ける人間の現実について知る。また、新約聖書を通して、その弱い人間を救いに来られたイエスの教えを学ぶ。愛とゆるしに貫かれたイエスの教えをもとに、キリスト教的価値観について学びながら、生きることの意味や、人間本来の在り方、真の幸せについて深く考察する。							
到達目標	1. キリスト教的人間像に基づく人本来の在り方と命の尊さを心に刻む。 2. 人生において、特に重大な決断や判断のために、基準となる価値観を身につける。 3. 特に、愛とゆるしなどのキリスト教的価値観の重要性の認識を深め、学んだことを日常生活に活かせるようになる。							
授業の概要	授業のテーマに即した聖書の箇所を、聖書本文と視聴覚教材などを用いて学び、聖書からのメッセージを読み取る。また、グループワークによる分かち合いを通して、他の人の考えを尊重する態度を養う。 毎回の授業では、配布プリントに従って、学んだ内容の振り返りと感想を書く。							
授業計画								
1	オリエンテーション 授業内容と授業のねらいについて学ぶ。キリスト教における基本用語を知る。「聖書」という書物を概観する。	9	イエス・キリストの生涯(1) 人となられた神の子、イエス・キリストについて基本的なことを知る。イエスの生涯を概観する。					
2	旧約聖書による人間像(1) 「天地創造」を通して、なぜ人間と世界が存在するのかを知り、その世界をどのように守っていくのかを考える。	10	イエス・キリストの宣教生活と教え(1) イエスの教える幸福とは何か？ 山上の垂訓を通して考える。(グループワーク)					
3	旧約聖書による人間像(2) 神の似姿として造られた人間の命の尊さと性の意味を学ぶ (グループワーク)	11	イエス・キリストの宣教生活と教え(2) キリスト教におけるもっとも重要な教え「愛すること」について学ぶ。キリスト教的愛の概念について知る。					
4	旧約聖書による人間像(3) (原)罪について学ぶ。人間の悪や苦しみの理由について考察する。(グループワーク)	12	イエス・キリストの宣教生活と教え(3) イエスの教える正義。正義は愛の始まりであることを知る。(グループワーク)					
5	旧約聖書による人間像(4) 罪を犯し、神を離れた人間がどのようなものであるかを考察する。(グループワーク)	13	イエス・キリストの受難と復活(1) イエス・キリストの救いの業の頂点である受難と復活について基本的なことを学ぶ。					
6	旧約聖書における人間像(5) モーセの物語を通して、神と人間の関係について学ぶ。(グループワーク)	14	イエスの受難と復活(2) イエス・キリストの受難をとおして、苦しみの意味について学び、復活が何を意味するのかについて考察する。					
7	旧約聖書における人間像(6) 人間を向上させるルール、十戒を通して、規則と自由について学ぶ。(グループワーク)	15	小テスト(2) 9～14回までのまとめと小テスト					
8	小テスト(1) 1～7回までの旧約聖書による人間像についてのまとめと小テスト							
成績評価の方法・基準	2回の小テスト(80%)、毎回の授業の感想、および受講態度(20%)で評価する。							
留意事項	毎回、聖書を持参すること。 授業の進行状況によって、順番が入れ替わったり内容が少し変わったりする可能性もある。							
準備学習(予習・復習等)	次の授業で扱われる聖書の箇所を、事前に読んでおく。小テスト前にはそれまで習ったことをしっかりと復習して準備する。						必要時間:3時間	
課題のフィードバック	授業の振り返り(配布プリント)を中心に復習する。小テストの解答・解説は次の時間に行うので、理解できていなかった点を学びなおす。							
テキスト	「聖書」新共同訳(日本聖書協会) プリント配布							
参考書等	「信愛教育ガイドブック」久留米信愛短期大学							

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修/選択		担当者	
信愛教育 I Shin-Ai Education I		2年前期	演習	1	卒業必修 資格選択必修		宗教部長・他	
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7
		◎	○					
授業の目的	「キリストの教えに基づいた真の価値観と豊かな心を持って、社会の建設に貢献する人間を育成する」という本学の建学の精神を理解し、実践することによって、建学の精神を浸透させること、特に、信愛教育 I ではく愛と奉仕をテーマとして、ボランティア活動を体験し、愛と奉仕の精神を身につける。							
到達目標	1. <ボランティア>についての理解が深まる。 2. ボランティア活動の体験を通して、自己を他者に生かすことのすばらしさを味わう。 3. 愛と奉仕の精神が身につく。							
授業の概要	全学礼拝をもって授業を始める。<愛と奉仕>をテーマとし、学長講話、外部講師の講演等を通して「自己を他者に生かすこと」「愛と奉仕」「ボランティア活動を行うための心構え」を学び、グループワークで、ボランティア活動の準備と実践計画を立て、ボランティア活動を実践する。							
授業計画								
1	全学礼拝(聖歌・祈り・聖書朗読) 1. 授業ガイダンス 2. 2022 年度の年度目標についての説明	9	朝の祈り (小グループ活動) 「有意義な短大生活を送るために」 1・2年合同 分かち合い (グループワーク)					
2	朝の祈り 学友会活動 教職員紹介・クラブ紹介	10	全学礼拝 学友会活動 (定期総会) 一年間の学友会活動 について					
3	全学礼拝 聖母祭について 聖母祭聖歌練習	11	全学礼拝 講演:「ボランティアについて」 外部講師による講演					
4	聖母祭 (神の母聖マリアを讃える宗教行事) ① 講話: 「救い主の母」聖母マリアについて ② 聖母マリアを称える式	12	朝の祈り (小グループ活動) 「ボランティア活動①」 2～3人で活動について調べ、資料を作る (グループワーク)					
5	朝の祈り 学長講話 「自己を他者に生かす」	13	朝の祈り (小グループ活動) 「ボランティア活動②」 資料について発表を行い、小グループで 実践の日時、場所を決める (グループワーク)					
6	チャペル礼拝 学年・学科別活動 チャペルにて静かな祈りの一時を体験する	14	朝の祈り (小グループ活動) 「ボランティア活動③」 (グループワーク)					
7	朝の祈り 学科・学年・クラス別活動 「愛と奉仕」…愛に生きる(ビデオ鑑賞)	15	朝の祈り (小グループ活動) <ボランティア活動>実践の反省と感想 (グループワーク)					
8	朝の祈り 「安全について」 講演とビデオ鑑賞							
成績評価の方法・基準	受講態度(20%) ノート(35%) レポート(45%)を合わせて総合的に評価する。							
留意事項	積極的に参加し、ノート提出が求められるので、欠席しないこと。							
準備学習 (予習・復習等)	ノート等で前回学んだことを復習し、事前に全学礼拝で朗読される聖書の箇所を読むこと。						必要時間:45分	
課題の フィードバック	提出されたノートおよびレポートは採点し、コメントを記入し、次週の授業で返却、総評する。							
テキスト	「聖書」新共同訳 日本聖書協会、プリント配布							
参考書等	カトリック聖歌集、典礼聖歌集							

科目名		開講時期	授業形態			単位数	必修／選択		担当者	
信愛教育Ⅱ Shin-Ai Education Ⅱ		2年後期	演習			1	卒業必修 資格選択必修		宗教部長・他	
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8	
		◎	○							
授業の目的		「キリストの教えに基づいた真の価値観と豊かな心を持って社会の建設に貢献する人間を育成する」という本学の建学の精神を理解し、実践することによって、建学の精神を浸透させること、特に、信愛教育Ⅱでは、「人間の尊厳」をテーマとして、自己を他者に生かす隣人愛への実践の必要性を再認識する。								
到達目標		1. 人間は等しく尊い存在であることを理解するようになる。 2. 人間は神の似姿であることを知るようになる。 3. 人間の尊厳のために隣人愛が不可欠であることの理解が深まる。								
授業の概要		全学礼拝によって授業を始める。〈人間一人ひとりの存在の尊さ〉をテーマとし、学長講話、外部講師の講演やビデオ鑑賞等を通して、「人間は等しく尊い存在」「人間は神の似姿である」ことについて学ぶ。10月の練成会は〈人間の尊厳〉について祈り熟考する時をもつ。12月にクリスマス祭を行う。								
授業計画										
1	全学礼拝(聖歌・祈り・聖書朗読) 授業ガイダンス 練成会の聖歌練習			9	追悼祭 (亡くなられた恩人・親族・友人のために祈る) ① 講話 死について ② みことばの祭儀					
2	朝の祈り (クラス別活動) (ビデオ鑑賞) M・コルベ神父の生き方から「人間一人ひとりかけがえない尊い存在であること」を学ぶ			10	全学礼拝(聖歌・祈り・聖書朗読) 学長講話 「人間は等しく尊い存在」					
3	朝の祈り (クラス別活動) 担任・副担任の講話 「一人ひとりを大切にするとはいは」			11	全学礼拝 学友会活動 (定期総会) 学友会新総務委員長の選出等					
4	練成会(Ⅰ): テーマ 〈人間一人ひとり存在の尊さ〉 指導司祭による講話 (1)			12	全学礼拝 クリスマス祭について クリスマス・ミサのための聖歌練習					
5	練成会(Ⅱ): 指導司祭による講話 (2) グループワーク (分かち合い)			13	クリスマス祭 ① 講話: クリスマスについて ② クリスマス・ミサ					
6	練成会(Ⅲ): 各クラス内で、小グループの発表とまとめ クラス別発表と講評・みことばの祭儀			14	朝の祈り 理事長講話 「学院創立について」					
7	全学礼拝 学友会活動 (信愛祭に向けて) リーダーシップ・責任感・協調性を培う			15	朝の祈り(小グループ活動) 「人間の尊厳」についての講話・講演等をふまえて、各グループで討議し、各自でまとめる。(グループワーク)					
8	全学礼拝 追悼祭について 追悼祭の聖歌練習									
成績評価の方法・基準		受講態度(20%) ノート(35%) レポート(45%)を合わせて総合的に評価する。								
留意事項		積極的に参加し、ノート提出が求められるので、欠席しないこと。								
準備学習(予習・復習等)		ノート等で前回学んだことを復習し、事前に全学礼拝で朗読される聖書の箇所を読むこと。							必要時間:45分	
課題のフィードバック		提出されたノートおよびレポートは採点し、コメントを記入し、次週の授業で返却、総評する。								
テキスト		「聖書」新共同訳 日本聖書協会、プリント配布								
参考書等		カトリック聖歌集、典礼聖歌集								

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者		
信愛教育Ⅲ Shin-Ai Education Ⅲ		1年前期	演習	1	卒業必修 資格選択必修		宗教部長・他		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
		◎	○						
授業の目的	「キリストの教えに基づいた真の価値観と豊かな心を持って社会の建設に貢献する人間を育成する」という本学の建学の精神を理解し、実践することによって、建学の精神を浸透させること、特に、信愛教育Ⅲでは、＜賜物としての生命＞をテーマとして、キリストの教えに基づいた＜生命＞について理解する。								
到達目標	1. 人間に与えられた「賜物としての生命」を学ぶ。 2. 宗教・人種・性別・個性等の違いを認め合い、理解する。 3. 「共に生きる社会」を自覚できるようになる。								
授業の概要	全学礼拝をもって授業を始める。＜賜物としての生命＞について、学長講話、外部講師による講演、ビデオ鑑賞等を通して学び、また、「命の尊さ」について事例研究を各自で行い、発表しまとめをグループワークで行う。								
授業計画									
1	全学礼拝(聖歌・祈り・聖書朗読) 1. 授業ガイダンス 2. 2021年度の年度目標についての説明	9	朝の祈り (クラス別活動) 「有意義な短大生活を送るために」 1・2年合同 小グループ分かち合い						
2	朝の祈り 学友会活動 教職員紹介、クラブ紹介	10	全学礼拝 学友会活動 (定期総会) 一年間の学友会活動 について						
3	全学礼拝 聖母祭について 聖母祭の聖歌練習	11	全学礼拝 講演:「貧困や飢餓に苦しむ海外の子供たち」 (外部講師)						
4	聖母祭 (神の母聖マリアを讃える宗教行事) ① 講話:「神の母」聖マリアについて ② 聖母マリアを称える式	12	朝の祈り (小グループ活動) 生命の尊さについて 障害を持つ人々との共生						
5	全学礼拝 学長講話 「賜物としての生命」について	13	朝の祈り 生命の尊さについて③ 中絶・安楽死・自殺などの問題						
6	チャペル礼拝 学年・学科別に実施 チャペルにて静かな祈りの一時を体験する	14	全学礼拝 学友会活動 学生生活活性化のために						
7	朝の祈り (学年・学科・クラス別活動) 「安全について」 (講演とビデオ鑑賞)	15	朝の祈り (小グループ活動) 「賜物としての生命」についての講話・講演をふまえて各グループで討議し、各自でまとめる。(グループワーク)						
8	朝の祈り (クラス別活動) 生命の尊さについて① 戦争によって失われる命								
成績評価の方法・基準	受講態度(20%) ノート(35%) レポート(45%)を合わせて総合的に評価する。								
留意事項	積極的に参加し、ノート提出が求められるので、欠席しないこと。								
準備学習(予習・復習等)	ノート等で前回学んだことを復習し、事前に全学礼拝で朗読される聖書の箇所を読むこと。							必要時間:45分	
課題のフィードバック	提出されたノートおよびレポートは採点し、コメントを記入し、次週の授業で返却、総評する。								
テキスト	「聖書」新共同訳 日本聖書協会、プリント配布								
参考書等	カトリック聖歌集、典礼聖歌集								

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者	
信愛教育Ⅳ Shin-Ai Education Ⅳ		1年後期	演習	1	卒業必修 資格選択必修	宗教部長・他	
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6
		◎	○				
授業の目的	「キリストの教えに基づいた真の価値観と豊かな心を持って社会の建設に貢献する人間を育成する」という本学の建学の精神を理解し、実践することによって建学の精神を浸透させること、特に信愛教育Ⅳでは「世界平和」をテーマとし、本当の意味での「平和」について学び、実践することを目的とする。						
到達目標	1. キリスト教と平和の関係がわかるようになる。 2. 愛と正義が平和の支えであることを悟るようになる。 3. 平和のために、自己を他者に生かす生き方を実践するようになる。						
授業の概要	全学礼拝をもって授業を始める。「世界平和」をテーマとし、学長講話、担任・副担任講話、練成会、クリスマス祭等を通して、「平和への努力」、「コミュニケーションの大切さ」等を学ぶ。10月には「平和」について考え祈る練成会、11月には亡くなられた方々のための追悼祭、12月にクリスマス祭を行う。						
授業計画							
1	全学礼拝(聖歌・祈り・聖書朗読) 授業ガイダンス 練成会の聖歌練習		9	追悼祭(亡くなられた恩人・親族・友人のために祈る) ① 講話 死について ② みことばの祭儀			
2	朝の祈り ＜平和について＞ 平和へとつながる取り組みについて		10	全学礼拝 学長講話 「平和への努力」			
3	朝の祈り 担任・副担任の講話 「コミュニケーションの大切さ」について		11	全学礼拝 学友会活動(定期総会) 学友会新総務委員長の選出等			
4	練成会(Ⅰ): テーマ ＜平和＞ 指導司祭による講話(1)		12	全学礼拝 クリスマス祭について クリスマス・ミサのための聖歌練習			
5	練成会(Ⅱ): 指導司祭による講話(2) グループワーク(分かち合い)		13	クリスマス祭 ① 講話: クリスマスについて ② クリスマス・ミサ			
6	練成会(Ⅲ): 各クラス内で、小グループの発表とまとめ クラス別発表と講評・みことばの祭儀		14	朝の祈り 理事長講話 「学院創立について」			
7	全学礼拝 学友会活動(信愛祭に向けて) リーダーシップ・責任感・協調性を培う		15	朝の祈り(小グループ活動) 「平和」についての講話・講演をふまえて、討議し、各自でまとめる。 (グループワーク)			
8	全学礼拝 追悼祭について 追悼祭の聖歌練習						
成績評価の方法・基準	受講態度(20%) ノート(35%) レポート(45%)を合わせて総合的に評価する。						
留意事項	積極的に参加し、ノート提出が求められるので、欠席しないこと。						
準備学習(予習・復習等)	ノート等で前回学んだことを復習し、事前に全学礼拝で朗読される聖書の箇所を読むこと。					必要時間:45分	
課題のフィードバック	提出されたノートおよびレポートは採点し、コメントを記入し、次週の授業で返却、総評する。						
テキスト	「聖書」新共同訳 日本聖書協会、プリント配布						
参考書等	カトリック聖歌集、典礼聖歌集						

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修/選択	担当者			
英語 I English I	1年前期	演習	1	卒業選択必修 免許・資格選択必修	緒方 登美恵			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎						
授業の目的	自分の言いたいことを簡単な英語で伝えることができる力を身に付ける。また、日常生活で使用する物や日常の動作を英語で表現できるようになる。英語を通して欧米の文化を知るとともに、英語でのコミュニケーションの楽しさを知る。							
到達目標	1. 簡単な英語を聞き取れるようになる。 2. 日常生活と結びついた身近な単語・語彙が増え、表現が豊かになる。 3. 簡単な英語を用いてコミュニケーションができるようになる。							
授業の概要	毎時間ペアワークやグループワークで会話練習を行い、楽しみながら英語を習得する。身近な物の名前や日常生活を英語で表現する。リスニング問題を通して簡単な英語の聞き取りも行う。また、英語の歌なども通して英語に親しむ。							
授業計画								
1	オリエンテーション 互いの名前を知り、紹介し合う。 Celebrity Quiz	9	Leisure Activities and Places 趣味や休みの時にすることを英語で表現する。 Can you ~?できることを尋ねたり、伝えたりする。					
2	友だちの情報を集め、紹介する。 Where are you from? What's your email address?	10	Talking about the Kitchen キッチンで使うものの名前を知る。 どこにあるか場所を英語で表現する。					
3	Family Family Tree を作成し、家族を紹介する。 写真の人物を紹介する。	11	Food キッチン用品や食材を英語で表現する。 食品や物の数や量を英語で表現する。					
4	身近の物の名前を英語で尋ねたり答えたりする。 What's this? / What are these? お気に入りのものを伝える。	12	Likes and Dislikes 食べ物の好き嫌いを英語で表現する。 友だちの好き嫌いをインタビューする。					
5	My Routine ① 登校手段を英語で表現する。 英語で時間を聞き取ったり、伝えたりする。	13	At a Restaurant レストランで注文する。レストランを予約する。 「ドレミの歌」を歌う。					
6	My Routine ② 自分の日常生活を英語で表現する。 起床から登校までにすることを英語で表現する。	14	Cooking 調理に関する英語を知る。 材料やレシピを英語で表現する。					
7	My Weekend 週末の予定や online ですることを英語で伝える。 「きらきら星」を歌う。	15	第2回小テスト 第9週～第14週までの授業内容のテストを行う。					
8	第1回小テスト 第1週～第7週までの授業内容を参考に、自己紹介文を作成し、発表する。							
成績評価の方法・基準	受講態度・会話練習(40%)、小テスト(20%)、発表(20%)、提出物(20%)で総合評価する。							
留意事項	積極的に会話練習をし、配布されたプリントは毎回持参すること。							
準備学習 (予習・復習等)	習った英語を使って友だちと会話練習をする。						必要時間:45分	
課題の フィードバック	提出物には適宜コメントを添え、次の時間に返却する。							
テキスト	毎時間プリントを用意する。							
参考書等	適宜紹介する。							

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者	
英語Ⅱ English Ⅱ		1年後期	演習	1	卒業選択必修 免許・資格選択必修		緒方 登美恵	
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7
			◎					
授業の目的	日本を訪れる外国人と、あるいは外国へ旅行した時に現地の人と積極的に英語でコミュニケーションをとることができるようになる。英語を用いた豊かな表現ができるようになる。また、欧米の祝日の祝い方なども知り、異文化理解を深める。							
到達目標	1. 簡単な英語を聞き取り、発音できるようになる。 2. 日常生活と結びついた身近な単語・語彙が増え、表現が豊かになる。 3. 英語を用いて積極的にコミュニケーションをとることができるようになる。							
授業の概要	毎時間ペアワークやグループワークで会話練習を行い、楽しみながら英語を習得する。英語の歌や絵本、簡単な英語のクイズのワークシートなども用いて英語に親しむ。リスニング問題を用いて、英語で様々な情報を聞き取る練習をする。							
授業計画								
1	How much is it? 英語で値段を聞き取り、言うことができる。 買い物をする。	9	第1回小テスト 第1週～第8週までの授業内容のテストを行う。					
2	Jobs 職業を表す英語を知る。英語で職業を尋ねる。 電話での表現を知る。	10	英語の絵本を読む。 “Three Little Pigs”や“The Hare and the Tortoise”など。					
3	In the neighborhood 場所を表す英語を知る。 近所にどのような場所があるか英語で表現する。	11	英語の絵本を読む。 “The very Hungry Caterpillar”ほか。					
4	In the neighborhood 場所や行き方を尋ねる。 場所や方向を表す英語を聞き取り、使ってみる。	12	第2回小テストに向け、グループで準備をする。 絵本の選択、役割分担、音読練習などを行う。					
5	What are you doing? 現在進行形を用いて、今していることを英語で伝える。 何をしているか尋ねる。	13	第2回小テストに向け、グループで準備をする。 音読練習、小道具作成などを行う。					
6	What did you do last weekend? 過去形を用いて週末にしたことを英語で伝える。 グループで互いに何をしたら聞いたか答えたりする。	14	第2回小テストに向け、グループで準備をする。 音読練習、小道具作成などを行う。					
7	Simple past Wh- questions 疑問詞を用いて様々な情報を得る。 旅行に行った友人にインタビューをする。	15	第2回小テスト グループで選んだ英語の絵本を紙芝居や演劇の形で発表する。					
8	Travel experiences 空港や機内での英会話 “Head, Shoulders, Knees and Toes”歌う。							
成績評価の方法・基準	受講態度・会話練習(40%)、小テスト(30%)。発表(20%)、提出物(10%)で総合評価する。							
留意事項	積極的に会話練習をし、配布されたプリントは毎回持参すること。							
準備学習 (予習・復習等)	習った英語を使って友だちと会話練習をする。発表に向けて英語を暗唱する。						必要時間:45分	
課題の フィードバック	提出物には適宜コメントを添え、次の時間に返却する。							
テキスト	毎時間プリントを用意する。							
参考書等	適宜紹介する。							

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者			
英語Ⅲ English Ⅲ	2年前期	演習	1	卒業選択必修 資格選択必修				
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎						
授業の目的	グラマー(文法)、リーディング、リスニングの3つのセクションで構成された総合英語のテキストを用い、グラマーでは英文構成力を養い、リーディングにおいて内容理解につながる文法力をめざす。リスニングでは英語を英語の語順のまま、聞きながら内容を理解していく力を習得する。							
到達目標	1. 文法によって、英文構成力が高まる。 2. リーディングによって、内容理解と把握力を身につける。 3. リスニングによって、聞いて理解する力がつく。							
授業の概要	ART, Job Hunting, Shopping などの内容を通して、主語、動詞、目的語、補語について確認を行う。 Reading Section では求人広告や説明文などの読み方のポイントを学ぶ。Listening Section ではユニットのタイトルに準じた英問英答の練習問題を Group Work で行う。							
授業計画								
1	Unit 1. ART (1) 1. 文の構成一語・句・節・文 2. 基本的な英文の構造	9	Unit 3. Job Hunting (2) 2. 練習問題 3. <求人・履歴書>を読むポイント 4. 「求人広告」「募集」「履歴書」を読む					
2	Unit 1. ART (2) 3. 練習問題 4. 英文の構造を理解するポイント	10	Unit 3. Job Hunting (3) 5. プリントを用いて Group Work 6. 「Job Interview」の Listening					
3	Unit 1. ART (3) 5. 画家・ブルーゲルについての英文を読む。 6. プリントを用いて Group Work	11	Unit 4. Historical Figures (1) 1. <補語>になるもの 名詞・代名詞・分詞・名詞句・名詞節					
4	Unit 2. Fairy Tales (1) 1. 「主語」と「主部」の区別 2. 主部となるパターン	12	Unit 4. Historical Figures (2) 2. 練習問題 3. <歴史上の人物に関する英文>を読むポイント					
5	Unit 2. Fairy Tales (2) 3. 練習問題 4. <物語>を読むときのポイント	13	Unit 4. Historical Figures (3) 4. 「A GREAT INVENTOR」を読む 5. プリントを用いて Group Work					
6	Unit 2. Fairy Tales (3) 5. 「The Snow Queen」の Reading & Listening 6. プリントを用いて Group Work	14	Unit 1～Unit 4 までの総復習					
7	Unit 1～2 の復習 <第1回 小テスト(Unit 1～2 の範囲)>	15	Unit 3～4 の復習と質問 <第2回 小テスト Unit 3～4>					
8	Unit 3. Job Hunting (1) 1. <目的語>になるもの一名詞・名詞句・名詞節							
成績評価の方法・基準	小テスト70% 受講態度20% 提出物10% の総合評価							
留意事項	テキスト、ノート、辞書は各自毎時間持参すること。							
準備学習(予習・復習等)	前回学んだことを復習し、事前に次の範囲のテキストに目を通し、何を学ぶかを把握しておくこと。						必要時間:45分	
課題のフィードバック	小テストは採点して、次週の授業で返却し、総評する。							
テキスト	「Power-up English <Intermediate>」 JACETリスニング研究会 南雲堂							
参考書等	「英文法 ビフォー・アフター (普及版)」 豊永 彰著 南雲堂							

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者			
英語Ⅳ English IV	2年後期	演習	1	卒業選択必修 資格選択必修				
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎						
授業の目的	グラマー(文法)、リーディング、リスニングの3つのセクションで構成された総合英語のテキストを用い、グラマーでは英文構成力を養い、リーディングにおいて内容理解につながる文法力をめざす。リスニングでは英語を英語の語順のまま、聞きながら内容を理解していく力を習得する。							
到達目標	1. 文法によって、英文構成力と英作文力が高まる。 2. リーディングによって、内容理解と把握力が深まる。 3. リスニングによって、聞いて理解する力が速くなる。							
授業の概要	LOVE, SHOPPING, ENTERTAINMENT などの内容を通して、動詞の種類と働き、修飾語句等について学習する。Reading Section では手紙文・広告文・説明文等の読み方のポイントを学ぶ。Listening Section ではユニットのタイトルに準じた英問英答の練習を Group Work で行う。							
授業計画								
1	Unit 5. Love (1) 1. <基本5文型>の復習。 2. 第5文型のポイント	9	Unit 7. Shopping (2) 2. 練習問題 3. <説明文>を読むときのポイント					
2	Unit 5. Love (2) 3. 練習問題 4. <手紙文>を読む時のポイント	10	Unit 7. Shopping (3) 4. <E-Money>についての説明文 5. Listening to the conversation					
3	Unit 5. Love (3) 5. <英文の手紙>を読む Group Work 6. Listening to the love letter	11	Unit 8. Entertainment (1) 1. <修飾語になるもの(1)>句レベルの修飾語 2. 修飾語句の主なタイプ					
4	Unit 6. Health (1) 1. <動詞(1)>—完了時制— 2. 動詞句	12	Unit 8. Entertainment (2) 3. 練習問題 4. <日本語に訳さずに読む>ポイント					
5	Unit 6. Health (2) 3. 練習問題 4. <広告>を読むときのポイント	13	Unit 8. Entertainment (3) 5. <An amusement park> 英文を前から読む練習 6. プリントを用いて Group Work					
6	Unit 6. Health (3) 5. <At Jim's Gym>の広告を読む 6. プリントを用いて Group Work	14	Unit5~Unit8 までの総復習					
7	Unit 5~6 の復習 <第1回 小テスト(Unit 5~6 の範囲)>	15	Unit7~8 の復習と質問 <第2回 小テスト Unit7~8>					
8	Unit 7. Shopping (1) 1. <動詞(2)>—知覚動詞、使役動詞—							
成績評価の方法・基準	小テスト70% 受講態度20% 提出物10% の総合評価							
留意事項	テキスト、ノート、辞書は各自毎時間持参すること。							
準備学習(予習・復習等)	前回学んだことを復習し、事前に次の範囲のテキストに目を通し、何を学ぶかを把握しておくこと。						必要時間:45分	
課題のフィードバック	小テストは採点して、次週の授業で返却し、総評する。							
テキスト	「Power-up English <Intermediate>」 JACETリスニング研究会 南雲堂							
参考書等	「英文法 ビフォー・アフター (普及版)」 豊永 彰著 南雲堂							

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修/選択	担当者			
英語Ⅴ English Ⅴ	別に示す	演習	1	卒業選択必修 資格選択必修	教務部			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎						
授業の目的	アメリカテキサス州アビリーンクリスチャン大学(ACU)における語学研修やアメリカ文化のプログラムに参加することで、実用英会話の基礎を修得すると同時に、大学寮に滞在し、他国の留学生と文化交流を図ることで、異文化コミュニケーション力を養う。							
到達目標	1. 実用英会話の基礎を修得する。 2. アメリカの文化を知る。 3. 異文化コミュニケーションの素養を培う。							
授業の概要	姉妹校であるアメリカテキサス州アビリーンクリスチャン大学(ACU)において、実用英会話ならびにアメリカ文化、異文化コミュニケーションなどを学ぶ。授業は、本学生(研修生)対象のプログラムと貴大学の授業に参加するものがある。							
授業計画								
<p>研修期間：3週間(2月下旬～3月予定)</p> <p>研修先：アメリカテキサス州アビリーンクリスチャン大学および大学寮</p> <p>費用：30～33万円程度(授業料・滞在費・食費・旅費含む)</p> <p>研修内容：実用英会話・アメリカ文化・異文化コミュニケーションなど</p>								
成績評価の方法・基準	現地スタッフの評価による。							
留意事項	海外研修の募集や申込締切などに注意すること。 研修先の都合等、経済状況、世界の情勢により、不開講になる可能性がある。 受講生が10名未満の場合は、原則として開講しない。							
準備学習 (予習・復習等)	研修中は事前にテキストに目を通し授業に臨み、授業後は反復練習すること。						必要時間:45分	
課題の フィードバック	未定							
テキスト	研修先の指定テキストを使用する。							
参考書等	研修先において、指示される。							

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修/選択	担当者			
フランス語Ⅰ French I	1年前期	演習	1	卒業選択必修 免許・資格選択必修	堺 富美子			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎						
授業の目的	基礎的なフランス語を、特に会話を中心に学んでいく。ABCからはじめ、発音の基礎を学び、フランス語で外国人とコミュニケーションをする方法や、旅行などで使えるフランス語を学ぶ。フランス文化についても学ぶ。フランス語を学ぶことによって、異文化を理解する力と、英語でも通用するコミュニケーション力をつけることができる。							
到達目標	1. フランス語の音や表現に慣れる。 2. 簡単な会話を耳で聞いて理解する。 3. 簡単な日常会話を使うことができる。							
授業の概要	まずはフランス語の発音や表記に慣れるように、フランス語の歌なども取り入れながら学んでいく。グループワークで発音練習や身近な日常の会話表現などを、実践的に学ぶ。会話を練習する中で、簡単な文法も、必要に応じて少しずつ理解する。スライドやDVDも使い、具体的な会話の場面や、旅行でも役立つ文化を学んでいく。							
授業計画								
1	概論 フランス語で挨拶をする 母音の発音 グループワーク フランスについてのクイズ 4月の魚!?	9	兄弟はいますか？ ペットを飼っていますか？ 三人称 彼は 彼女は ～です グループワーク フランス語の歌『雨のしずく』					
2	アルファベ tuと vous の違い 綴り字記号 みんなが見つけたフランス語 グループワーク フランス語の歌『フレールジャック』	10	三人称を使う グループワーク 彼・彼女は～です ～ではありません フランスのお菓子					
3	自分の名前・出身 国籍を言う 名詞の男性形・女性形 フランスの建築物 グループワーク フランス語の歌『飛べ、飛べ、ちょうちょ』	11	三人称を使って会話する avoir を使った表現「持っています」 冠詞 カフェで注文する ① グループワーク					
4	自己紹介をする グループワーク 相手の出身や国籍を聞く 職業を言う フランスの食べもの	12	不定冠詞「持っていますか？」 数字11～20まで 年齢を言う 自分と家族の年齢をいう カフェで注文する ② グループワーク					
5	否定文 ～ではありません ～に住んでいます フランスの美術館 グループワーク フランス語の歌『ドレミの歌 ノミバージョン』	13	定冠詞 カフェで足りないものをたのむ グループワーク フランス語の歌『アヴィニヨンの橋の上で』					
6	あなたは～に住んでいますか？ 住んでいません habiter(住む)のまとめ 数字1～10まで グループワーク フランスの不思議 ①	14	aimer を使った表現 グループワーク 私は～が好き あなたは～が好きですか？ 好きではありません レストランで注文する					
7	中間の小テスト 会話テスト:自己紹介をする	15	前期のまとめ グループワーク フランスの夕食 カフェの食べ物 フランス人との会話のコツ					
8	テストの復習 グループワーク 兄弟姉妹について話す 兄弟がいます、いません 『ドレミの歌～女の子バージョン』							
成績評価の方法・基準	会話テスト50%、平常点(受講態度と会話練習)50%で総合評価する。							
留意事項	フランス語だけでなく、フランスについて、様々なところで興味を持ってほしい。							
準備学習 (予習・復習等)	講義で習ったフランス語を使って、友だちと会話練習をする。						必要時間:45分	
課題の フィードバック	毎時間の最後に提出するプリントは、綴りなどをチェックして、次の時間に返却する。							
テキスト	毎時間プリントを配布する。							
参考書等	仏和辞典(電子辞書可) 出版社は問わない。古い物でも構わない。							

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者			
フランス語Ⅱ FrenchⅡ	1年後期	演習	1	卒業選択必修 免許・資格選択必修	堺 富美子			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎						
授業の目的	少し発展した内容のフランス語を、会話を中心に学ぶ。簡単な会話でコミュニケーションをとり、買い物ができるレベルまで。前期同様、会話に必要な文法も少しずつ理解する。フランス語を学ぶことで生まれた興味をつなげ、フランス文化への理解を深める。フランス語を習得するために学んだやり方を、英語やその他の事を学ぶのに応用できるようになる。							
到達目標	1. フランス語を耳で聞いて理解する。 2. フランス語の表現を文法的に理解し、習得する。 3. フランス語でコミュニケーションをとることができる。							
授業の概要	前期に引き続き、少し発展した内容を、会話を中心に学んでいく。レストランやカフェで注文をしたり、簡単な買い物したりできるレベルまで、スライドやDVDなど具体的な教材を使い、グループワークで実践的に学ぶ。発音練習もかねて、フランス語の歌も取り入れる。フランス文化についても学び、実際にフランス人と話すことを想定して学ぶ。							
授業計画								
1	前期の復習 グループで自己紹介 レストランで注文をする フランスの秋 フランス語の歌『オーシャンゼリゼ』	9	中間の会話テスト 市場で買い物をする事ができる					
2	数字の復習 oùを使った疑問文 グループワーク パリの成り立ち 街を歩く 地図や標識を読む	10	テストの振り返り 動詞を覚える Je peux (～しても良いですか) 店で試着させてもらう表現 グループワーク フランス語の歌『きよしの夜』					
3	パリの街を歩く 公園 森 〇〇を探しています グループワーク	11	時間の表現 看板の営業時間を読む 曜日を覚える 動詞 グループワーク フランスのクリスマス					
4	Qu'est-ce que c'est? これは何ですか 定冠詞と不定冠詞 野菜のフランス語 おいしいね! グループワーク 市場に行く 市場の値札など	12	aller à (～に行く) あなたは～に行きますか? 定冠詞の縮約 地下鉄やバスに乗る グループワーク フランス語の歌『ヒバリ』					
5	Qui est-ce? 誰ですか? 人を表す形容詞 市場に行く 欲しいものを言う グループワーク フランス語の歌『キャベツの植え方』	13	Tu travailles? (アルバイトしてますか?) C'est comment? どうですか? グループワーク ～に行きたいのですが					
6	Il est comment? どんな人ですか? 三人称 フランスの市場について 11～20までの数字 市場でお金を払う言い方 グループワーク	14	Qu'est-ce que tu manges? 何を食べますか? 部分冠詞 フランスの結婚式と結婚観について グループワーク フランス語の歌『月明かりに』					
7	Je voudrais ～ ～がほしいです 形容詞の性数一致 C'est combine? いくらですか グループワーク フランス語の歌『小さなお船があったよ』	15	後期のまとめ 疑問詞 グループワーク 相づちの会話表現 朝ご飯に食べるもの、飲むもの フランスのホームパーティーに行くときは…					
8	色をあらわす形容詞 値段の聞き取り ユーロについて グループワーク スーパーマーケット							
成績評価の方法・基準	会話テスト50%、平常点(受講態度と会話練習)50%で総合評価する。							
留意事項	フランス語だけでなく、フランスについて、様々なところで興味を持ってほしい。							
準備学習(予習・復習等)	講義で習ったフランス語を使って、友だちと会話練習をすること。						必要時間:45分	
課題のフィードバック	毎時間の最後に提出するプリントは、綴りなどをチェックして、次の時間に返却する。							
テキスト	毎時間プリントを配布する。							
参考書等	仏和辞典(電子辞書可)出版社は問わない。古い物でも構わない。							

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者	
生活とスポーツ I Life and sports I		1年前期	講義	1	卒業必修 免許・資格必修		新井 真実	
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7
			◎		○			
授業の目的	近年の子どもたちをとりまく社会を概観すると、遊ぶ空間・仲間・時間の減少、交通事故や犯罪への懸念などが、体を動かして遊ぶ機会の減少を招いている。本授業では、子どもたちが抱える健康問題や、保育・教育現場におけるニーズを考慮した上で、子どもの心と身体の健康づくりのあり方、基本理念について学ぶ。							
到達目標	1. 現代の子どもたちの生活をとりまく、健康・運動面の状況と問題点を学ぶ。 2. 幼児体育実践に必要な、基礎的な理論や知識を身につける。 3. 子どもの健康・運動に関わる身近なニュースについて、保育者としての視点をもち考察する。							
授業の概要	都市化や少子化の進展による社会環境や人々の生活様式の変化、それらがもたらす子どもたちの健康問題について理解する。その上で、今日の保育・教育現場に求められる体育(幼児体育)のあり方、基本理念について学ぶ。グループディスカッションを通じて、更に考察を深めていく。							
授業計画								
1	オリエンテーション 近年の子どもからのからだの異変とその対策 ・遅い就寝、生活リズムの乱れ、増える体温異常 等			9				
2	子どもの生活と運動 ・心地よい空間、ガキ大将の役割、運動量の確保 等			10				
3	子どもの発達と運動 ・乳児期の発育発達と運動、反射、発達の順序性 等			11				
4	幼児体育とは ・体育あそびと運動あそび、幼児体育のねらい 等 小テスト①			12				
5	運動発現メカニズム ・意識的運動(随意運動)、運動技術上達のプロセス 等			13				
6	幼児体育指導上の留意事項 ・子どもとの関わりで配慮する点、用具の理解について 等			14				
7	運動と安全管理 ・運動時に起こりやすいけがや病気、応急処置の基本 等 小テスト②			15				
8	まとめ							
成績評価の方法・基準	受講態度・姿勢40%、小テスト40%、提出物20%を原則とし、総合評価する。							
留意事項	理解と考察を深めるため、授業内のディスカッションに積極的に取り組むこと。							
準備学習(予習・復習等)	取り扱うテーマについて、予めテキストの該当箇所を読み、疑問点を明らかにしておくこと。また、授業後には関連する参考書や新聞記事等を読み、考察を深めること。						必要時間:3時間	
課題のフィードバック	提出された課題は添削・採点し、学期末に各人に対してフィードバックを行う。							
テキスト	「幼児体育 理論と実践 初級 第4版 日本幼児体育学会 編」前橋明ほか著 大学教育出版							
参考書等	授業内で適宜紹介する。							

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修/選択	担当者			
生活とスポーツⅡ Life and SportsⅡ		1年通年	実技	1	卒業必修 免許・資格必修	新井 真実			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
			◎	○	○				
授業の目的	子どもの運動能力は、画一的な運動指導や習い事よりも、のびのびとした自由あそびの中で向上することが実証されている。本授業では、からだあそびのレパートリー、あそび方の工夫やバリエーションづくりのヒントを習得することで、子どもたちの健康・体力づくりを、楽しみの中で促すためのスキルを総合的に学習する。								
到達目標	1. 動くことの楽しさ、仲間といっしょに遊ぶことの楽しさを味わう。 2. 保育・教育現場において活用できる、体育・運動あそびのレパートリーを学ぶ。 3. 指導・援助に必要なコミュニケーション・スキルを身につける。								
授業の概要	各回テーマに沿ったからだあそびのバリエーションに触れ、状況を捉えアレンジできる応用力を養う。また、子どもの主体性を引き出しながら、共に挑戦し楽しむ、共有型の援助的サポートを体得していく。試験は、運動あそびの計画・設営・模擬保育形式による発表(グループ)と、リズム種目の実技試験(個人)とする。								
授業計画									
1	オリエンテーション	17	運動会種目 表現・リズム種目 ーリズム体操・ダンス(2)						
2	準備運動 ー子どもと楽しむストレッチ・ウォームアップ	18	運動会種目 表現・リズム種目 ーリズム体操・ダンス(3)						
3	からだを使った体育あそび ー用具を使わない体育あそび	19	運動会種目 表現・リズム種目 ーリズム体操・ダンス(4)						
4	用具を使った体育あそび ー平均台あそび 等	20	運動会種目 表現・リズム種目 ーリズム体操・ダンス(5)						
5	用具を使った体育あそび ーフープあそび 等	21	復習とまとめ 実技試験(2)の課題発表・説明						
6	用具を使った体育あそび ー縄あそび 等	22	実技試験(2) ー個人による実技試験						
7	用具を使った体育あそび ーマットあそび 等	23	講評とまとめ						
8	用具を使った体育あそび ーバルーンあそび 等								
9	復習とまとめ 実技試験(1)の課題発表・説明								
10	実技試験(1)に向けたグループワーク①								
11	実技試験(1)に向けたグループワーク②								
12	実技試験(1) ーグループ発表								
13	講評とまとめ								
14	運動会種目 競技種目 ーかけっこ・障害物競争 等								
15	運動会種目 レクリエーション種目 ー親子競技・ダンス等								
16	運動会種目 表現・リズム種目 ーリズム体操・ダンス(1)								
成績評価の方法・基準	受講態度・姿勢50%、実技試験30%、レポート20%を原則とし、総合的に評価する。								
留意事項	腕時計・アクセサリ類は外し、長い髪の毛は束ね、動きやすく危険のない身なりを整えること。 自ら積極的に楽しみ、グループワークが円滑にできるよう心掛けること。								
準備学習(予習・復習等)	授業冒頭に当番制で行う「からだあそび紹介」について、予めグループで調べ、所定の様式に沿って計画を立て、進行の練習をした上で当日に臨むこと。							必要時間:指定せず	
課題のフィードバック	実技試験は授業内で実施し、並行して採点、講評を行う。								
テキスト	プリント資料								
参考書等	授業内で適宜紹介する。								

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修/選択		担当者	
情報科学 Computer Science		1 年前期	講義	2	卒業選択 免許必修		眞部 真紀子	
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7
						◎		○
授業の目的	ネットワーク社会の現代において、保育者にもパソコンスキルが求められている。現場では、保育活動以外の時間は限られているので、事務作業を効率よく進めることが必要となる。本科目は、そのためのスキルを習得することを目的とする。							
到達目標	1. クラウドサービス Office365 で情報共有ができる。 2. Wordによるさまざまな文書作成およびそれに合わせたページ設定ができる。 3. PowerPointによるスライド作成およびプレゼンテーションができる。							
授業の概要	ネットワーク社会の現代に不可欠なクラウドサービス操作やインターネットについて学習する。Wordでは保護者向けの文書や園だよりを作成し、Excelでは名簿管理と宛名ラベルの印刷、PowerPointで、保護者向けなどのスライドを作成する。課題提示や提出は Office365 の機能を利用し、学外でも学習できるようにする。							
授業計画								
1	Office365 ユーザー登録・ログイン設定を行い、基本操作を学ぶ。 (1回目は履修しない学生も出席すること)	9	Excel の基本操作 セルの書式とコピーを理解する。 簡単なグラフ作成ができるようになる。					
2	Windows の基本操作、フォルダとファイルの管理。 キーボード・マウス操作と日本語入力に慣れる。	10	Excel の基本操作 データベース機能を使ったデータ管理 差し込み印刷機能を理解する。					
3	Word の基本操作 ページ設定を理解する。文字列の書式設定、段落設定を学習し、印刷と保存ができるようになる	11	PowerPoint の基本操作 スライドレイアウトの種類とスライド作成の基本を理解する。					
4	Word の基本操作 表の作成と編集を学習する。いろいろな種類の表を作り、理解を深める。	12	PowerPoint の基本操作 オブジェクトの挿入とアニメーション設定の基本を理解する。					
5	Word の基本操作 図形の挿入と編集を学習する。図形と文字列の操作に慣れる。	13	各自のテーマでスライドを作成する PowerPoint の基本操作に慣れ、スライド作成の理解を深める					
6	【課題】 Wordによる「園だより」の作成	14	作成したスライドを使ってプレゼンテーションを行う。 【発表】と【作成スライド】					
7	【Wordの文書作成問題】 これまで学習した内容に理解度を確認するため文書作成の問題を行う。	15	作成したスライドを使ってプレゼンテーションを行う。 【発表】と【作成スライド】					
8	Excel の基本操作 ワークシートへのデータ入力と操作 作表と簡単な計算を学習する。							
成績評価の方法・基準	【課題】(20%)、【Wordの文書作成問題】(25%)、【発表】(20%)、【作成スライド】(25%)、学習態度・意欲(10%)を合わせて評価する。							
留意事項	文字入力が苦手な学生は、空き時間を利用して練習すること。 他の授業のレポートなど、多くの文書作成をする機会を作るようにすること。							
準備学習 (予習・復習等)	授業で行ったパソコン操作を次週までにもう一度行なう。授業時間の作業が終わらなかった学生は、空き時間を利用し完成させる。						必要時間:3時間	
課題の フィードバック	【課題】は次週に解説し、【Wordの文書作成問題】は回答を回収後に解説を行う。【発表】は授業内にコメントする。							
テキスト	「保育者のためのパソコン講座」阿部正平他、萌文書林							
参考書等	「情報リテラシー アプリ編」富士通エフ・オー・エム株式会社著・制作、FOM出版							

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者			
キャリアガイダンスⅠ Career GuidanceⅠ		1年通年	演習	1	卒業選択 資格選択必修	園田 和江・他			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
			◎					○	
授業の目的	初年次教育として、大学教育に必要とされる学修リテラシー(情報の収集・分析、文章の読解・表現、課題の発見・解決、学習計画の立案・実行、大学生生活一般におけるPDCAサイクルの確立等)を身に付ける。また、キャリア教育として、自らの職業観や将来像を確認し、資格を生かした業種・職種への理解を進める。								
到達目標	1. 大学教育の意義を理解し、大学教育を受ける方法を身に付け、積極的に取り組む態度を確立する。 2. 大学教育と就業に関する意識を持ち、目指す保育者像を考えることができる。 3. 卒業後の進路を見据え、どのような知識・能力が求められるのかを理解できる。								
授業の概要	通年で15回の授業を通して、就業力および社会人基礎力について学習する。教科担当の他に、就職部教職員や実務経験者等の特別講師等とも連携した授業の中で、上級生や卒業生との交流、グループディスカッション等のアクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、職業観を醸成する。								
授業計画									
1	オリエンテーション 進路希望調査(1回目) 「職務適性テスト」受験	9	進路希望調査(2回目) 現場で求められる人材について(ポートフォリオ作成) (クリッカー活用の双方向型授業)						
2	学修リテラシーの習得(1) レポート作成の基本的なルール 文章の読解・表現の仕方	10	保育職の職業観 特別講師(実務経験者)による講話 「保育者として働くということ」						
3	キャリア形成(1) 「職務適性テスト」の解説 結果を基に自分の進路について考える	11	キャリア形成(3) 内定者による就職内定報告会						
4	進路決定に向けての課題(レポート提出) ポートフォリオを活用したレポート作成と提出 身だしなみ講座(リクルートスーツ)	12	就職試験対策講座(1) 履歴書の内容・書式						
5	学修リテラシーの習得(2) 特別講師講話 「新聞の読み方や文章表現について」	13	就職試験対策講座(2) 履歴書作成						
6	キャリア形成(2) 特別講師講話「職業意識」 学生と社会人の違い、働くことの意義について	14	キャリア形成(4) 卒業生による講話・懇談(グループワーク)						
7	保育職の職業観(1) 特別講師(実務経験者)による講話 「保育者に求められる資質」	15	進路決定への取り組みを振り返る(レポート提出) ポートフォリオを活用したレポートの作成と提出						
8	保育職の職業観(2)(レポート提出) 「保育者に求められる資質」								
成績評価の方法・基準	授業内課題60%、レポート・履歴書提出20%、受講態度・姿勢20%で評価する。								
留意事項	授業に日時・場所等は変更になることがあるので、掲示をよく確認すること。 再試験は実施しない。								
準備学習(予習・復習等)	事前にその範囲のテキストに目を通した上で授業に臨み、不明な点は、できるだけ授業時間内に質問して解決すること。また復習して理解を深めるようにすること。							必要時間:45分	
課題のフィードバック	提出されたレポートは添削して返却し総評する。								
テキスト	「キャリア形成支援BOOK」久留米信愛短期大学キャリア形成支援推進室								
参考書等	適宜、紹介する。								

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者		
キャリアガイダンスⅡ Career Guidance Ⅱ		2年通年	演習	1	卒業選択 資格選択必修		増田 吹子・他		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
			◎					○	
授業の目的	「キャリアガイダンスⅠ」で培った職業観・労働観および生き方や生活のあり方を土台に、自らの個性・能力を認識し、把握した上で、卒業後の進路を自らの責任で選び、自己実現を目指すための社会的・職業的自立を支える就業力を育成することを目的とする。								
到達目標	1. 自分のキャリア形成においてどのような知識・技能が必要になるかを理解する。 2. 社会人また保育者として求められる水準に対応できる各種能力を身に付ける。 3. 就職先の内定を得た上で、社会人・保育者として働くにあたって必要となる姿勢・態度を身に付ける。								
授業の概要	通年で15回の授業を通して、就業力および社会人基礎力について学習する。教科担当者の他に、就職部教職員や実務経験者等の特別講師等とも連携した授業の中で、他学科との合同受講や、グループディスカッション等のアクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、社会的・職業的自立を目指す。								
授業計画									
1	オリエンテーション・進路希望調査(3回目) 就職活動の目標を考える ポートフォリオを活用したレポートの作成と提出①	9	進路希望調査(4回目) 現場で求められる人材について(クリック活用) ポートフォリオを活用したレポートの作成と提出②						
2	キャリア形成(1) 特別講師講話 「就職の現状について」	10	スタートアップセミナー(1) 特別講師講話 「労働法について」						
3	キャリア形成(2) 特別講師講話(施設・園の人事担当者) 「就職活動の実際・施設の概要・求められる資質等」	11	スタートアップセミナー(2) 特別講師講話 「卒業後の家計管理」						
4	就職試験対策講座 特別講師講話・演習 「就職活動を始めるにあたっての心構えや面接試験の概要について」	12	スタートアップセミナー(3) 特別講師講話 「社会人として働く上で必要とされる心構え」						
5		13	スタートアップセミナー(4) 特別講師講話・演習 「電話の受け方・お茶の出し方等のビジネスマナー」						
6	キャリア形成(3) 特別講師講話 「保育者としての心構え」	14	スタートアップセミナー(5) 卒業後における大学からのキャリア形成支援 早期離職の防止策について						
7	就職試験対策講座(3) 求人票の見方・取扱いについて 自己PR・志望動機の作成	15	就職活動の振り返り ポートフォリオを活用したレポート作成と提出③						
8	就職試験対策講座(4) 就職部教職員による模擬面接								
成績評価の方法・基準	授業内課題 60%、レポート提出 20%、受講態度・姿勢 20%								
留意事項	授業に日時・場所等は変更になることがあるので、掲示をよく確認すること。 再試験は実施しない。								
準備学習(予習・復習等)	事前にその範囲のテキストに目を通した上で授業に臨み、不明な点は、できるだけ授業時間内に質問して解決すること。また復習して理解を深めるようにすること。							必要時間:45分	
課題のフィードバック	提出されたノートは添削・採点して返却し総評する。								
テキスト	「キャリア形成支援BOOK」 久留米信愛短期大学キャリア形成支援推進室								
参考書等	適宜、紹介する。								

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者			
日本文学 Japanese literature	1年前期	講義	2	卒業選択必修 資格選択必修				
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎						
授業の目的	古代から現代までの作品読解と鑑賞をととして、人間の生き方と愛の形を考え、そのアイデンティティーを探り、読み取った事柄を文章化し、鑑賞文としてまとめる。また、各時代を代表する作品にふれることにより、文学史の知識を深め、日本文学の流れを知る。							
到達目標	1. 作者の生涯と、その業績を理解する。 2. 作品を味読し、そのテーマに迫る。 3. 作品ごとに自分の感想を文章化し、互いに分かち合う。							
授業の概要	全ての作品の通読が困難であるため、作品の一部を抜粋して作った資料をテキストとして味読を図る。また、視聴覚教材の活用や担当者の説明をととして作者の生涯や当該作品の概要を理解した上で読解に臨み、その読みを深める。更に、可能な限り、受講者相互の意見交換を行い、互いの読みを深める。							
授業計画								
1	オリエンテーション 『古事記』 1 時代背景 2 概要 3 鑑賞	9	5～8までのまとめ・補足・感想発表					
2	『万葉集』 1 時代 2 歌体・部立 3 歌風の変遷 4 鑑賞	10	芥川龍之介『奉教人の死』 1 生涯と業績 2 切支丹物 3 作品(抄)鑑賞					
3	『源氏物語』 1 貴族の生活 2 仮名文字の発明 3 作品の概要 4 作品(抄)鑑賞	11	高村光太郎『智恵子抄』 1 生涯 2 作品鑑賞 3 作品鑑賞 —愛のかたち—					
4	1～3までのまとめ・補足・感想発表	12	5～11までのまとめ・補足・感想発表					
5	与謝野晶子『みだれ髪』 1 生涯と業績 2 作品鑑賞 3 「君死にたまふことなかれ」	13	宮沢賢治『銀河鉄道の夜』 1 生涯 2 作品鑑賞 「雨ニモマケズ」					
6	島崎藤村『破戒』 1 詩から小説へ 2 作品の概要 3 作品(抄)鑑賞	14	遠藤周作『私の・棄てた・女』 1 キリスト教文学 2 遠藤の挑戦 3 作品(抄)鑑賞 【レポートの提出】					
7	夏目漱石『三四郎』 1 生涯と業績 2 作品の概要 3 作品(抄)鑑賞	15	全体のまとめ					
8	夏目漱石「私の個人主義」 1 漱石の英国留学 2 主張内容の今日的意義							
成績評価の方法・基準	レポート40%、発表40%、受講態度・姿勢20%で総合評価する。							
留意事項	資料(作品の抜粋プリント)は用意するが、読解を深めるため作品にはできるだけ目をとしておく。							
準備学習(予習・復習等)	授業計画に基づき指定される作品を、予め読んで授業に臨む。						必要時間:3時間	
課題のフィードバック	授業で実施した3回の感想発表はその都度総評を行い、提出されたレポートは次週に返却し総評を行う。							
テキスト	各作品を収めた書籍については各々準備する。							
参考書等	事前に紹介する(基本的に図書館の蔵書より)。							

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者			
日本国憲法 The Consitution of Japan		1年前期	講義	2	卒業選択必修 免許必修・資格選択必修	桑原 広治			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
			◎					○	
授業の目的	日本国憲法は、法律の中でも基本法と呼ばれており、すべての法律の基準となるものである。日本も法治国家であるので、法によって社会が成り立っていると考えると、日本の社会の在り方が日本国憲法に定められていると考えられる。そういう観点から、日本国憲法の内容を理解していく。								
到達目標	1. 日本国憲法には、どのようなことが定められているのかを理解する。 2. 日本国憲法の目的や今日的意義を理解する。 3. 日本国憲法における人権保障の考え方を身につける。								
授業の概要	まず、日本国憲法の全体について、どのような内容なのかを「前文」「人権」「国会」「内閣」「裁判所」「地方自治」という順に学び、それから、憲法にまつわるピックである「個人情報保護」や「社会保障」の問題、「裁判員制度」等を題材に憲法の個々の論点の理解を深めていく。なお、教育的配慮から、授業計画は変更することがある。								
授業計画									
1	オリエンテーション：講義の進め方、内容等の概要説明 (ノートの取り方、講義の進め方等について共通の認識を持つ) 憲法の意味：近代的意味の憲法 日本国憲法と太平洋戦争との関係 憲法の目的(特に個人の尊厳とのかかわりについて)		9	プライバシー権と個人情報保護について					
2	憲法前文について 象徴天皇制と天皇の権限について		10	生存権について(1) 憲法25条の特性や役割について学ぶ。					
3	日本国憲法上の人権規定について 1. 幸福追求権 2. 精神的自由権 3. 経済的自由権		11	生存権について(2) 具体的な事例を通してその役割について考える。					
4	刑事事件上の人権規定 1. 適正手続 2. 自白の禁止		12	自己決定権について(1) 憲法の規定に流れる自己決定権の考え方について学ぶ。					
5	統治機構について(1) 国会の構成・機能		13	自己決定権について(2) 具体的にどのような問題として現れるかを学ぶ。					
6	統治機構について(2) 内閣の構成・機能		14	裁判員制度について(1) 司法制度のなかでのこの制度の意味や制度の内容を学ぶ。					
7	統治機構について(3) 裁判所の構成・機能		15	裁判員制度について(2) 具体的にどのように行われるか映像資料などで学ぶ。					
8	地方自治について、予算について 憲法改正について 憲法尊重義務について			定期試験：筆記					
成績評価の方法・基準	定期試験(60%)・受講の積極性(20%)・確認テスト(20%)等を総合的に評価する。								
留意事項	講義はパワーポイントを中心に、アクティブ・ラーニング型を進める。メモの習慣化並びにノート記録に気を配り、整理を行うこと。日々、時事・保育・教育問題等に常に興味をもち、新聞やメディア情報を収集しておく。								
準備学習(予習・復習等)	次回講義の展開を予測しつつ、キーワードを調べるなど、主体的に取り組むこと。 配布資料を読んでおくこと。 毎回ノート整理を行うこと。						必要時間：3時間		
課題のフィードバック	講義中にグループワークの時間を確保する。振り返りシートは毎回提出すること。授業始めには、振り返りシートの講評並びに補説の時間を設ける。								
テキスト	ポケット教育小六法 晃洋書房 2020 国語辞書(電子辞書可)は各自持参すること。 他、適宜プリントを配布する。								
参考書等	「憲法(第7版)芦部信喜・高橋和之 岩波書店、「憲法(新法学ライブラリ)」長谷部恭男 新世社、「世の中がわかる憲法ドリル」石本伸晃 平凡社								

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者		
心理学 Psychology		1年前期	講義	2	卒業選択必修 資格選択必修		武藤 郁和		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
			◎	○	○				
授業の目的	心理学とは、心の働きやそのメカニズムを明らかにする学問である。現在、医療をはじめ教育や福祉など様々な領域で心理学の知見が活用されている。講義を通して、受講者が心理学の基礎的な知識を得ることで、日常生活における「こころ」の働きについて理解し、応用できるようになることをねらいとする。								
到達目標	1. 講義の中で学んだ心理学に関するキーワードを説明できるようになる。 2. 心のメカニズムを明らかにするために心理学が用いている実証科学的な研究の視点について理解する。 3. 身近な出来事を心理学的な観点から考察できるようになる。								
授業の概要	心理学が対象とする学問領域は幅広いが、今回は、心理学史、認知・学習・社会・発達・性格・臨床心理学等の主要なトピックについて学習し、ものの感じ方、見方、考え方などの基礎心理を学ぶ。また、私達の身近な生活や人間関係、社会問題にもふれ、実生活への応用について考察していく。								
授業計画									
1	学習(連合説) 刺激と反応が結びつくことによって学習が行われるという理論について学ぶ	9	知能検査 いくつかの知能検査の概要について学ぶ。 知能検査は受けない。						
2	学習(洞察説) 見通しを立てて問題を解決するという理論について学ぶ。	10	欲求・葛藤・防衛(適応)機制 自分の思うようにならないことが多い世の中で、人ほどのように行動するのかについて学ぶ。						
3	記憶 記憶と忘却のメカニズムとについて学ぶ。 また、より良く記憶する工夫についても学ぶ。	11	パーソナリティ パーソナリティの諸理論(類型論・特性論・構造論)について学ぶ。						
4	発達(乳幼児期) 乳幼児の運動および言葉の発達について学ぶ。 また、そもそも言葉とは何なのかについても学ぶ。	12	パーソナリティテスト いくつかのパーソナリティテストの概要について学ぶ。						
5	発達(幼児期) 幼児特有の物の見方・考え方について学ぶ。	13	社会と集団 人は他者とのかかわりを持ちながら行動している。ここでは、人間関係における心理メカニズムについて学ぶ。						
6	発達(児童期・青年期) 児童期・青年期における心理的特徴と発達課題について学ぶ。	14	知覚・認知 主に視覚に関する事柄を学びながら、情報処理の観点による物の見え方や捉え方について学ぶ。						
7	動機付け やる気はどこからくるのか。外発的動機付けと内発的動機付けについて学ぶ。	15	第2回小テスト(8～14回の内容) 心理学史 心理学史および心理学とは何なのかについて学ぶ。						
8	第1回小テスト(1～7回の内容)の実施。 知能 知能の構造の理論について学ぶ。								
成績評価の方法・基準	授業で行う2回の小テスト(60%)、レポート課題(20%)、受講態度・姿勢(20%)を総合して評価する。								
留意事項	これまでの自分の行動や考え方を振り返り、関連付けながら学習を進めていくこと。								
準備学習(予習・復習等)	教科書を読みこみ、授業で学んだ知識の定着をはかること。							必要時間:3時間	
課題のフィードバック	授業中に出される問に対して自分なりの答えを見出し、解答例と比較してその違いに気付く。								
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 心理学 山村豊・高橋一公著 医学書院。								
参考書等	適宜提示する。								

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修/選択	担当者			
ヨーロッパ文化 European culture	別に示す	演習	1	卒業選択必修 資格選択必修	教務部			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
	○	◎						
授業の目的	春休みの約10日間のヨーロッパ研修(主にフランス、バチカン、イタリア)を通して、ヨーロッパ文化の源であるキリスト教の精神を学び、また学院の経営母体である“シヨファイユの幼きイエズス修道会”の母修院での研修によって建学の精神を体得する。また、各国の人々、自然、教会等々に触れ、国際理解を深める。							
到達目標	1. キリスト教の精神を学ぶ。 2. 本学の建学の精神を体得する。 3. 国際理解を深める。							
授業の概要	3月の春休み中約10日間のヨーロッパ研修地(主にフランス、バチカン、イタリアなど)において、教会をはじめ歴史的建造物や美術館の見学、および市内観光を含めた自主研修(レストランやホテル宿泊での実用会話研修含む)を行う。							
授業計画								
<p>プログラム予定(3月の10日間)</p> <p>出発 ↓ 香港 香港市内研修 ↓ パリ パリ市内研修 ↓ リヨン リヨンへ ↓ シヨファイユ バスにてシヨファイユへ ↓ ジュネーブ ジュネーブ市内研修 ↓ ミラノ ↓ フィレンツェ フィレンツェ市内研修 ↓ ローマ ローマ市内研修 ↓ ローマ市内自主研修 ↓ 香港 ↓ 帰国 (帰国後レポート提出)</p>								
成績評価の方法・基準	研修中の態度(50%)、帰国後のレポート(50%)により評価する。							
留意事項	全学科1・2年生の希望者を対象とし、費用経費を30～33万円程度に見込んでいる。 経済状況・世界の情勢によっては、不開講になる可能性がある。 受講生が10名未満の場合は、原則として開講しない。							
準備学習(予習・復習等)	事前にヨーロッパの文化等についてネット等を通し調査しておき、研修中はメモおよび日記を記載すること。						必要時間:45分	
課題のフィードバック	帰国後のレポートは返却し、総評を行う。							
テキスト	なし							
参考書等	なし							

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修/選択	担当者			
生活と環境 Life environmentology	1年前期	講義	2	卒業選択必修 資格選択必修	安保 康治			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎						
授業の目的	生活を取り巻く環境、特に近年重要視される「食と健康」、「食の安全」、「地球の環境」、「環境の破壊」について、社会科学のおよび自然科学の見地からそのメカニズムなどを理解することで、生活上の対策を学習し、今後の社会生活を豊かなものにする一助とする。							
到達目標	1. 食生活についての教養が身につく、健康な生活への意識が向上すること。 2. 地球の環境問題についての教養が身につく、個人的対策が実施できるようになること。 3. 食生活や地球環境についてのメディア情報が理解できるようになること。							
授業の概要	「食と健康」では食品に含まれる栄養素の必要性、「食の安全」では微生物や農薬などの反栄養素の問題、また、「地球の環境」では地球を取り巻く環境要因の成り立ちと維持、「環境の破壊」では地球の各環境問題についてメカニズムや対策を学習し、それぞれの課題についてグループワークやディスカッションを行う。							
授業計画								
1	1. 食と健康 (1)食物と栄養 栄養素の役割と食事摂取基準・食生活管理	9	第1回小テストの総評 3. 地球の環境 (1)地球の誕生 (2)地球の構造 (3)空気の維持					
2	(2)肥満 肥満はなぜ起こるのか 皮下脂肪型と内臓脂肪型肥満	10	(4)温度の維持 (5)水の循環 (6)エネルギー資源					
3	(3)ダイエット 肥満予防改善の基本的な考え方 肥満予防改善の体質改善	11	4. 環境の破壊 (1)公害の歴史 イタイタイ病・四日市喘息・水俣病など					
4	2. 食の安全 (1)食物の腐敗と保存 腐敗と微生物・微生物の生育環境と食物の保存	12	(2)地球の温暖化 CO ₂ の増加と温度上昇 世界の対策と個人の対策					
5	(2)加熱調理 加熱調理の方法とその特徴 加熱調理の目的とその成分変化	13	(3)オゾン層の破壊(メカニズムと対策) (4)酸性雨(メカニズムと対策) (5)ゴミ問題(処理の現状とリサイクル)					
6	(3)加工食品とインスタント食品 保存食品・発酵食品・インスタント食品	14	9～13週の課題について グループワーク・ディスカッションおよびレポート作成					
7	(4)農薬と食品添加物 (5)食物の有害成分	15	まとめ レポートの総評とまとめ					
8	1～7週の課題について グループワーク・ディスカッションおよびレポート作成							
成績評価の方法・基準	提出された2回のレポート80%と受講態度・姿勢20%で評価する。							
留意事項	各授業で配布したプリントはファイルし、全て持参して授業に出席すること。							
準備学習 (予習・復習等)	事前にその範囲のメディア情報等を調べた上で授業に臨み、授業で理解できなかった点があれば復習して理解するか、授業終了後に質問し解決すること。						必要時間:3時間	
課題の フィードバック	提出されたレポートは、最終回の授業で返却し、総評を行う。							
テキスト	テキストは使用せず、授業毎にプリントを配布する。							
参考書等	「現代人のための生活と環境」安保康治著 開成出版 生活習慣病の予防 http://www.japa.org/seijinbyou 地球を守る http://kankyo.jsf.or.jp							

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者			
生命と自然 Life and nature	1 年前期	講義	2	卒業選択必修 資格選択必修				
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎				○	○	
授業の目的	生命の成り立ちについて理解し、地球上に生きている生物の生活体系と、生息する自然環境について理解する。また、生息環境にどのように適応しているかについて理解する。さらに、その生息環境を脅かす要因について理解する。							
到達目標	1. 生命の成り立ちについて知ること。 2. 生物多様性の重要性について知ること。 3. 生息環境を脅かす要因について知ること。							
授業の概要	生物とは何か、どのように成り立ったのかを知り、それら生物がどのような地球上の環境下に適応し、生活しているかを学ぶ。また、生息している環境がどのような特徴を有しているのか、どういう状況であるのかを知り、本来の生息環境でない場合、どのような影響を被っているのかを学ぶ。							
授業計画								
1	生物とは 1. 生物の起源 2. 生物と無生物との違い	9	生物多様性と環境適応Ⅳ 1. 河川・湖沼に生息する生物とその環境・適応					
2	生物の進化 1. 生物の形態の違い 2. 発生過程	10	生物多様性と環境適応Ⅴ 1. 海(沿岸域)に生息する生物とその環境・適応					
3	生命のゆりかご 地球Ⅰ 1. 陸上環境(極地・草原・森林・砂漠・山)	11	生物多様性と環境適応Ⅵ 1. 外洋 深海に生息する生物とその環境・適応					
4	生命のゆりかご 地球Ⅱ 1. 水環境(河川・湖沼・海・深海)	12	地球の変化と生き物Ⅰ 1. 地球温暖化による生き物への影響					
5	生命のゆりかご 地球Ⅲ 1. 大気環境(大気組成・雨・風)	13	地球の変化と生き物Ⅱ 1. 人為的開発による生き物への影響					
6	生物多様性と環境適応Ⅰ 1. 草原・砂漠に生息する生物とその環境・適応	14	地球の変化と生き物Ⅲ 1. 環境ホルモンによる生き物への影響					
7	生物多様性と環境適応Ⅱ 1. 森林・高山に生息する生物とその環境・適応	15	まとめ					
8	生物多様性と環境適応Ⅲ 1. 極地・熱帯雨林に生息する生物とその環境・適応							
成績評価の方法・基準	レポート70%、受講態度・姿勢30%で総合評価する。							
留意事項	普段から自然や生物についての新聞・TVなどのメディア報道に関心をもつことが望まれる。							
準備学習(予習・復習等)	授業で興味・関心を持った生物や自然、環境について、書籍、インターネットなどで調べ、理解を深めること。						必要時間:3時間	
課題のフィードバック	提出レポートは、単位認定試験に変えるので、フィードバックは行わない。							
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。							
参考書等	講義中に随時提示する。							

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修/選択	担当者			
基礎統計学 Basic Statistics	1年前期	講義	2	卒業選択必修 資格選択必修	眞部 真紀子			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎						
授業の目的	私たちの周りには多くのデータが存在し、それによって物事を判断している。これらの集められたデータを判断の材料にするために用いられるのが統計学である。本科目は基礎的な統計的知識を学び、「統計感覚」を養うことを目的とする。							
到達目標	1. データを数値やグラフで要約することができる。 2. データのばらつきや差を測ることができる。 3. データから関係を探ることができる。							
授業の概要	本科目で扱うデータは電卓で計算できる身近なデータとどめ、基本的な統計値を計算して理解を深めてもらう。またグループワークでダミーデータの統計処理に取り組んでもらう。最後に、MicrosoftのExcelを用いて度数分布表やヒストグラム、関数を使つての基本的な統計値の算出を学習してもらう。							
授業計画								
1	ガイダンス 基本統計値について知る。 平均値、度数分布表とヒストグラムを学習する。	9	t検定(対応なし)について学ぶ。 平均の差の信頼区間を理解する。					
2	基本統計値について知る。 分散と標準偏差でデータの散らばり具合を学習する。	10	t検定(対応あり)について学ぶ。 理解を深めるためダミーデータでグループワークを行う。					
3	基本統計値について理解する。(グループワーク) ダミーデータで分散と標準偏差を求めて比較する。	11	【小テスト2】 カイ2乗検定、t検定の違いを理解する。					
4	確率と統計の関係を理解し、確率の求めた方、順序、組み合わせの確率を学ぶ。	12	【小テスト2】をグループワークで取り組み、より深く理解する。					
5	【小テスト1】 母集団と標本について学ぶ。	13	分散分析について学ぶ。 分散分析の考え方を理解する。					
6	信頼推定と信頼区間について学ぶ。 正規分布について理解する。	14	データのばらつきを表す度数分布表やヒストグラム、分散や標準偏差 Excel を用いた統計処理を学ぶ。					
7	仮説検定の考え方を知る。 観測度数と期待度数の求め方を理解する。	15	【小テスト3】 これまでの範囲の理解を深める。					
8	カイ2乗検定を学ぶ。 有意水準について理解する。							
成績評価の方法・基準	授業内で行う【小テスト】3回(各30%)、受講姿勢(10%)で総合評価する。							
留意事項	毎回電卓を持参すること。							
準備学習 (予習・復習等)	前回の授業の復習を行い、分からないことはノートに記し、授業終了後またはオフィスアワーを活用し理解するよう努める。						必要時間:3時間	
課題の フィードバック	【小テスト】後、または次回に授業内で解説し、返却する。							
テキスト	「ファーストブック 統計学がわかる」向後千春・富永敦子著 技術評論社							
参考書等	「栄養科学シリーズ 基礎統計学」鈴木良雄・廣津信義著 講談社サイエンティフィック							

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者			
ボランティア Volunteer	1・2年通年	演習	1	選択	学生部長・他			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1 ◎	2 ○	3	4	5	6	7	8
授業の目的	ボランティアが社会に果たす役割と必要性が拡大している。地域からのボランティア活動の要請等に自主的に参加し、活動を通してボランティアの必要性と意義を学ぶ。そして社会が抱える問題等にも関心を持ち、地域社会との連携を図る主体的能力を身につけると共に、自己の資質向上を図る。							
到達目標	1. ボランティア活動についての基本的な理解ができる。 2. ボランティア活動を計画し、実践する。 3. 報告会でボランティア活動の発表ができる。							
授業の概要	本科目では、地域からのボランティア活動の要請や、本学から紹介される様々な活動に応じて、自らが選択し、計画し、実践する。そして、その活動内容を互いに発表し合い、ディスカッションを行う。							
授業計画								
<p>1. オリエンテーション 担当教員より事前・事後オリエンテーションが行われる。</p> <p>2. 活動期間・時間 期間は、1・2年次の2年間とする。 活動時間は、総計22時間以上とする。</p> <p>3. 活動内容 活動内容は、地域からの要請や本学から紹介されるボランティアを含め、各自の目標に合わせて、自ら選択し実践する。</p> <p>4. 活動の手順 事前に所定の届け出を提出する。 活動先の指導者との打ち合わせを含め、活動後に所定の活動証明書を提出する。 活動の実践レポートを提出する。</p> <p>5. まとめ(報告会) 実践報告書をまとめる。 報告会において、ボランティア活動のプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して自己の認識を深める。</p> <p>※授業が行われている場合の活動は、その該当科目は「欠席扱い」とする。</p>								
成績評価の方法・基準	活動の実践レポート(50%)、報告発表(30%)、提出書類(20%)で総合評価する。							
留意事項	活動を通して知り得た情報については、守秘義務を守りボランティア先の規則に従うこと。 提出書類、レポート提出は、期限を守ること。							
準備学習 (予習・復習等)	活動内容を、事前に確認して行うこと。						必要時間:45分	
課題の フィードバック	内容により課題が異なるので、その都度対応する。							
テキスト	なし							
参考書等	必要に応じて紹介する							

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者			
保育原理 Principle of Childcare	1年後期	講義	2	卒業必修 資格必修	桑原 広治			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		○				○	◎	
授業の目的	保育に関する基礎理論を学習する。保育に関する思想・歴史・制度・内容・方法・計画の基礎理論を学ぶことにより、今後の保育者としての成長の土台を培う。幼児教育入門の役割も果たす。この授業の中で、①自分なりの保育観・子ども観を養う、②自分なりの保育スタイルの創造、③自分なりの研究的精神の涵養、を目指す。							
到達目標	1. 代表的な子ども観を説明することができ、自分の子ども観と教育観を表現することができる。 2. 幼稚園・保育所・認定こども園の役割や制度を理解し、自分自身の資質・適性を理解することができる。 3. 保育者に必要な知識を学び、保育者に必要とされる態度・使命・責任について省察することができる。							
授業の概要	すこやかな子どもの育ちと子育て支援を目的・課題とするときの基本的な考え方について学ぶ。保育の思想、歴史、法制度、保育計画、保育の現状と課題について理解し、具体例やグループワークを通して、保育者になるための基礎的知識を習得する。							
授業計画								
1	本科目の導入と授業計画(グループワーク、ディスカッション等でアウトプットできる力を目指す) 1. 教職とは何か 2. 社会における仕事 3. 社会人とは何か	9	保育の計画 1. 保育における計画とは 2. 教育課程の編成ならびに全体的な計画の作成 3. 指導計画の作成					
2	保育とは何か 1. 保育とは何か 2. 保育の対象と場 3. 子どもの最善の利益の確保とは	10	保育の評価 1. 保育の評価とは 2. 保育の記録と評価 3. 保護者からの苦情への対応					
3	子どもを取り巻く環境の変化とは 1. 家庭環境・社会環境の変化 2. 保護者の子育て意識の変化 3. 保育ニーズの多様化	11	家庭援助と子育て支援 1. 子育て支援の背景 2. 子育て支援センターとしての保育所・幼稚園 3. 相談援助の体制づくり 4. 相談援助者としての保育者					
4	保育の歴史に何を学ぶか 1. 子どもの発見 2. 世界の保育思想・保育施設の歴史から学ぶ 3. 日本の保育思想・保育施設の歴史から学ぶ	12	家庭・小学校との連携 1. 園と家庭との連携 2. 保幼の連携 3. 保幼小の連携					
5	子どもを理解するために 1. 保育における「子ども理解」とは 2. 子どもをみる「まなざし」 3. 子ども理解を深めるために	13	子どもの安全・虐待・障がい 1. 子どもの安全 2. 虐待への対応 3. 特別に配慮を要する子どもへの対応 4. 障がいのある子どもへの対応					
6	保育環境とは 1環境による保育とは2. 物的環境に込められた保育者の願い3. 人的環境としての保育者4. 環境構成、環境の再構成とは5. メディアと環境	14	保育者の専門性 1. 保育者の倫理観 2. 保育者の専門性とは 3. 保育者の専門性の向上					
7	保育の内容 1保育内容とは何か2ねらい、内容、領域の考え方3幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の構成と特徴	15	保育の現状と課題 1. 幼稚園と保育所と認定こども園の違い 2. 幼稚園の現状と課題 3. 保育所の現状と課題 4. 幼保一体化の現状と課題 5. 諸外国の保育の現状と課題					
8	保育の方法・形態 1. 保育方法の原理 2. 保育の形態と子どもの活動 3. 遊びによる総合的な指導とは		定期試験：筆記					
成績評価の方法・基準	定期試験(60%)・受講の態度(20%)・確認テスト等(20%)等を総合的に評価する。							
留意事項	講義はパワーポイントを中心に、アクティブ・ラーニング型で進める。ノート記録に気を配り、整理を行うこと。合わせて、メモの習慣化を図り、アウトプットする力も養成していく。時事問題等に関心を持ち、新聞やメディア情報を収集しておくこと。							
準備学習(予習・復習等)	次回講義の展開を予測しつつ、キーワードを調べる等、主体的に取り組むこと。					必要時間：3時間		
課題のフィードバック	講義中にグループワーク等を取り入れる。また、振り返りシートをもとに講評や補説の時間を設ける。							
テキスト	・「最新 保育原理」上中 修 教育情報出版 2020 ・国語辞書(電子辞書可)は各自、毎時間、持参すること。 ・適時、課題シートや資料等を配布する。							
参考書等	「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館、「保育所保育指針解説書」厚生労働省 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館							

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修/選択	担当者			
教育原理 Principle of Education	1年前期	講義	2	卒業必修 免許・資格必修	関 聡			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		○				○	◎	
授業の目的	教育に関する基礎理論を学習する。教育に関する理念・歴史・思想、社会的・制度的・経営的事項、教育課程の意義編成を学ぶことにより、今後の保育者としての成長の土台を培う。「教育する者」にとって必要なものとは何か、目指すべき教育の姿とは何かを自覚的に探究することが本科目の目的である。							
到達目標	1. 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想を理解する。 2. 教育に関する社会的・制度的・経営的事項(地域との連携及び学校安全への対応含む)を理解する。 3. 教育課程の意義及び編成の方法を理解し、指導計画を作成できる。							
授業の概要	1. 教育の意味・意義等の基礎知識。 2. 教育の内容・方法・計画等に関わる理論。 3. 教育の歴史と制度に関わる知識。 4. 子どもの見方や教育の考え方(子ども観・教育観)、 5. 教育に関する時事問題。 6. 教師の使命と資質の向上。							
授業計画								
1	教育の意味と意義について 1. 教育の意味(語源から:教と育 education) 2. 教育の意義(さまざまな立場から)	9	教育の経営について【グループ・ワーク】 1. 望ましい学校経営と学級経営 2. 学校経営と学級経営のPDCAサイクル					
2	子ども・教師・家庭・学校について 1. 教育的関係及び教育的雰囲気 2. 社会の変化と家庭の変化	10	学校と地域の連携について 1. 地域との連携と協働 2. 開かれた学校づくり					
3	教育の歴史について 1. 主に欧米の歴史 2. 日本の歴史	11	学校安全について 1. 危機管理と事故対応 2. 安全管理と安全教育					
4	教育の思想についてⅠ(ギリシャ以降) 1. 古代 2. 中世	12	教育課程の意義について 1. 教育課程(カリキュラム)の意義 2. 幼稚園教育要領と各園の教育課程					
5	教育の思想についてⅡ(今日まで) 1. 近世 2. 現代	13	教育課程の編成について 1. 教育課程の編成の基本原理 2. 教育課程と指導計画(長期・中期・短期)					
6	教育を巡る社会的状況についてⅠ 1. 社会や子どもの変化 2. 学校や地域の変化	14	カリキュラム・マネジメントについて 1. カリキュラムの見直し 2. カリキュラムのPDCAサイクル					
7	教育を巡る社会的状況についてⅡ 1. 教育政策の動向(幼・小・中・高・大) 2. 教育改革の動向(幼・小・中・高・大)	15	教育原理について 1. 教育原理のまとめ 2. レポート作成の注意点					
8	教育の制度について 1. 公教育の原理や理念(明治以降) 2. 教育行政と制度(今日的課題)							
成績評価の方法・基準	レポート(80%)・授業態度(20%)を原則として総合評価する。 レポートの採点基準は授業内で説明する。							
留意事項	学修を通して、①教師になる自覚を持つこと、②自分自身を見つめる機会を持つこと、③小さい者・弱い者への温かいまなざしを持つこと、④問題を発見し解決する姿勢を持つこと、以上を身につけてほしい。							
準備学習(予習・復習等)	予習:授業内容に関わる保育現場の状況を参考文献、マスコミ等から情報を得る。 復習:授業内容から自分なりの保育観・子ども観・教育観をつくりあげる。					必要時間:3時間		
課題のフィードバック	レポート作成前後に必要なに応じて補習等を行う。学期途中にも確認の作業を行う。質問は授業中いつでも受け付けるが、オフィスアワーを十分に活用すること。							
テキスト	テキストは使用しない。							
参考書等	本学図書館に備えてあるものを中心に適宜、紹介する。							

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者	
教職基礎論 Fundamentals of the Education		1年後期	講義	2	卒業選択 免許・資格必修		増田 吹子	
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7 8
								◎
授業の目的	幼稚園教諭・保育教諭等になるにあたって必要となる、教育(保育)・教師(保育士)についての知識や教育者(保育者)としての考え方や姿勢を身に付けることを目的とする。そのために、従来の教育のあり方や教育についての考え方、現在の教育の問題、これからの教育者に求められる事柄等について学ぶ。							
到達目標	1. 教育(保育)重要性や意義について理解している。 2. 教師(保育士)の役割・職務内容・身分・服務義務等について理解している。 3. 教育(保育)の歴史・現状を理解し、これからの教育者(保育者)に求められる役割を考えられる。							
授業の概要	講義やワークを通して、教育者(保育者)の職務内容・教育(保育)の歴史等、保育の在り方を考える上で必要な事項について学ぶ。毎回の授業について記入して提出する振り返りを次の授業でフィードバックすることにより、教育(保育)についての理解を深める。							
授業計画								
1	授業ガイダンス 保育と子ども(ワーク・発表) 理想の保育者像	9	保育者としての成長 記録・研修等を通じた専門性や人間性の向上について学ぶ(グループワーク)					
2	保育者をめざす 子どもと関わることについて事例を基に考える (事例検討・発表)	10	現代社会の課題と保育者① 現代の保護者が抱える問題とその背景について学び、保護者との関わりを考える(事例検討・発表)					
3	保育するとは①保育者の援助・配慮の考え方 VTR や保育者の記録を基に考える (事例検討・発表)	11	現代社会の課題と保育者② 虐待への対応・カウンセリングマインド等の現代の保育者に求められる考え方について学ぶ					
4	保育するとは②保育経験と保育観の変化 保育者の記録や事例を基に考える (事例検討・発表)	12	さまざまな国における保育者 海外と日本の保育の違いについて学び、より良い保育のあり方について考える(ディスカッション)					
5	保育するとは③保育者の自己成長感 保育者の記録や事例を基に考える (事例検討・発表)	13	保育者のこれまでの振り返り① 幼稚園の成立と発展に尽くした保育者について学ぶ					
6	保育者の生活 教育・保育に関わる法律や要領・指針、事例等から 保育者の一日の生活や服務義務について学ぶ	14	保育者のこれまでの振り返り② 保育事業の成立と発展に尽くした保育者、保育における健康指導の歴史について学ぶ					
7	子どもの成長と子ども育成力 家庭支援・専門機関との連携について学ぶ (事例検討・発表)	15	現代の保育者の役割—理想の保育者像を再考する 新聞記事を基に現代の保育者の役割について考える (グループワーク)					
8	子どもを育てるものの共同性 教育・保育における共同(協同)の意義を考える (事例検討・発表)							
成績評価の方法・基準	レポート①(40%)、レポート②(30%)、毎回の振り返りの提出(30%)							
留意事項	覚えるのではなく理解するという姿勢で授業に臨むこと。							
準備学習 (予習・復習等)	授業後にテキストを読み返し、配布物・提出物の整理を行うこと。						必要時間:3時間	
課題の フィードバック	毎回の授業の振り返りは添削し、次回の授業で総評を行う。							
テキスト	岸井勇雄他、「保育者論 —共生へのまなざし—」、同文書院							
参考書等	「育ての心(上)」・「幼稚園真諦」 倉橋惣三 フレーベル館							

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修/選択	担当者			
社会福祉論 Theory of Social Welfare		1年前期	講義	2	卒業選択 資格必修	重永 茂			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
			○				○	◎	
授業の目的	少子・高齢化の進展のもと、社会福祉の公私にわたる政策、制度、実践の状況は変化しつつあり、その現状を基盤とした社会福祉全般の把握を通してその意義、位置づけ、必要性に関し理解を深める。以上の理解のもと、子ども家庭支援の視点について理解する。								
到達目標	1. 「生存権保障」の理念に基づく「公的責任」について把握する。 2. 公私にわたる社会福祉事業の現状についての知識を深める。 3. 社会福祉事業の対象(全国民への広がり)について把握する。								
授業の概要	現代社会における社会福祉サービス全般に関する理解を基盤として、身近な生活問題から社会問題へのアプローチ及び正しい把握の一助として、グループワーク、ディスカッション、事例検討発表等を随時取り入れる。								
授業計画									
1	社会福祉の考え方と役割 社会福祉に関する基本的視点を通し、正しい理解及び現代的意義を学ぶ。(グループワーク)	9	社会福祉法制及び実施体制 現代の社会福祉の法律体系とそれに基づく実施体制(機関、職員、事業内容等)について学ぶ。						
2	社会福祉と関連制度・施策 国民生活の安定に向けた社会福祉をとりまく関連諸制度、施策の状況について学ぶ。(事例検討)	10	相談援助(ソーシャルワーク)の意味と方法 社会福祉専門職が活用する専門技術に関する基礎を学ぶ。(事例検討)						
3	社会福祉の今日までの道筋(展開・変遷)を理解し、今日的意義について学ぶ。 (1)古代社会～昭和20年までの動向	11	社会福祉に関する諸分野の目的、対象、発展過程、現状、課題等について学ぶ。 (1)地域福祉 (2)高齢者福祉 (3)障害者福祉 (4)子ども家庭福祉 (5)生活困窮者の福祉 (グループワーク)(ディスカッション)						
4	(2)現代社会～昭和20年以降の動向について学ぶ。 推移・現状・問題点等。	12							
5	(3)児童家庭福祉の制度、施策の現状について学ぶ。 推移・現状・問題点等。(ディスカッション)	13							
6	(4)欧米における今日までの動向の理解について学ぶ ・英国における歴史的展開 ・米国における歴史的展開	14	[小テスト2](授業7～13回の範囲)福祉サービス利用者の主体的活用を支える制度の在り方及びその概要を学ぶ。						
7	[小テスト1](授業1～6回の範囲)社会福祉体系化日本の社会福祉の生成～今日までの道筋を確認し、その特質を学ぶ。	15	まとめ及び補足説明による全般的理解の修得 質問・疑問に答える。						
8	社会福祉にかかわる法律と財政 社会福祉事業の実践の基盤的支えである財源に関して学ぶ。								
成績評価の方法・基準	授業で行う2回の小テスト60%(2回の平均値)、レポート20%、受講態度・姿勢20%で総合評価する。								
留意事項	積極的受講による理解の一環として、疑問、質問は授業中においても随時受け付ける。								
準備学習(予習・復習等)	授業内容の復習を通して、正しい理解に努めること。						必要時間:3時間		
課題のフィードバック	小テストは、実施後に解説し、次回に返却する。								
テキスト	「社会福祉」直島正樹・原田旬哉 編著 萌文書林								
参考書等	「児童福祉六法」児童福祉法規研究会 中央法規								

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修/選択	担当者			
子ども家庭福祉 Child family welfare	1年前期	講義	2	卒業必修 資格必修	宮地 あゆみ			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		○	○			○	◎	
授業の目的	子どもやその家庭に関連がある諸制度や支援の在り方を学び、児童福祉の専門職としての立場から、子どもや家庭を取り巻いている環境、それぞれの課題や人権擁護の視点など基本的知識を習得する。							
到達目標	1. 子どもに関連がある歴史や諸制度について理解する。 2. 子どもや家庭を取り巻いている現状や課題を理解し、支援の在り方について考えられるようになる。 3. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解し、児童福祉の専門職としての自覚を持つようになる。							
授業の概要	担当者の保育士、社会福祉士としての実務経験を下に、児童家庭福祉の理念・歴史・課題及び関連施策の体系を学ぶ。自分の意見やグループで話し合った内容を発表することができるようになる。 児童家庭福祉についてより深く理解するために、関連した資料を配布する。							
授業計画								
1	子ども家庭福祉の理念と概念	9	子ども虐待・DVとその防止					
2	子ども家庭福祉の歴史的変遷および現代社会と子ども家庭福祉	10	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応					
3	子どもの人権擁護	11	社会的養護					
4	子ども家庭福祉の制度と実施体系	12	障害のある子どもへの対応					
5	子ども家庭福祉の施設と専門職	13	少年非行への対応					
6	少子化と地域子育て支援（グループワーク）	14	子育て支援とコミュニケーション（グループワーク）					
7	母子保健と子ども健全育成	15	まとめ					
8	多様な保育ニーズへの対応							
成績評価の方法・基準	学期末試験(50%)、講義内レポートおよび発表(30%)、その他(受講態度・発言)(20%)							
留意事項	講義中に配布したプリントなどは、紛失しないようにすること。							
準備学習(予習・復習等)	事前にテキストに目を通しておくこと。授業で理解できなかったところは復習して理解するようにし、講義後に質問にいくこと。						必要時間:3時間	
課題のフィードバック	毎回の講義後に振り返りシートを配布し、授業の理解度を確認したうえで、その後の講義へと反映させる。							
テキスト	子ども家庭福祉 新・基本保育シリーズ3 中央法規							
参考書等	「愛着障害～子ども時代を引きずる人々～」岡田 尊司 ほか随時紹介する。							

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修/選択		担当者		
子ども家庭支援論 Theory of Families Children Support		2年前期	講義	2	卒業選択 資格必修		園田 和江		
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
							○	◎	
授業の目的	保育士の社会的な役割には、保護者など子育て家庭に対する支援がある。保育士に子育て家庭支援の役割が求められるようになった社会的背景や、多様な家庭の状況などを理解する。基本的知識を基に、それぞれの家庭の状況に応じた適切な支援を考えられるようになる。								
到達目標	1. 現代社会の家庭や子育てをめぐる状況と、子ども家庭支援の必要性について理解する。 2. 家庭の状況に応じた家庭支援の体制について説明することが出来る。 3. 多様な家庭の子育てに生じた課題を支援するために、適切な支援のあり方を考えられるようになる。								
授業の概要	現代社会において、少子化、核家族化、共働き家庭の増加、家庭や地域の子育て機能の弱体化など、子どもを取り巻く環境は大きく変化している。家庭を支えることは、子どもの最善の利益にも繋がる。担当者は、臨床発達心理士、保育士としての実務経験を下に実践例を紹介するので、具体的な事例を学ぶことになる。								
授業計画									
1	子ども家庭支援の意義と役割		9	子育て家庭の状況に応じた支援 ③多文化への対応					
2	保育士による子ども家庭支援の意義と基本		10	子育て家庭の状況に応じた支援 ④様々な形の家庭への対応					
3	家庭生活を取り巻く環境とその変容		11	子育て家庭支援における保育士 ①基本的な態度					
4	子育て家庭の福祉を支える社会資源		12	子育て家庭支援における保育士 ②家庭支援のためのカウンセリングマインド					
5	地域の子育て家庭への支援		13	子育て家庭支援における保育士 ③社会資源や関係機関との連携					
6	子育て支援のプロセス		14	家庭支援のためのソーシャルワーク					
7	子育て家庭の状況に応じた支援 ①障害のある子どもへの対応		15	事例検討とまとめ					
8	子育て家庭の状況に応じた支援 ②要保護児童等への対応								
成績評価の方法・基準	期末試験 50%、授業中の課題 30%、授業に取り組む態度 20%で採点し、60%以上取得で単位認定。								
留意事項	保育現場での実践力向上のため、演習課題に積極的に取り組むこと。								
準備学習 (予習・復習等)	次回の講義のテーマを知らせるので、各自予習すること。						必要時間:3時間		
課題の フィードバック	課題は、実施後に回収する。次週、理解の程度や、質問や疑問などを含めて解説する。返却は、授業期間中内に行う。								
テキスト	「保育者が学ぶ子ども家庭支援論」植木信一編著 建帛社								
参考書等	「保育パワーアップ講座 基礎編」安梅 勅江編著 小児医事出版社								

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修/選択	担当者			
社会的養護 I Social Care I		1年後期	講義	2	卒業選択 資格必修	重永 茂			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
				○				◎	
授業の目的	子どもと家庭を取り巻く環境の変化を受け、養護問題が多様化している現在、社会的養護の意義や必要性が強調されている。現代社会における社会的養護の意義、理念と基本原理、体系、社会的養護を必要とする子どもの心理的ケアや保護者支援の必要性について学習し、社会的養護の中心を担う児童福祉施設の保育士には独自の役割と専門性があることを認識する。								
到達目標	1. 近年の養護問題の特徴を学び、現代社会における社会的養護の意義について知識を習得する。 2. 子どもの権利擁護、自立支援、家族関係の再構築等の基本原理や社会的養護の体系について知識を習得する。 3. 社会的養護における保育士の役割と専門性や自立支援の必要性について理解し、説明できるようになる。								
授業の概要	社会的養護に関する知識の習得に向けて、保育士としての支援に関連する基本原理や基本的な技術について、ディスカッション、グループワーク、事例検討等を通して、学生が主体的に考察し、体得していくことを目指す。								
授業計画									
1	子どもの育ちと社会の役割 児童福祉から児童家庭福祉への転換について、子どもと家庭を取り巻く環境の変化から学ぶ。	9	社会的養護の制度・施策 社会的養護に関係する法律や制度を学ぶ。						
2	子どもの権利擁護 現代社会において児童の権利とはどのような意味を持つのかを学ぶ。(グループワーク)	10	社会的養護の体系 社会的養護のしくみや種類、実施体制を学ぶ。						
3	現代社会における社会的養護の意義 「子育ての社会化」と社会的養護について学ぶ。	11	施設養護の特質と基本原則 施設養護の基本的な役割や支援過程、方法を学ぶ。(グループワーク)						
4	自立支援 社会的養護における自立支援の必要性について学ぶ(ディスカッション)	12	施設養護の実際① 児童養護系施設の種類と目的、支援内容と課題等を学ぶ。(事例検討)						
5	児童養護の歴史的変遷① 児童養護の始まりから現代までを学ぶ。	13	施設養護の実際② 障がい児系施設等の種類と目的、支援内容と課題を学ぶ。(事例検討)						
6	児童養護の歴史的変遷② 先駆者の取り組みを学ぶ。	14	[小テスト2](授業7～13回の範囲) 家庭的養護の特質と基本原則 家庭養護の基本的な役割や支援過程・方法を学ぶ。						
7	[小テスト1](授業1～6回の範囲) 社会的養護において保育士に求められる視点 保育士の役割と専門的アプローチについて学ぶ。	15	これからの社会的養護 今後期待される社会的養護の支援体制等について学ぶ。						
8	保育士とソーシャルワーク 社会的養護におけるソーシャルワークの必要性、ソーシャルワークの基本原則等を学ぶ。								
成績評価の方法・基準	授業で行う2回の小テスト60%(2回の平均値)、レポート課題20%、受講態度20%で総合評価する。								
留意事項	意欲的に取り組むこと。授業中の携帯電話の使用は禁止する。								
準備学習(予習・復習等)	学習した内容を復習し、次回学習する内容はテキストを読んでおく。理解しづらい点はピックアップしておき、授業中に質問するなどして理解する。							必要時間:3時間	
課題のフィードバック	小テストは、実施後解説及び返却を行う。								
テキスト	「新版 社会的養護 I」 辰巳隆・波田埜英治 編著 みらい								
参考書等	授業の中で適宜紹介する。								

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者			
社会的養護Ⅱ Social CareⅡ		2年前期	演習	1	卒業選択 資格必修	重永 茂			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
				○	○		○	◎	
授業の目的	児童の権利擁護や保育士の倫理を土台として、子どもたちや保護者が抱える社会的・心理的課題について理解をすること。施設実習においても、社会的養護の在りかた、入所児童の特徴を理解することは重要である。多面的に子どもを理解し、自立支援に向けて関係機関や他職種との連携について適切な支援を学ぶ。								
到達目標	1. 社会的養護に関する社会的背景や状況を理解する。 2. 施設の小規模化と家庭的養護の取り組みを理解する。 3. 子どもの自立支援に向けた援助のあり方について演習を通して理解する。								
授業の概要	社会的養護の現状を把握する。被虐待児や障害のある児童の増加があるので、乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設と家庭的養護である里親について深く学ぶとともに、事例検討、グループワーク、ディスカッション等を通して、支援のあり方を理解する一助とする。								
授業計画									
1	社会的養護Ⅰの振り返り 「グループワーク」それぞれの施設の役割について	9	社会的養護の事例検討 ①地域小規模児童養護施設における自立支援 「グループワーク」家庭的養護の現状と課題						
2	施設養護の養育：乳児院と児童養護施設の役割 「ディスカッション」子どもと職員の愛着形成について	10	社会的養護の事例検討 ②ハイリスク家庭における支援 「グループワーク」ハイリスク家庭の発見と介入						
3	施設養護の実際 ①生活形態や日常生活支援 「グループワーク」施設の1日の流れや年間行事	11	ソーシャルワーク ①入所児童の家庭再統合に向けた支援 「グループワーク」他職種との連携						
4	施設養護の実際 ②施設擁護の現状と対応「レポート作成」被虐待児、障がい児、学修支援の必要な子どもの現状と対応	12	ソーシャルワーク ②入所児童と地域住民の友好的な関係の構築 「グループワーク」関係構築に向けて考えられること						
5	施設養護の実際 ③治療的・支援的援助(プレイセラピーや芸術療法など) 「グループワーク」治療的支援について	13	年長児童の自立に向けた支援 「グループワーク」自立への支援とアフターケアについて						
6	施設養護の実際 ④入所児童の家族への支援 「ディベート」家庭復帰について	14	社会的養護のあるべき姿 「グループワーク」社会的養護の方向性と基本理念						
7	家庭養護の実際 ①養育里親やファミリーホームの取り組み 「ディスカッション」委託された子どもについて考えたこと	15	社会的養護における保育士の役割 「プレゼンテーション」児童家庭福祉の援助者としての資質・倫理について						
8	家庭養護の実際 ②特別養子縁組制度「ディスカッション」赤ちゃんポストなど、養子縁組制度について								
成績評価の方法・基準	期末試験 50%、授業中の演習課題 30%、授業に取り組む態度 20%で採点し、60%以上取得で単位認定。								
留意事項	施設実習先での子どもたちを想定し、その現状の正しい理解と対応に向け、積極的に授業へ臨むこと。								
準備学習 (予習・復習等)	予習と授業内容のふりかえりによって、正しい現状把握を行い、施設実習や実践へ繋がるように取り組むこと。							必要時間:45分	
課題の フィードバック	授業内で取り組んだ演習課題は、その場でコメント・解説する。提出した課題については、次週、理解の程度や、質問や疑問などを含めて解説する。返却は、授業期間中内に行う。								
テキスト	「社会的養護Ⅱ」(公)児童育成協会監修 相澤 仁編著 中央法規								
参考書等	授業中に適宜紹介する。								

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者			
発達心理学 Developmental Psychology	1年後期	講義	2	卒業必修 免許・資格必修	濱田 尚志			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			◎	○			○	
授業の目的	人は、胎児期から老年期に至るまで、身体的側面・心理的側面・社会的側面など、様々な側面において年齢とともに変化し、成長していく。本講義では、そうした人の生涯にわたる発達の過程の中でも、特に乳幼児期に重点を置きながら、発達を説明する主要な諸理論を学び、基本的な理解を得ることを目的とする。							
到達目標	1. 発達心理学の基本的な知識や概念を理解する。 2. 様々な子どもの行動について、発達段階を理解し心理学的な観点から説明できる。 3. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。							
授業の概要	乳幼児期に重点を置き、発達を説明する主要な諸理論を学ぶ。また身体と運動、認知と思考、言語とコミュニケーション、愛着、感情、自己等のキーワードから子どもの発達プロセスを学ぶ。さらに発達をふまえた遊びや生活を通して学ぶ子どもの学習過程について、教員の臨床心理士としての実務経験に基づいた例を交え、その基礎的な考え方を理解する。							
授業計画								
1	心理学とは ・様々な心理学 ・心理学を学ぶ意義	9	感情と動機づけの発達 ・感情とその機能・動機づけ					
2	発達とは ・発達が意味するもの・発達を規定するもの 質的变化と量的変化についてグループディスカッション	10	愛着と親子関係 ・愛着の発達とその機能・親の子育てと親の発達					
3	発達の原理 ・発達の法則性	11	道徳性と発達と心の理論 ・道徳性の発達 ・心の理論					
4	乳児の発達 ・1年半の発達	12	描画の発達 ・手の運動面の発達と描画 ・知的リアリズム・視覚的リアリズム					
5	言語・コミュニケーションの発達 ・前言語的コミュニケーション ・言語的コミュニケーション・養育者の役割	13	保育実践と指導①「活動への動機づけ(モチベーション)の理論について学習する」					
6	遊びと仲間関係の発達 ・遊びとは何か・遊びの発達の变化 ・仲間関係の発達特徴	14	保育実践と指導②「指導の形態について学習し、学びの場面設定の工夫について考える」					
7	認知と思考の発達 ・ピアジェの発達理論 ・各時期の認知・思考の発達特徴	15	まとめ					
8	自己の発達 ・自己という意識・他者と自己の関係							
成績評価の方法・基準	定期試験による評価(70%)、レポート課題(10%)、毎授業後の振り返りシート(20%)							
留意事項	保育者となることを自覚しながら学ぶこと。							
準備学習(予習・復習等)	事前課題として Google フォームにて予習課題に取り組んでもらいます。 事後課題として、Google フォームにて確認課題に取り組んでもらいます。						必要時間:3時間	
課題のフィードバック	授業内で取り組んだ課題は、次週にコメントし解説する。							
テキスト	教員配布資料							
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館、その他、適宜資料を配付、参考図書を紹介する。							

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修/選択		担当者	
子どもの理解と援助 Assessment and Support for Children		2年後期	演習	1	卒業選択 資格必修		濱田 尚志	
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7
				○	◎		○	
授業の目的	保育において、子どもの実態に応じた心身の発達や学びは様々である。そのことを理解し、生活や遊びの中で、子ども理解を深める視点と実践方法について学び、子どもの発達をより豊かに育むための知識や技術について学習する。							
到達目標	1. 保育の実践において、個々の子どもの発達の段階を把握する意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解するうえでの基礎知識と具体的な方法を理解する。 3. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本的な姿勢について理解する。							
授業の概要	子どもの発達を踏まえて、子どもの理解を深め、保育実践における援助方法についての知識を習得する。教員の臨床心理士としての実務経験から作成した演習課題等を通して、現場で活用する実践力を育み、乳幼児期の教育を担う専門家としての資質の向上を図る。さらにグループワークを通して協働力を身につける。							
授業計画								
1	子どもの実態に応じた発達や学びの把握(1) 保育における子どもの理解の意義について学ぶ。	9	子ども理解を深める観察と記録(2) 保育現場において子どもを「見る」視点と記録の意義について理解する。					
2	子どもの実態に応じた発達や学びの把握(2) 子どもを理解するために求められる姿勢について考える。	10	子ども理解を深める保育カンファレンス(1) 園内研修の必要性と意義、保育カンファレンスについて把握する。					
3	子どもを理解する視点と保育実践(1) 子どもの生活や遊びについて学び、子どもの発達を促す保育の実践を考える。	11	子ども理解を深める保育カンファレンス(2) 子ども理解に役立つ保育カンファレンスの在り方について考え、事例を通じたグループワークを実践する。					
4	子どもを理解する視点と保育実践(2) 保育環境と子どもの発達の関係について学び、保育者としての姿勢や場面設定を考える。	12	子ども理解に基づく発達援助(1) 保育における発達の課題に応じた援助方法について考える。					
5	子どもを理解する視点と保育実践(3) 子ども同士の相互交流と集団における経験と育ちについて学び、クラス運営について考える。	13	子ども理解に基づく発達援助(2) 特別な配慮を要する子どもの理解と援助方法について考える。					
6	子どもを理解する視点と保育実践(4) 発達段階における葛藤やつまずきを把握し、個々の発達に応じた支援の方法について考える。	14	事例検討 個々の発達段階を把握した支援の方法について考え、レポートにまとめる。					
7	子どもを理解する視点と保育実践(5) 環境の変化や移行について学び、チームワークによる協同について考える。	15	まとめと考察 レポート課題の解説および発達援助の考察を行う。					
8	子ども理解を深める観察と記録(1) 子ども理解に必要な行動観察の理論と方法について学ぶ。							
成績評価の方法・基準	レポート課題(30%)、授業中の演習課題(50%)、受講態度(20%)を総合して評価する。							
留意事項	演習課題では、実践力につながるように、積極的に取り組むこと。なお、授業中の私語、居眠り、スマートフォンの使用は減点の対象とする。							
準備学習(予習・復習等)	事前課題として Google フォームにて予習課題に取り組んでもらいます。 事後課題として、Google フォームにて確認課題に取り組んでもらいます。						必要時間:45分	
課題のフィードバック	レポート課題および演習課題は、実施後に回収する。次週、理解の程度や、質問や疑問などに合わせて、解説する。返却は、授業期間中内に行う。							
テキスト	教員配布資料							
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館、その他、適宜資料を配付、参考図書を紹介する。							

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者		
保育方法・技術 Method and Technique of Pre-school Education		1年後期	演習	1	卒業選択 免許必修・資格選択必修		大原 青子		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
					◎		○		○
授業の目的	保育方法および記述について、一般的な原理・技術を理解し、保育に関する一般的な知識を身につける。また、モンテッソーリ教育の原理を理解し、全ての保育現場で応用できるような知識を身につける。								
到達目標	1. 保育方法に関する一般的な原理を理解し、保育技術に関する一般的な知識を身につける。 2. 保育方法に関する一般的な技術を理解し、保育技術に関する一般的な技術を身につける。 3. モンテッソーリ教育の原理を理解し、全ての保育現場で応用できるような知識を身につける。								
授業の概要	担当者の保育士としての実務経験を下に、保育方法・技術に関する一般的な知識や技術を習得するとともに、モンテッソーリ教育法について、その保育方法・技術を探求する。また内容が演習を伴う内容の講義についてはクラスを前・後半に分け、少人数制でグループワークやディスカッションを実施する場合もある。講義全 14 回とまとめ1回の全 15 回行う。								
授業計画									
1	保育方法・技術について概論			9	保育方法技術の実際 2 -大人の準備・心得(人的環境の整え方)				
2	モンテッソーリ教育概論・方法と原理、自立へと導く活動の原理、世界・日本の現状			10	保育方法・技術の実際 3 -自由選択活動と制限のもうけ方 グループワーク／ディスカッション - 集団での活動について(横割り vs 縦割り)				
3	モンテッソーリ乳幼児発達理論 -乳・幼児の発達段階概論 -乳・幼児の心理発達			11	保育方法・技術の実際 4 -観察理論 -観察の実際				
4	保育室の環境づくり -家庭環境・0歳児の環境 グループワーク／ディスカッション			12	保育方法・技術の実際 5 -自尊心・自信・有用感・所属感の育て方 - 健やかな精神を育てるための大人の態度				
5	モンテッソーリ乳幼児発達理論 -脳神経と自律運動の発達			13	モンテッソーリ教育の実際Ⅱ -『日常生活の練習』の意義 - 調理・環境をお世話する活動 - 戸外でのガーデニング活動・自然体験				
6	モンテッソーリ教育の実際 -運動発達を促す環境 - 心理・感覚・運動環境 グループワーク			14	モンテッソーリ教育の実際Ⅱ -感覚・数教育 文化教育～小学校へ				
7	保育方法技術の実際 1 -言語 聞く力・話す力の発達 -表現する力			15	まとめ				
8	保育室の環境づくり -1・2歳児の環境								
成績評価の方法・基準	出席(10%)＋提出物・レポート(40%)を原則として総合評価する。								
留意事項	特になし								
準備学習(予習・復習等)	毎回の講義内容を復習し、ノートをまとめておくこと。							必要時間:45分	
課題のフィードバック	教材制作などの提出課題は採点し、次週の授業で返却し総評する。								
テキスト	プリント配布のため特になし。								
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 「新しい世界のための教育」マリア・モンテッソーリ 関 聡(訳) 青土社								

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者	
幼児理解 Developmental Clinical Psychology		1年前期	講義	2	卒業選択 免許必修・資格選択必修		安元・丸山・萩尾	
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7
				○				◎
授業の目的	現代における幼児の家庭での生育過程は、多岐に渡っている。様々な子どもが集まってくる幼稚園、認定こども園、保育所の果たす役割は大きくなっている。そういう意味で一人ひとりの子どもに向き合い行動を分析し、内面に潜む心の動きや行動を理解しながら指導・支援について修得する。							
到達目標	1. 幼児間のトラブル対処の現実と実際を知り、色々な対応要素があることを理解する。 2. 年齢や発達段階に応じた絵本選びの視点がわかるようになる。 3. 養育環境の変化を踏まえた、育児支援の現状と課題を知り、役割を理解する。							
授業の概要	幼稚園・認定こども園における幼児の実態や指導の実際から幼児教育の現状を知る。また、担当者の幼稚園教諭、保育士また園長としての実務経験を下に、保育現場の実践・エピソードをとおして、子どもをどのように見て理解していくかを学習する。事例をもとに、グループワークやプレゼンテーションを行う。							
授業計画								
1	子どもを理解する姿勢とは(安元) カウンセリングマインドをベースに幼児理解の方法を考える	9	子どもを取り巻く環境の変化(丸山) ・保育の現場における子育て支援の必要性を知る。					
2	「わたし」とはなんだろう(安元) 絵本を通して「わたし」を考える 「わたし」を創る「経験」の大切さを知る	10	保育者の役割(丸山) ・保育者の資質について 自分自身の内面を見つめなおし、その役割を考える。					
3	幼児理解の事例研究①(安元) 遊びや活動の中での幼児理解についての事例を取り上げ考察する	11	保育の過程と理解の方法(萩尾) ・観察を通して理解する 観察とは何だろう					
4	幼児理解の事例研究②(安元) 遊びや活動の中での幼児理解についての事例を取り上げ考察する	12	保育の過程と理解の方法(萩尾) ・かかわりながら理解する① 困る経験、とまどう経験からの気づき					
5	子育て環境の変化(安元) 子どもを取り巻く環境を知り、保育の場における子育て支援・家庭支援の必要性を知る	13	保育の過程と理解の方法(萩尾) ・かかわりながら理解する② 子ども像の再構築 (グループワーク)					
6	子どもの理解①(丸山) 視聴覚教材を使用し、園での子どもの活動を知る。	14	保育の過程と理解の方法(萩尾) ・記録から理解する 何を記録するのか (プレゼンテーション)					
7	子どもの理解②(丸山) 遊びや活動の中で、幼児理解について事例を取り上げ考察する。	15	保育の過程と理解の方法(萩尾) ・話し合いを通して理解する 課題を共有する					
8	子どもの理解③(丸山) 発達に沿った年齢別読みかせ ～絵本で広がる子どもの世界～							
成績評価の方法・基準	レポート、提出物70%、受講態度・姿勢30%で総合評価する。							
留意事項	1～5回は安元、6～10回は丸山、11～15回は萩尾が担当する。							
準備学習(予習・復習等)	年齢に応じた絵本を選んでおく(3, 4, 5歳児、各1冊)図書館で借りた物、購入したもの等						必要時間:3時間	
課題のフィードバック	レポートは次回に返却し、その際に総評を行う。							
テキスト	プリント配布							
参考書等	萩尾:「幼児理解と保育援助」森上史朗 浜口順子(ミネルヴァ書房) 安元:「子ども理解とカウンセリングマインド」青木久子著(萌文書林) 丸山:保育者論(著者)汐見稔幸。大豆生田啓太							

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修/選択		担当者	
子ども家庭支援の心理学 Psychology of Child and Family Support		2年前期	講義	2	卒業選択 資格必修		牛島 弘輔	
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7
				○	○			◎
授業の目的	心理学の基礎的な知識を踏まえ、家族を発達の初期から生涯に及ぶ長い変化の過程として理解できるようになることを目標とする。また、現代の子育ての実態や子育て支援の現状を理解し、家族が抱える様々な心理的問題や悩みについて、社会的背景をふまえて感じ取れる視点を習得することを目的とする。							
到達目標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得する。 2. 家族の意義を理解し、親子関係や家族の成長を発達のかつ包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と子育て支援について理解する。							
授業の概要	生涯発達の視点から、各年代の発達課題を理解する。また、現代社会の課題を理解した上で、現代の家族や家庭の意義を探究する。さらに親育ちや家族の発達に関する考え方を学び、家族を発達の・包括的に捉える視点を習得する。また子どもの心の健康に関する基礎知識について、臨床心理士としての実務経験に基づいた事例等も紹介しながら学ぶ。							
授業計画								
1	オリエンテーション ・授業概要と評価方法の説明 ・乳児期についての発達の概要	9	親子関係・家族関係の理解 ・家族の中の様々な関係					
2	生涯発達についての理解① ・乳幼児期・幼児期についての発達の概要	10	多様な子育て家庭の理解と支援 ・育児不安、孤立しがちな家庭への支援					
3	生涯発達についての理解② ・学童期・思春期における発達の概要	11	特別な配慮を要する家庭への支援 ・関係機関との連携					
4	生涯発達についての理解③ ・青年期・成人期・中年期における発達の概要	12	子どもの生活・生育環境とその影響 ・子どもの貧困					
5	子育ての経験と親としての育ち ・親になることによる発達とそれに関わる要因	13	子どものこころの病気① ・生活習慣に関する問題 ・言葉に関する問題 ・習癖に関する問題					
6	家族・家庭の意義と機能	14	子どものこころの病気② ・愛着に関する問題 ・問題行動の捉え方と援助の視点					
7	子育てを取り巻く社会的状況 戦後から現代までの家族ならびに子育て環境の変化	15	心の健康について ・あなたの家庭支援がこどもの心に与えるものとは					
8	ライフコースと仕事・子育て期のワーク・ライフバランス							
成績評価の方法・基準	授業内小テスト(50%)、受講態度・姿勢(20%)、レポート(30%)で総合評価する。							
留意事項	身近な子育て支援(つどいの広場等)の現場を積極的に見学したり、親子活動に参加したりすること。							
準備学習(予習・復習等)	授業で配布した資料を読み込み、授業で学んだ知識の定着をはかること。授業で学んだテーマに関する新聞記事やニュースに常に関心を持つこと。						必要時間:3時間	
課題のフィードバック	小テストについては次週以降に解説し、振り返る。授業内で取り組んだ課題は、その回でコメントし解説する。							
テキスト	「子ども家庭支援の心理学」 白川佳子 福丸由佳							
参考書等	授業の中で適宜紹介する。							

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
保育・教育相談支援 Counseling and Support in Child Care・Education		2年後期		演習		1		卒業選択 免許・資格必修		園田 和江	
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				○	○			◎	○		
授業の目的		現代社会において、子どもを取り巻く社会環境の変化や育児のあり方が多様化している。保護者に対して子育て支援を適切に行うために基本的理論や知識を習得し、具体的な相談援助の技術等について学び、適切な支援が行えるようになることを目的とする。									
到達目標		1. 保育・教育相談支援の意義について理解する。 2. 保育・教育相談支援の基本的理論と知識を学び、その内容や方法を理解する。 3. 子どもを取り巻く環境を把握し、適切な保護者支援を考えられるようになる。									
授業の概要		保護者支援の意義と原則の理解、保護者や家族に対する理解と援助の考え方を学ぶ。さらに地域社会を視野に入れた支援や社会資源との連携等についても理解する。担当者は、臨床発達心理士、保育士としての実務経験を下に実践例を紹介するので、具体的な場面での相談技術を身につけることが出来る。									
授業計画											
1	保育相談支援の基本的な考え方 ①保育・教育相談支援の意義	9	保育・教育相談支援の具体的な展開 ②関係機関との協働、多様な専門職との連携 「グループワーク」関係機関、専門職についてまとめる								
2	保育相談支援の基本的な考え方 ②保育・教育相談支援とソーシャルワーク 「グループワーク」ソーシャルワークについて考える	10	保育・教育相談支援の具体的な展開 ③社会資源の活用と事例分析 「グループワーク」エコマップで整理する								
3	保育相談支援の基本的な考え方 ③保育・教育相談支援と生活課題 「グループワーク」生活課題をKJ法で捉える	11	保育・教育相談支援の実際 ①エンパワメント支援計画書の活用 「グループワーク」エンパワメント支援計画書の作成方法								
4	保育相談支援の基本的な考え方 ④自己覚知と他者理解 「ディスカッション」価値観について	12	保育・教育相談支援の実際 ②生活のリズムが整わない子どもの事例分析 「グループワーク」エンパワメント支援計画書の作成								
5	保育・教育相談支援の方法と技術 ①相談援助者としての基本原則 「ディスカッション」バイスティックの原則について	13	保育・教育相談支援の実際 ③障がいのある子どもと、その保護者への支援の事例 「グループワーク」エンパワメント支援計画書の作成								
6	保育・教育相談支援の方法と技術 ②カウンセリングマインドや面接の基本技術 「ロールプレイ」保育者と保護者になり面接を行う	14	保育・教育相談支援の実際 ④虐待の予防と対応の事例分析 「グループワーク」エンパワメント支援計画書の作成								
7	保育・教育相談支援の方法と技術 ③家族関係や連携機関の把握 「グループワーク」ジェノグラム・エコマップの作成	15	保育・教育相談支援のまとめ 「プレゼンテーション」保育者として保育・教育相談支援に求められていること								
8	保育・教育相談支援の具体的な展開 ①計画・記録・評価 「グループワーク」事例検討										
成績評価の方法・基準	期末試験 50%、授業中の演習課題 30%、授業に取り組む態度 20%で採点し、60%以上取得で単位認定。										
留意事項	実習先での保育士、幼稚園教諭と保護者のかかわり方について関心を持って両者の様子を観察すること。また、子育て支援の現場を見学したり、参加したりすること。										
準備学習 (予習・復習等)	保育・教育相談支援は知識を基礎にして、問題を解決していく実践力が問われる。そのため、予習復習にしっかりと取り組むこと。									必要時間:45分	
課題の フィードバック	授業内で取り組んだ演習課題は、その場でコメント・解説する。提出した課題については、次週、理解の程度や、質問や疑問などを含めて解説する。返却は、授業期間中内に行う。										
テキスト	「保育パワーアップ講座 基礎編」安梅 勅江編 日本小児医事出版社										
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館										

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
子どもの保健 Children's health		1年後期		講義		2		卒業必修 資格必修		田中 千絵	
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				○	◎			○			
授業の目的		子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、成長発達、心身の健康状態とその把握方法について理解する。子どものかかりやすい疾病と適切な対応について学び、保育の専門職として、子どもが地域の中で健やかに育まれることを手助けできるための知識を修得する。									
到達目標		1. 子どもの発育・発達を踏まえ、病気だけでなく、積極的に健康増進する方法を学ぶ。 2. 子どもを取り巻く環境と精神保健、地域における母子保健行政について学ぶ。 3. 子どもの健康及び安全管理に関わる、組織的に関わりや保健活動の計画及び評価等について学ぶ。									
授業の概要		子どもの保健では、担当者の看護師および助産師としての実務経験を下に、子どもの健康な成長発達、病気の特徴や予防について課題解決型学習等の手法を取り入れ学習者が能動的に学習に参加する。子どもを取り巻く環境、代表的な疾患の特徴とガイドラインに基づく対応方法や母子保健政策を学ぶ。									
授業計画											
1	オリエンテーション 子どもの心身の健康と保健の意義 子どもの健康と統計;健康の定義と所統計	9		子どもの心身の健康状態とその把握① 健康状態の観察・心身の不調等の早期発見 体温・脈拍・呼吸・全身の様子							
2	現代社会における子どもの健康の現状と課題 子どもの貧困、医療的ケア児、病気・障害の予防 地域における保健活動と子ども虐待防止	10		子どもの心身の健康状態とその把握② ・発育発達の把握と健康診断 ・身体発育の評価							
3	子どもの身体的発育・発達と保健① 生物としての人の成り立ち・器官の成立週数 乳幼児期の身体発育と評価	11		子どもの疾病の予防及び適切な対応① ・感染症と予防接種 ・人獣共通感染症・ペットからの感染							
4	子どもの身体的発育・発達と保健② 運動機能の発達と評価 感覚機能の発達 神経系の発達	12		子どもの疾病の予防及び適切な対応② ・先天異常・染色体異常・子宮内感染症 ・先天性心疾患							
5	生理的機能の発達と保健① ・呼吸機能・循環機能・免疫機能 ・消化機能・排泄機能	13		子どもの疾病の予防及び適切な対応③ アレルギー疾患とアナフィラキシー 栄養の障害・代謝の病気・内分泌の病気 消化器の病気・呼吸器の病気・循環器の病気							
6	生理的機能の発達と保健② ・排泄機能・水分代謝・体温調節・内分泌機能 ・神経系の発達	14		子どもの疾患の予防及び適切な対応④ 血液疾患・悪性腫瘍・神経系疾患 皮膚の病気・運動器の病気・眼・耳・鼻の病気							
7	発達に即応した基本的生活習慣の形成① ・睡眠の意義・リズム・生活リズム形成への支援	15		子どもの疾患の予防及び適切な対応⑤ 腎・泌尿生殖器疾患・皮膚の疾患・運動器疾患							
8	発達に即応した基本的生活習慣の形成① ・食習慣・排泄の習慣・清潔習慣										
成績評価の方法・基準		筆記試験70% 課題レポート 20% 受講態度・姿勢 10%									
留意事項		いくつかの課題テーマのうちから、2題選び、文献や資料を基に一題につき A4レポート1枚作成する。									
準備学習 (予習・復習等)		(準備)オリエンテーション時、各回の内容に関する教科書の該当箇所を伝えるので、事前に教科書を読んでから出席すること。								必要時間:3時間	
課題の フィードバック		提出された課題レポートは、次回の授業時に紹介し、返却する。									
テキスト		子どもの保健 第1版 中根淳子・佐藤直子 他 編著 みなみ書房									
参考書等		子どもの健康と安全 第1版 中根淳子・佐藤直子 他編著 みなみ書房									

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者		
子どもの健康と安全 Child Health and Safety		2年前期	演習	1	卒業選択 資格必修		田中 千絵		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
				○	◎				
授業の目的	保育指針に基づき、子どもの健康及び安全を確保したうえで、子どもの生活や発達過程を見通し、心身の健康に関する保健活動や環境の調整を行えるよう保育の内容を組織的・計画的に構成し、保育を実践できる方法を習得する。								
到達目標	1. 子どもの成長発達を理解し、心身の健康に関する保健活動の計画及び評価について学ぶ 2. 子どもの保育環境における衛生管理および安全管理の方法についてガイドラインに基づき学ぶ。 3. 子どもの体調不良時の適切な対応とガイドラインに基づく感染症対策・アレルギー対策について学ぶ。								
授業の概要	「子どもの保健」での既習学習をもとに、担当者の看護師および助産師としての実務経験を活かし、子どもの健康や病気・事故について対応だけでなく予防について、実際の場面を想定しながら課題解決型学習の手法を用い実践・評価の方法を学ぶ。								
授業計画									
1	オリエンテーション 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 ・子どもの健康と保育の環境 ・子どもの健康に関する個別対応と集団全体の健康及び安全管理	9	保育における保健的対応① ・保育における保健的対応の基本的な考え方 ・3歳未満児の養護の実際						
2	保健における健康及び安全管理① ・衛生管理・屋外施設の衛生管理 ・日常の清潔保持と消毒	10	保育における保健的対応② ・個別的な配慮を要する子どもへの対応 ・熱性けいれん・てんかん・アレルギー性疾患						
3	保健における健康及び安全管理② ・事故防止及び安全対策・危機管理・災害への備え	11	保育における保健的対応③ ・保育における保健的対応の基本的な考え方 ・3歳未満児の養護の実際						
4	子どもの体調不良に対する適切な対応① ・体調不良や障害発生時の対応 ・子どもにおこりやすい体調不良とケア	12	保育における保健的対応④ ・障害のある子どもへの対応・医療的ケア ・精神発達に関する障害・肢体不自由・視覚・聴覚障害						
5	子どもの体調不良に対する適切な対応② ・子どもに起きやすい事故の応急処置 ・ショック・出血と止血法・傷の応急処置・頭部打撲	13	健康及び安全管理の実施体制① ・職員間の連携・保育における保健活動の計画・評価 ・母子保健・地域保健における自治体との連携						
6	子どもの体調不良に対する適切な対応③ ・子どもに起きやすい事故の応急処置 ・熱傷・熱中症・異物の挿入と誤飲・鼻血	14	健康及び安全管理の実施体制② ・子ども子育て支援の制度 ・専門機関・地域との連携						
7	子どもの体調不良に対する適切な対応④ ・救急処置及び蘇生法 ・気道異物の除去・一次救命処置の実際	15	子どもの保健と安全 まとめ						
8	感染対策 ・感染症の集団発生の予防・感染経路による対応 ・感染症発生時と罹患後の対応 ・出席停止日数の数え方								
成績評価の方法・基準	筆記試験70% レポート提出20% 受講態度・演習姿勢10%								
留意事項	実技演習を行う時は、保育実習に準じた演習にふさわしい身だしなみを整えて出席すること。								
準備学習 (予習・復習等)	(準備)オリエンテーション時、各回の内容に関する教科書の該当箇所を伝えるので、事前に教科書を読んでから出席すること。							必要時間:45分	
課題の フィードバック	第1回目、第10回目にレポートを出題。次回レポート内容について講義で総評する。								
テキスト	子どもの健康と安全 第1版 中根淳子・佐藤直子 編著 ななみ書房								
参考書等	子どもの保健 第1版 中根淳子・佐藤直子 編著 ななみ書房								

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者		
子どもの食と栄養 I Food and Nutrition for Children I		2年前期	演習	1	卒業選択 資格必修		山下 浩子		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
				○	◎			○	
授業の目的	小児期の栄養と食生活は、生涯にわたり健康生活の基礎となることを学ぶ。とくに保育者として、子どもの心とからだの健康のために大切であることを理解する。また、保育との関連のなかで小児期の適切な食生活指導・食教育を理解する。								
到達目標	1. 栄養の基礎知識を習得する。 2. 乳児期、幼児期の望ましい食生活のあり方を理解する。 3. 保育士として、子どもの食育の意義を理解する。								
授業の概要	講義形式で、栄養の基礎知識、子どもの食生活の現状と望ましい食生活のあり方について学ぶ。また、保育士としての子どもの食育への取組みを習得するために、自身の食生活チェックやグループディスカッションなど演習を行う。実習では、調乳とだしの取り方を行う。								
授業計画									
1	子どもの栄養と食生活の現状 子どもたちの栄養の実態について知る。 食育(1)-「楽しく食べることの大切さ」を学ぶ。	9	小児期の栄養・食生活(3)-乳汁期 母乳栄養・人工栄養・混合栄養、調乳について学ぶ。						
2	食生活の評価 [課題レポート] 「食事バランスガイド」を使って、自身の食生活について評価を行う。	10	小児期の栄養・食生活(4)-離乳期 「授乳・離乳支援ガイド」に基づき、離乳開始から完了までの支援、離乳食の与え方や献立について学ぶ。						
3	栄養の基礎知識(1) 栄養とは何か、五大栄養素の働き、三色食品群について学ぶ。	11	<実習1> レポート① 調乳(無菌操作法)を学ぶ。 冷凍母乳パックの取り扱いを知る。						
4	栄養の基礎知識(2) 消化と吸収のしくみについて学ぶ。	12	<実習2> レポート② だしの取り方を学ぶ。 「うま味」を知る。						
5	栄養の基礎知識(3) 栄養バランスのとれた食事の指標・評価となる食事摂取基準、食品構成、食品群などについて学ぶ。	13	小児期の栄養・食生活(5)-幼児期 幼児期の栄養の特徴、食習慣の成立、咀嚼力・食行動の発達について学ぶ。						
6	小児期の成長と発達 小児期の区分、体の成長・発達の基本、成長の評価方法について学ぶ。／小テスト①	14	小児期の栄養・食生活(6)-幼児期 共食や間食、弁当の意義および食生活上の問題点とその対策について学ぶ。						
7	小児期の栄養・食生活(1) [課題レポート] 教育実習を終えて、「子どもの食」について、グループディスカッション・発表を行う。	15	児童福祉施設の食生活(1) 保育所給食の役割、現状、課題について学ぶ。 小テスト②／まとめ						
8	小児期の栄養・食生活(2) 胎児の発育と栄養、妊娠期の食生活について、「妊産婦のための食生活指針」などを参照し理解する。								
成績評価の方法・基準	授業内で行う2回的小テスト(40%)、課題・実習レポート(30%)、受講姿勢(30%)で評価する。								
留意事項	教育実習の時期に合わせ、授業予定の週を変更する場合がある。課題・実習レポートは提出期限を守ること。								
準備学習(予習・復習等)	授業計画に沿って、テキストを読んでおくこと。						必要時間:45分		
課題のフィードバック	小テストは、実施後に解説し、次回以降に返却する。課題・実習レポートは、最終回に総評および返却する。								
テキスト	「子どもの食と栄養 [第2版]」 高内正子監修 今津屋直子編著 保育出版社								
参考書等	「保育所保育指針」ほか随時紹介する。								

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修/選択	担当者			
子どもの食と栄養Ⅱ Food and Nutrition for Children Ⅱ	2年後期	演習	1	卒業選択 資格必修	山下 浩子			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			○	◎			○	
授業の目的	小児期の栄養と食生活は、生涯にわたり健康生活の基礎となることを学ぶ。とくに保育者として、子どもの心とからだの健康のために大切であることを理解する。また、保育との関連のなかで小児期の適切な食生活指導・食教育を理解する。							
到達目標	1. 離乳食の進め方を理解する。 2. 幼児食を通じた子どもの食育を理解する。 3. 「保育所保育指針」における食育の位置づけと保育士の役割を理解する。							
授業の概要	はじめに、「子どもの食と栄養Ⅰ」の復習と、離乳期、幼児期の食のあり方について学習する。つぎに幼児の食事について、グループ実習を行う。内容は、間食、夕食、弁当及び行事食である。講義においては、保育所における食育を中心に学習し、各テーマについてグループディスカッションを行う。							
授業計画								
1	オリエンテーション		9	<実習6> 幼児食6 レポート④ 行事食(クリスマスケーキ)				
2	「子どもの食と栄養Ⅰ」の復習 Ⅰの学習内容を確認する。		10					
3	小児期の栄養・食生活(7)-離乳期 離乳食の進め方、献立内容(生後5～6か月、7～8 か月、9～11か月、12～18か月ころ)を学ぶ。		11	<実習7 幼児食7 レポート⑤ 行事食(郷土料理「がめ煮」)				
4	小児期の栄養・食生活(8)-幼児期 朝・昼・夕食、間食、弁当、行事食について学ぶ。 小テスト①		12	小児期の栄養・食生活(8)-学童期・思春期 学童期・思春期の栄養の特徴、学校給食および食生活 上の問題点とその対策について学ぶ。				
5	食育(2)-保育所における食育 食育の目標、ねらい及び内容を学ぶ。また食育の視 点から給食を考える(グループディスカッション)。		13	小児期の栄養・食生活(9) 保育所における食物アレルギー児への対応について 学ぶ。				
6	<実習3> 幼児食1 レポート① 間食(小魚おやき、お茶)		14	食育(3)-子育て支援と食育 食育を通して、保護者へのアプローチの方法を考え る(グループディスカッション)。/小テスト②				
7	<実習4> 幼児食2 レポート② 3～5歳児の食事(夕食)		15	まとめ 実習レポートの総評を受け、学習内容をまとめる。				
8	<実習5> 幼児食3 レポート⑥ 幼児の弁当							
成績評価の 方法・基準	授業内で行う小テスト(30%)、実習レポート(40%)、受講姿勢(30%)で総合評価する。							
留意事項	実習レポートの提出は期限を守ること。							
準備学習 (予習・復習等)	授業計画に沿って、テキストを参照し、実習テーマおよび講義の内容を確認しておく こと。						必要時間:45分	
課題の フィードバック	小テストは、実施後に解説し、次回以降に返却する。実習レポートは、最終回に総評および返却する。							
テキスト	「子どもの食と栄養 [第2版]」 高内正子監修 今津屋直子編著 保育出版社							
参考書等	「保育所保育指針」ほか随時紹介する。							

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者	
教育課程論 Curriculum of Early Childhood Education		1年後期	講義	2	卒業選択 免許・資格必修		増田 吹子	
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7
					◎			○
授業の目的	教育・保育における指導計画の必要性を理解し、計画的に教育・保育を展開し、保育の質を向上させるために必要な考え方を身に付けることを目的とする。また、教育課程・全体的な計画の編成や指導計画作成の考え方について理解し、実際に指導計画を作成することを通して計画立案の基礎について理解する。							
到達目標	1 教育課程・全体的な計画や評価の考え方や意義、カリキュラムマネジメントについて理解する。 2 計画立案の基礎となる、要領・指針にほける教育(保育)の基本について理解する。 3 教育課程・全体的な計画・指導計画の考え方について理解し、指導計画を立案できる。							
授業の概要	入園から修了までの園生活の大綱である教育課程・全体的な計画の概念・基本、指針・要領における教育・保育の基本やカリキュラムマネジメント等について理解する。子どもの姿を踏まえた指導計画の立案など指導計画の考え方を学び、指導計画を作成する(課題解決型学習)。							
授業計画								
1	授業ガイダンス 教育・保育の基本①保育とは何か 幼稚園・保育所・こども園における保育の目的	9	保育所の理解① 保育所保育指針における保育の基本(保育所保育の目標、養護と教育の一体性)について					
2	教育・保育の基本②子どもの育ちと保育 領域(ねらい・内容)、育みたい資質・能力、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」について	10	保育所の理解② 全体的な計画・長期計画・短期計画・個別計画について					
3	教育課程・全体的な計画と指導計画① 教育課程・全体的な計画の考え方や編成の手順について	11	指導計画の基本と作成① 指導計画の作成手順、「子どもの姿」のとらえ方について					
4	教育課程・全体的な計画と指導計画② 幼稚園・保育所・認定こども園の概要、認定こども園における全体的な計画の考え方について	12	指導計画の基本と作成② 「子どもの姿」を基に「ねらい」「内容」を考える					
5	幼稚園の理解① 幼稚園教育要領における幼児教育の基本(環境を通じた教育・幼児期にふさわしい生活)について	13	指導計画の基本と作成③ 「環境の構成」「予想される子どもの姿」「保育者の援助・配慮」を考える					
6	幼稚園の理解② 幼稚園教育要領における幼児教育の基本(遊びを通じた指導・発達の特性に応じた指導)について	14	指導計画の基本と作成④ これまで学んだことを基に、部分指導の計画を作成する(指導計画の提出)					
7	幼稚園の理解③ 教育課程の考え方、教育課程と長期計画の関係について	15	保育の実践と評価 教育・保育の評価、カリキュラムマネジメント、要録について					
8	幼稚園の理解④ 長期計画と短期計画の関係について 保育者の援助・配慮の考え方について							
成績評価の方法・基準	定期試験(90%)、指導計画の提出(10%)							
留意事項	覚えるのではなく理解するという姿勢で授業に臨むこと。							
準備学習(予習・復習等)	授業後にテキストを読み返し、配布物・提出物の整理を行うこと。						必要時間:3時間	
課題のフィードバック	課題は随時添削し、授業内で総評を行う。							
テキスト	岩崎淳子他、「教育課程・保育の計画と評価―書いて学べる指導計画」、萌文書林							
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 及び各解説 フレーベル館							

科目名		開講時期	授業形態			単位数	必修／選択		担当者		
保育内容総論 Introduction to Early Childhood Education and Care		1 年前期	演習			1	卒業必修 免許・資格必修		増田 吹子		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				◎	○						
授業の目的	保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領の基本を理解し、保育内容について総合的に学ぶことを目的とする。特に5領域の関連性、幼児期の終わりまでに育みたい資質・能力等の保育を構成する際に必要な事項について理解を深め、実際の保育の展開について具体的に学ぶ。										
到達目標	1. 保育所保育指針等における保育の基本を踏まえた指導の考え方について理解する。 2. 長期指導計画と短期指導計画の関係等、指導計画の考え方を理解する。 3. 乳幼児の発達的な特徴を踏まえた保育実践の方法を構想する。										
授業の概要	保育の基本と保育内容、乳幼児の発達と生活等、保育を展開する上での基本的事項について理解を深める。さらに実習での経験を踏まえながら、乳幼児の発達や興味関心に基づいた保育の展開について、事例検討・発表・模擬保育等の課題解決型学習を通じて保育を構想する力を身に付ける。										
授業計画											
1	授業ガイダンス 領域とは何か（グループワーク） 「5領域」の意味について考える	9	発達段階と保育内容 乳児～5歳児の発達段階と各段階に応じた保育内容について学ぶ								
2	幼稚園・保育所の生活と制度 幼稚園・保育所・認定こども園の違いについて学ぶ	10	子育て支援と保育内容 子育て支援が求められる社会背景・子育て支援の内容について学ぶ								
3	保育内容の理解①（グループワーク） 一人でする折り紙・友達と遊ぶ折り紙・折り紙を教え合う活動を通して、子どもが経験することを考える	11	保育における計画① 指導計画の意義、子どもの姿のとらえ方、ねらい・内容の考え方について学ぶ								
4	保育内容の理解②（事例検討） エピソード記録やVTRを基に、子どもが経験することを考える	12	保育における計画②（グループワーク） グループで指導計画を立案する								
5	幼稚園・保育所の一日（事例検討） 園生活の一日の流れや保育者の配慮について学ぶ	13	保育における計画③（模擬保育） 前半のグループが保育者になり、他の学生を子どもに見立てて模擬保育を行う								
6	遊びや生活を通して学ぶ（事例検討） 「遊び」と「学び」の意味を知り、事例を通して遊びが学びになることについて学ぶ	14	保育における計画④（模擬保育） 後半のグループが保育者になり、他の学生を子どもに見立てて模擬保育を行う								
7	保育内容のとらえ方 保育内容について、指針・要領の特徴、2008年・2018年度改訂のポイントを学ぶ	15	模擬保育の振り返り 授業のまとめ								
8	5領域と保育内容（グループワーク） 領域の総合性について、実習での経験を基に学ぶ										
成績評価の方法・基準	最終レポート30%・中間レポート20%・振り返りの提出30%・指導案10%・模擬保育10%										
留意事項	覚えるのではなく理解するという姿勢で授業に臨むこと。										
準備学習（予習・復習等）	授業後にテキストを読み返し、配布物・提出物の整理を行う。 不明な点やさらに学びたいことについては、自主的に質問に来ること。							必要時間:45分			
課題のフィードバック	提出した振り返りシートは添削し、次回の授業で総評を行う。										
テキスト	大豆生田啓友、「最新保育講座④ 保育内容総論(第2版)」、ミネルヴァ書房										
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 及び 各解説 フレーベル館										

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者	
保育内容 健康 Childcare Content Health		1年後期	演習	1	卒業選択 免許・資格必修		新井 真実	
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7
			◎	○				
授業の目的	領域「健康」のねらいは、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ことにある。本授業では、保育所保育指針や幼稚園教育要領に示されている領域「健康」の内容を理解するとともに、保育現場でどのような健康指導が行われているのか考察することを目的とする。							
到達目標	1. 現代の子どもを取り巻く健康問題について知識と関心を深める。 2. 人の生涯の健康は、心身の健やかな育ちが基本となっていることを理解する。 3. 子どもに必要な基本的生活習慣への理解を深め、その指導・支援の実際について考察を行う。							
授業の概要	現代の子どもを取り巻く健康問題について、授業回ごとのテーマから知識を得ると共に、乳幼児期の心身の育ちに重要なことは何か考える。また、保育所保育指針や幼稚園教育要領に示されている領域「健康」の内容を把握し保育者としての健康観を深める。							
授業計画								
1	本学習の目的、内容説明 ・健康で、安全な幸福な生活のために ・「健康」とは何か	9	<演習> ・0～2歳児の遊び 生活の中にある遊びから戸外遊び					
2	<演習> Ⅰ 子どもの心と体の健康 ・幼児期の健康な生活とは	10	<演習> (グループワーク) ニュースレター作り ・3～5歳児の生活習慣の獲得 それぞれの年齢における生活習慣の獲得					
3	<演習> Ⅱ 子どもの身体の発達と運動能力 ・子どもの身体の発達	11	<演習> ・3～5歳児の生活習慣の獲得 ニュースレター 班ごとに発表 (課題レポート)					
4	<演習> Ⅱ 子どもの身体の発達と運動能力 ・運動能力と動きの獲得	12	<演習> ・3～5歳児の運動遊びの実際 多様な動きの経験と子どもの主体性					
5	<演習> Ⅱ 子どもの身体の発達と運動能力 ・安全の指導 (課題レポート)	13	<演習> ・3～5歳児の運動遊びのポイント 運動遊びと動機づけ (課題レポート)					
6	<演習> Ⅲ 領域「健康」 ・領域「健康」のねらいと内容・内容の取り扱い	14	<演習> ・安全への配慮 子どものけがを未然に防ぐ予測の重要性					
7	<演習> ・0～2歳児の生活と動き 這う、立つ、歩くなど生活のひろがり	15	・まとめ: 保育者の役割 ふり返り					
8	<演習> ・0～2歳児の身近自立・生活習慣の獲得 行きつもとどつする獲得の過程							
成績評価の方法・基準	課題レポート80%(4回) 受講態度20%で総合評価する。							
留意事項	日常的に「健康」に関する事象に関心を持ち、自身の健康観を深めることが望まれる。							
準備学習(予習・復習等)	取り扱うテーマについて、予めテキストの該当箇所を読み、疑問点を明らかにしておくこと。また、授業後には関連する参考書や新聞記事等を読み、考察を深めること。						必要時間: 45分	
課題のフィードバック	提出された課題は添削・採点し、学期末に各人に対してフィードバックを行う。							
テキスト	「保育内容 健康」河邊貴子著 建帛社							
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館							

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者			
保育内容 人間関係 Childcare Content Human Relationship		1年前期	演習	1	卒業選択 免許・資格必修	桑原 広治			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
				◎	○				
授業の目的	人が人との関わりの中で生きていくことの大切さを受講者自身が十分に理解し、その関わりの出発点となる乳幼児期の人との関わりの育ちを捉え、支え、深めていく保育者の視点や役割について学ぶことを目的とする。また、生活や遊びを通して人との関わりを育てていく援助のあり方についても学ぶことを目的とする。								
到達目標	1. 領域「人間関係」におけるねらいと内容について理解する。 2. 子どもの人間関係に関わる発達について理解し、説明できる。 3. 人間関係という視点から保育者の役割について理解し、援助方法を構想できる。								
授業の概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている領域「人間関係」のねらいや内容を理解する。また発達段階に応じて、乳幼児がどのように人と関わる力を身につけていくのか、具体的な事例をもとに考え、理解を深める。さらに保育者自身の人間関係についても考える。								
授業計画									
1	オリエンテーション 保育内容「人間関係とは」何か		9	乳児期における「人間関係」(1):0歳児の人間関係					
2	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「人間関係」のねらいと内容(1)3歳以上児について		10	乳児期における「人間関係」(2):1歳児の人間関係					
3	幼児期における「人間関係」(1):3歳児の人間関係		11	乳児期における「人間関係」(3):2歳児の人間関係					
4	幼児期における人間関係(2):4歳児の人間関係		12	「人間関係」の育ちを支える保育者の役割(2)					
5	幼児期における「人間関係」(3):5歳児の人間関係		13	乳幼児期における「人間関係」のまとめ:ほかの領域との関連性と子どもの「人間関係」の育ちを支える指導計画の作成					
6	「人間関係」の視点より実習を振り返る		14	「人間関係」における今日的課題					
7	「人間関係」の育ちを支える保育者の役割(1)		15	まとめの復習、学習内容の理解度確認のための筆記試験、解説					
8	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「人間関係」のねらいと内容(2)乳児～3歳未満児について								
成績評価の方法・基準	(1) 受講態度(発表等を含む)を重視(50%)、(2) 提出物(25%)、(3) 確認テスト(25%)、以上を総合して評価する。								
留意事項	講義は、アクティブ・ラーニング型で進める。ノート記録に気を配り、整理を行うこと。合わせて、メモの習慣化を図り、講述(口述)内容を筆記できるようにすること。「1分以内のひとまとまりの話」ができることをめざす。								
準備学習(予習・復習等)	授業後に配付資料を見直し、学びを深めること。また、指示されたテキストの箇所を熟読しておくこと。不明な点、さらに学びたい内容があれば質問をすること。						必要時間:45分		
課題のフィードバック	毎時間、振り返りシートの提出。授業内で取り組んだ課題(確認テストを含む)は、次回にコメントし解説する。								
テキスト	新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係 岩立京子 著 萌文書林								
参考書等	「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館、「保育所保育指針解説書」厚生労働省 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館								

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者		
保育内容 環境 Childcare Content Environment		2年前期	演習	1	卒業選択 免許・資格必修		増田 吹子		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
				◎	○			○	
授業の目的	「環境を通じた保育」等の保育の基本、幼児と環境の関わり、幼児と環境に関わる現代の問題等について学び、領域「環境」指導における専門的事項を理解することを目的とする。特に、栽培活動等の実際に園で行う保育を模擬的に体験し、それらの活動が領域「環境」においてどのような意味をもつか考える。								
到達目標	1 乳幼児の発達において環境のもつ意味や乳幼児と環境の関わりについて理解する。 2 領域「環境」のねらい及び内容、指導上の留意点等について理解する。 3 乳幼児が環境に関わる力を養うための具体的な指導方法を構想することができる。								
授業の概要	子どもが環境と関わる力を育てる保育の実践について、環境構成・保育者の関わりを中心に学ぶ。事例検討・指導案作成・発表・栽培活動等の課題解決型学習を通して、子どもが好奇心・探求心をもって環境に積極的に関わるための保育の構想、指導方法を身に付ける。								
授業計画									
1	保育の基本と領域「環境」 保育における「環境」の意味と領域「環境」の意義	9	文化や伝統に親しむ② 年中行事を行う際の指導案を作成し、発表準備をする。(課題解決型学習)						
2	子どもの育ちと環境① 「環境を通して行う保育」のあり方や子どもの遊びと環境について考える。(事例検討・発表)	10	文化や伝統に親しむ③ 保育の中で行う年中行事についてグループ内で発表する。(グループワーク)						
3	子どもの育ちと自然環境① 自然との関わりの中での育ちについて考え(事例検討・発表)、栽培活動(野菜の種まき)を行う。	11	文化や伝統に親しむ④ 保育の中で行う年中行事についてグループの代表者がクラスに向けて発表する。						
4	子どもの育ちと自然環境② フィールドビンゴを作成し、子どもがどのように自然環境に興味をもつか考える(フィールドワーク)。	12	文字や数量との関わり 文字や数量への関心のもち方や興味・関心を高める関わりについて考える。(事例検討)						
5	子どもの育ちと自然環境③ シャボン玉遊びを基に子どもが自然との関わりの中で経験することを考える。栽培活動(間引き)を行う。	13	子どもの育ちと自然環境③ 栽培活動(収穫)を行い、活動の経験を基に保育における栽培・飼育活動の意義について考える。						
6	子どもの育ちと環境② 環境の課題性・アフォーダンス・環境構成における保育者の役割について学ぶ。(事例検討・発表)	14	「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と領域「環境」 領域「環境」と10の姿・3つの柱について考える。 (事例検討)						
7	物的環境の役割 実習経験を基に園具・教具の意味を考える。 様々な素材の特性を確かめる。(課題解決型学習)	15	領域「環境」における保育者の役割 子どもと環境をつなぎ、「遊び」と「学び」をつなぐ保育者の役割について考える。(事例検討)						
8	文化や伝統に親しむ① 年中行事について調べる。(課題解決型学習)								
成績評価の方法・基準	レポート80%、指導案の作成と発表80%								
留意事項	覚えるのではなく理解するという姿勢で授業に臨むこと。								
準備学習 (予習・復習等)	授業後にテキストを読み返し、配布物・提出物の整理を行うこと。 栽培する作物の観察と手入れを行うこと。						必要時間:45分		
課題の フィードバック	課題は随時添削し、次回の授業で総評を行う。								
テキスト	岸井勇雄他、「保育内容・環境」、同文書院								
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 及び各解説 フレーベル館								

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者		
保育内容 言葉 Childcare Content Words		2年前期	演習	1	卒業選択 免許・資格必修		川俣 沙織		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
				◎	○				
授業の目的	<p>本科目は、子どもの発達を言語の面から理解することと、その発達を支える援助者としての保育者の関わりについて理解することを目的とする。</p> <p>また、児童文化財の表現技術を獲得することも目的とする。</p>								
到達目標	<p>1. 子どもの言語発達過程について説明することができる。</p> <p>2. 子どもの言語発達を支える保育者の具体的な援助について理解し、実践することができる。</p> <p>3. 絵本をはじめとする児童文化財についてそれぞれの特性を理解した上で表現することができる。</p>								
授業の概要	<p>主に幼稚園教育要領・保育所保育指針を用いて子どもの言語発達過程について学ぶとともに、彼らの成長を見守り、支えるための具体的な援助について理解する。</p> <p>また、絵本をはじめとする複数の児童文化財の特性と表現技術についてグループワークを通して学ぶ。</p>								
授業計画									
1	オリエンテーション、保育現場における保育内容「言葉」の実際①(0・1・2歳児)——『絵本 読み聞かせ今からはじめましょう』を通して学ぶ—	9	子どもの言語発達と児童文化財① ＜絵本＞教材選択の方法と実演の際の留意点						
2	保育現場における保育内容「言葉」の実際②(3・4・5歳児)——『絵本 読み聞かせ今からはじめましょう』を通して学ぶ—、保育内容「言葉」の指導計画	10	子どもの言語発達と児童文化財② ＜ストーリーテリング＞教材選択の方法と実演の際の留意点						
3	子どもの発達に則した保育とは—保育内容「言葉」と他領域との関連—	11	子どもの言語発達と児童文化財③ ＜紙芝居＞教材選択の方法と実演の際の留意点						
4	子どもの言語発達と保育① ＜乳児＞	12	第9回～第11回まとめ 各種児童文化財の特性と実演に際しての留意点						
5	子どもの言語発達と保育② ＜1歳以上3歳未満児＞	13	グループワーク：児童文化財についてのプレゼンテーションおよび実演発表・ふりかえり① ＜絵本・ストーリーテリング＞						
6	子どもの言語発達と保育③ ＜3歳以上児＞	14	グループワーク：児童文化財についてのプレゼンテーションおよび実演発表・ふりかえり② ＜紙芝居・ペープサート＞						
7	第4回～第6回まとめ 保育内容「言葉」の特性と子どもの発達に則した保育の留意点	15	グループワーク：児童文化財についてのプレゼンテーションおよび実演発表・ふりかえり③ ＜パネルシアター・エプロンシアター＞						
8	小テスト・第1回～第7回まとめ 計画・実践・省察・改善の重要性と実際								
成績評価の方法・基準	(1)小テスト 30% (2)グループ発表 60% (3)受講態度(積極的な参加が求められる。私語厳禁)10% 評価が「不可」であった場合、追加の課題を課す。								
留意事項	グループ発表・小テストはすべて評価の対象とする。								
準備学習(予習・復習等)	次回授業内容に関連するテキストの該当箇所を通読する準備学習を行うこと。						必要時間:45分		
課題のフィードバック	小テストは採点し、次週の授業で返却し補足説明を加えつつ総評する。グループ発表は、発表と並行して採点し、具体的な改善点を示しつつ総評を行う。								
テキスト	駒井美智子『保育者をめざす人の保育内容「言葉」』みらい								
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館								

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者		
保育内容 表現 Childcare Content Expression		1年前期	演習	1	卒業選択 免許・資格必修		椎山・新井・河野		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
				◎	○	○		○	
授業の目的	領域「表現」の観点から子どもたちの発達を考察し、子どもの感受性や表現性を豊かにするために必要な援助についての知識と技能を習得する。また、子ども自身の表現を導き出す保育教材の事例研究・模擬保育を行い、創造性を育む保育者のかかわり方を学ぶ。								
到達目標	1. 領域「表現」のねらいと内容、指導上の留意点等について理解する。 2. 乳幼児の表現の姿やその発達、それを促す要因や環境等について理解する。 3. 感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びを行うために必要な知識、技能、表現力を身に付ける。								
授業の概要	幼児の表現の芽生えと発達、それを支える教師の役割などの領域「表現」における専門的事項について理解する。さらに音楽表現・身体表現・造形表現における表現遊びの事例研究から実際の表現遊びに必要な技能、指導方法を身に付ける。								
授業計画									
1	授業ガイダンス 教育要領・保育指針等に示される幼児の生活における領域「表現」の位置づけについて (椎山克己)	9	身体表現遊び① グループ研究 身体表現遊びをグループで練習する (新井真実)						
2	子どもの表現の発達 子どもの表現がどのように芽生え、どのように発達していくかについて学ぶ (椎山克己)	10	身体表現遊び② グループで研究した身体表現遊びの発表および相互評価 (新井真実)						
3	音楽表現の発達① 子どもの音楽表現について(歌うこと、奏でること、聴くこと)の発達を学ぶ (椎山克己)	11	造形表現の発達① 子どもの造形表現について(描くこと、つくることなど)の発達を学ぶ (河野博行)						
4	音楽表現の発達② 音楽表現遊びの具体的な内容・方法について事例研究から学ぶ (椎山克己)	12	造形表現の発達② 造形表現遊びの具体的な内容・方法について事例研究から学ぶ (河野博行)						
5	音楽表現遊び① グループ研究 音楽表現遊びをグループで練習する (椎山克己)	13	造形表現遊び① グループ研究 造形表現遊びをグループで制作する (河野博行)						
6	音楽表現遊び② グループで研究した音楽表現遊びの発表および相互評価 (椎山克己)	14	造形表現遊び② グループで制作した造形表現遊びの作品発表および相互評価 (河野博行)						
7	身体表現の発達① 子どもの身体表現について(踊る、演じるなど)の発達を学ぶ (新井真実)	15	まとめ 子どもの表現の総合的性質を知り、保育者の援助について考える (椎山克己)						
8	身体表現の発達② 身体表現遊びの具体的な内容・方法について事例研究から学ぶ (新井真実)								
成績評価の方法・基準	グループで行う発表および相互評価(30%×3回)、受講態度10%で総合評価する。								
留意事項	グループワークの活動の際には授業時間外での活動もあるので、お互いに時間を調整し合うこと。								
準備学習(予習・復習等)	グループ発表の練習・制作については事前に授業外で時間を合わせ行い、発表後にはグループで振り返りを行うこと。						必要時間:45分		
課題のフィードバック	発表した内容についてその授業の中で総評を行う。また、グループごとに対しての指導も授業の中で行う。								
テキスト	幼稚園教育要領解説 文部科学省 平成30年3月、その他授業時にプリントを配付								
参考書等	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園保育要領、及び各解説								

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者	
音楽表現Ⅰ Music Expression		1年前期	演習	1	卒業選択 免許・資格必修		坂田 万代	
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7
						◎		
授業の目的	本科目では、わらべうたや童謡、手遊び歌を通して子どもの音楽を通じた表現について学ぶ。また、リズムの基本を理解し、個人またはグループで実践する。実践を通して年齢に応じた指導や保育で果たす役割について学ぶ。							
到達目標	1. 子どもの成長や発達について理解し、年齢に応じた音楽表現について理解する。 2. 様々な童謡やわらべうたや手遊び歌を歌い、習得する。 3. リズムの基本的な考え方を理解し、豊かな表現を目指し実践する。							
授業の概要	子どもの発達段階にふさわしい指導をするため年齢に応じた音楽指導について学ぶ。また、様々なわらべうたや童謡、手遊び歌を個人で、もしくはグループで練習し習得する。リズムの基本について理解した上で具体的な音楽表現について考え実践していく。							
授業計画								
1	わらべうたを歌おう① (わらべうたの特徴や成り立ち、音楽について理解する)	9	音楽表現とリズム① (リズムの基本理念や特徴、保育で果たす役割について考える)					
2	わらべうたを歌おう② (0～2歳までのわらべうたについて理解し、習得する)	10	音楽表現とリズム② (リズムの楽しさを知り、音楽表現について考える)					
3	わらべうたを歌おう③ (3～5歳までのわらべうたについて理解し、習得する)	11	音楽表現とリズム③ (0～2歳向けのリズムと音楽表現について学ぶ)					
4	童謡・手遊び歌を歌おう① (季節のうた・手遊びうたを歌い、音楽表現の工夫をする)	12	音楽表現とリズム④ (3～5歳向けのリズムと音楽表現について学ぶ)					
5	童謡・手遊び歌を歌おう② (動物のうた・手遊びうたを歌い、音楽表現の工夫をする)	13	子どもの音楽表現と歌唱① (子どもの発声などについて学び、歌の指導について考える)					
6	童謡・手遊び歌を歌おう③ (みんなのうた・手遊びうたを歌い、音楽表現の工夫をする)	14	子どもの音楽表現と歌唱② (グループ発表:グループで子どもの歌の指導について考え、発表する)					
7	体の動きを伴った歌遊び① (童謡を中心とした体を使った歌遊びについて学び、楽しむ)	15	子どもと音楽表現(授業を振り返り、子どもと音楽表現についてまとめる)					
8	体の動きを伴った歌遊び② (グループ発表:童謡を中心とした体を使った歌遊びについて表現を工夫する)							
成績評価の方法・基準	グループ発表(50%)提出課題(30%)受講態度(20%)で総合評価する。							
留意事項	個人、またはグループでそれぞれ積極的に取り組むこと。							
準備学習 (予習・復習等)	次週までに授業で学習した内容を復習し、出来ない部分を練習する。						必要時間:45分	
課題の フィードバック	グループ活動については採点し、授業で総評を行う。							
テキスト	「改訂 子どもとともに歌ううた」 笠井キミ子・坂田万代 他 権歌書房							
参考書等	「からだを動かす1～5歳のかんたんリズム」神原雅之 ナツメ社 「うたおうあそぼうわらべうた 乳児・幼児・学童との関わり方」 木村はるみ 他 雲母書房							

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者		
音楽表現Ⅱ Music Expression		2年前期	演習	1	卒業選択 免許必修・資格選択必修		原 浩美		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
						◎			○
授業の目的	本科目では、音楽表現Ⅰで体得した音楽表現に関する知識をさらに発展させる。また、子どもの表現活動と音楽表現とを結びつけるための音楽技術を身につけ、保育現場を視野に入れた演奏方法を実践し学ぶ。								
到達目標	1. 多様な子どものうたの伴奏に応じることができる簡易伴奏の基礎を習得する。 2. 保育現場での実践を視野に入れ、子どもに対する姿勢や視線で演奏を行うよう配慮できる。 3. ピアノ演奏を援助の観点でとらえ、様々な演奏形態を工夫できる。								
授業の概要	実習での実践的経験をふまえ、保育の現場に相応しいピアノ奏法のあり方を身に付ける。また、子どもたちの身体表現を引き出すための律動的伴奏とはどのようなものかを知り、その後のディスカッションを通して技能を深める。								
授業計画									
1	オリエンテーション及びピアノ奏法のウォーミングアップ			9	コードネームによる簡易伴奏:応用				
2	弾き歌いの伴奏(1) 和音記号と簡易伴奏			10	多様なリズム表現と変奏法(1) リミック(マーチを中心に)				
3	弾き歌いの伴奏(2) 和音記号と簡易伴奏			11	多様なリズム表現と変奏法(2) リミック(スキップを中心に)				
4	弾き歌いの伴奏(3) 原曲伴奏(原曲の伴奏法について表現効果を考える)			12	多様なリズム表現と変奏法(3) リミック(ギャロップを中心に)				
5	和音記号とコードネームの関係			13	ピアノ連弾作品の演奏(1) 協調性が求められる作品で、互いに音楽表現の工夫をする				
6	コードネームによる簡易伴奏(1) ハ・ト・ヘ長調			14	ピアノ連弾作品の演奏(2) 合わせる楽しみを感じ、音楽表現を実践する				
7	コードネームによる簡易伴奏(2) ニ・変ロ長調			15	実技発表(個人・グループ発表) 授業を振り返り、多様な表現活動としてのピアノ奏法・伴奏についてまとめる				
8	コードネームによる簡易伴奏(3) イ・ニ・ホ短調								
成績評価の方法・基準	実技発表40%、実技小テスト40%、受講態度20%								
留意事項	課題をよく練習して授業に臨むこと。								
準備学習 (予習・復習等)	課題の楽譜を読んで予習をし、授業のあったその日のうちに復習をすること。						必要時間:45分		
課題の フィードバック	演奏課題やワークシートは、授業中に添削を行う。								
テキスト	「大学ピアノ教本」教育芸術社								
参考書等	「リミックピアノ曲集」石丸由里 ひかりのくに 「いつでも実践リミック」自由現代社								

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者		
造形表現 Modeling Expression		2年前期	演習	1	卒業選択 免許・資格必修		内野 香		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
						◎			○
授業の目的	造形の基礎知識をもとに、実践的な造形教育のあり方を考え、制作することを目的とする。 技術・技法のみに捉われず、養った自身の美意識・創造性・表現力を制作に生かす。 子どもの発達段階に応じた、適切な知識や技術に基づいた造形教育の指導力を養う。								
到達目標	1. 幼児教育における造形表現について理解を深める。 2. 幼児の発達段階に合わせた造形課題の提示及び指導法を学ぶ。 3. 将来の造形教育に必要な、授業計画の立案方法を学ぶ。								
授業の概要	授業前半は、造形理解及び表現について学ぶ。 後半、幼児教育の現場を想定し、課題に必要な材料・道具・表現方法を考え、制作を行う。グループ制作・相互評価を行うことで、実践力・指導力の向上を目指す。								
授業計画									
1	ガイダンス 造形教育において、保育者自身の美意識・創造性・表現力を育てる必要性の意味について考える。	9	紙芝居制作 ②（グループワーク） 紙芝居の内容をラフスケッチし、言葉・絵を検討する。						
2	草花を描く ① 草花を観察し、特徴をとらえて色鉛筆で描く。	10	紙芝居制作 ③（グループワーク） 紙芝居用の細い描画し、言葉を書く。						
3	草花を描く ② ① からイメージを広げ、既製の描画材を使用せずに草花を表現する。	11	紙芝居制作 ④（グループワーク） 実演できる完成度を目指す。						
4	異素材を使用し、触って楽しい平面作品を制作。	12	紙芝居上演開 各グループの上演を鑑賞し、相互に評価する。						
5	紙粘土で子どもを制作する。① 子どもの体の特徴を理解し、デッサンする。	13	絵巻物制作 ① 絵巻物の特性を理解する。 テーマを決め、時間の流れを表現する。						
6	紙粘土で子どもを制作する。② 動きのある表現を追求する。	14	絵巻物制作 ② 水墨画の技法及び淡彩の技法を学び、テーマにふさわしい表現方法を考える。						
7	紙粘土で子どもを制作する。③ 生き生きとした表現を目指し、作品を完成させる。	15	絵巻物制作 ③ 学んだ技法を用い描く。						
8	紙芝居制作 ①（グループワーク） 紙芝居の特性を理解し、幼児が興味を持ち楽しいと思える内容を考える。								
成績評価の方法・基準	提出物60%、基礎評価(受講態度)40%で総合評価する。								
留意事項	日頃より、画集などに目を通し、美術館等にも足を運んで美術に触れることを心掛ける。								
準備学習(予習・復習等)	授業で難しいと感じた技法・技術に関しては、復習し、習得に努める。							必要時間:45分	
課題のフィードバック	提出された作品は、採点した上で次週の授業で総評を行う。								
テキスト	授業中にプリントを配布する。								
参考書等	「幼児の造形」 編著:野村知子・中谷孝子 保育出版社								

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修/選択	担当者			
身体表現 Physical Expression	2年後期	演習	1	卒業選択 免許・資格必修	新井 真実			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
				○	◎			○
授業の目的	子どもの身体表現は、保育者の関わりによって、より豊かに広がる可能性を秘めている。本授業では、子どもの心の動きから生まれる自然な身体表現を大切に、創造的な身体表現活動のためのアイデアを実践的に学ぶ。また、子どもの興味をひきつけ、表現意欲を高めるようなプレゼンテーションスキルを養う。							
到達目標	1. 子どもの身体表現の特徴を理解し、発達段階や個性に応じた働きかけを身につける。 2. 時節や流行に配慮したテーマの発見と、その展開方法を学ぶ。 3. 子どもの興味をひきつけ、表現意欲を高めるようなプレゼンテーションスキルを養う。							
授業の概要	グループワークを中心とした授業形態をとる。課題に応じた身体表現を模索し、構成・展開を検討する。また、ワーク・イン・プログレス(創作途中での試験的発表)を重ねることで、観客(参加者)の意見を取り入れながらプランを練り上げる。最終的には、模擬保育形式で発表を行い、これを実技試験とする。							
授業計画								
1	オリエンテーション —授業内容概要、評価方法の説明	9	グループワーク⑥ —演出について					
2	課題説明 グループ編成 —グループワーク課題の説明、及びグループ編成	10	ワーク・イン・プログレス(中間発表)② —全体を通しての発表					
3	グループワーク① —対象年齢、テーマについて	11	グループワーク⑦ —ワーク・イン・プログレスを経ての反省 —プレゼンテーションのブラッシュアップ					
4	グループワーク② —構成・展開について	12	グループワーク⑧ —最終確認					
5	グループワーク③ —中心となるセクションについて	13	リハーサル —発表(実技試験に向け、全員によるリハーサル)					
6	ワーク・イン・プログレス(中間発表)① —中心となるセクションの発表	14	実技試験 —作品発表					
7	グループワーク④ —ワーク・イン・プログレスを経ての反省 —音響効果や道具について	15	講評とまとめ					
8	グループワーク⑤ —空間構成について							
成績評価の方法・基準	受講態度・姿勢30%、実技試験50%、レポート20%を原則とし、総合的に評価する。							
留意事項	腕時計・アクセサリ類は外し、長い髪の毛は束ね、動きやすく危険のない身なりを整えること。 自ら積極的に楽しみ、グループワークが円滑にできるよう心掛けること。							
準備学習(予習・復習等)	取り扱ったテーマについて、授業後に関連する参考書やインターネット等を活用し、更に理解・考察を深めること。						必要時間:45分	
課題のフィードバック	実技課題は授業内でグループ発表を実施し、並行して採点し、総評を行う。							
テキスト	プリント資料							
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館、その他は授業内で適宜紹介する。							

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者			
言語表現 Linguistic Expression		1年前期	演習	1	卒業選択 資格必修	桑原 広治			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
						◎			○
授業の目的	本科目は、幼稚園教諭二種免許取得のための必修科目に位置づけられる。本科目は、小学校国語科の内容について学び、幼児教育・保育と国語科指導における幼児・児童への指導・援助についての理解を深める科目である。								
到達目標	1. 小学校国語科の内容を踏まえ、幼児期から小学校への学びの連続性について説明できる。 2. 日本語の歴史と現代日本語の概観を理解し、説明することができる。 3. 幼稚園教諭・保育士として必要とされる基礎的な国語力を有している。								
授業の概要	小学校国語科の目標及び内容、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」としての国語の歴史と国語の概観について学び、その上で「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域の実際を詳しく学ぶ。さらには実践的言語コミュニケーションや児童文化財の実演についてもグループワークを通じ学ぶ。								
授業計画									
1	オリエンテーション(授業概要・授業計画・授業形態・評価方法の説明)、グループ編成、国語の歴史と国語の概観	9		「話すこと・聞くこと」⑤・「書くこと」③・「読むこと」② (総合的な指導の実際①指導計画立案について)					
2	「話すこと・聞くこと」① (小学校国語科の目標および内容、グループワーク①「私の好きな絵本」口頭発表)	10		「話すこと・聞くこと」⑥・「書くこと」④・「読むこと」③ (総合的な指導の実際②指導計画に基づく実践・省察・改善とその往還について)					
3	「話すこと・聞くこと」② (グループ代表者による「私の好きな絵本」口頭発表)	11		「話すこと・聞くこと」⑦・「書くこと」⑤・「読むこと」④ (総合的な指導の実際③グループワーク②模擬授業)					
4	「書くこと」① (国語の歴史・「書くこと」—文字を中心に—)	12		「話すこと・聞くこと」⑧・「書くこと」⑥・「読むこと」⑤ (総合的な指導の実際④模擬授業へのフィードバック)					
5	「書くこと」② (国語の歴史・「書くこと」—文法を中心に—、具体的な実践場面での「書くこと」の指導)	13		「話すこと・聞くこと」⑨・「書くこと」⑦・「読むこと」⑥ (総合的な指導の実際④授業の精度を高める情報機器の活用と多様な教材について)					
6	「読むこと」① (国語の歴史・「読むこと」—文章を中心に—、具体的な実践場面での「読むこと」の指導)	14		「話すこと・聞くこと」⑩・「書くこと」⑧・「読むこと」⑦ (総合的な指導の実際⑤授業の精度を高める多様な指導方法について)					
7	「話すこと・聞くこと」③ (国語の歴史・「話すこと・聞くこと」—語彙を中心に—)	15		まとめの復習、学習内容の理解度確認のための筆記試験、解説					
8	「話すこと・聞くこと」④ (国語の歴史・「話すこと・聞くこと」—方言を中心に—実践場面での「話すこと・聞くこと」の指導)								
成績評価の方法・基準	(1)受講態度・提出物を重視する。30%(2)提出物30%(3)確認テスト40%								
留意事項	講義はパワーポイントを中心に、アクティブ・ラーニング型で進める。ノート記録に気を配り、整理を行うこと。合わせて、メモの習慣化を図り、講述(口述)内容を筆記できるとともに、アウトプットする力もつけていく。								
準備学習(予習・復習等)	次回授業内容に関わる課題、あるいは授業の振り返りにあたる課題を課すことがある。指定された課題に取り組むこと。							必要時間:45分	
課題のフィードバック	振り返りシートは、様式に従って提出する。確認テストを実施し、次回始めに開設を行う。								
テキスト	適宜資料を配布する。なお、国語辞書(電子辞書)は各自持参すること。								
参考書等	「小学校学習指導要領」・「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館								

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者		
保育指導法 I Childcare Teaching Method I		2年前期	演習	1	卒業選択 免許必修・資格選択必修		岩渕 善道		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
				○	◎		○	○	○
授業の目的	子どもが保育園・幼稚園で自ら環境に関わり、充実感、喜びや楽しさを味わえるための指導法を学ぶことを目的とする。様々な生活やあそびの場面で、子どもたちの気持ちや発達段階に寄り添い、保育の協同的な指導方法と遊びを通して育つ乳幼児期の諸能力について理解を深める。								
到達目標	1. 多様な保育形態、生活・遊びの場面での具体的な指導法について学ぶ 2. 子どもの目線で保育環境を考える意識を養う 3. 具体的な場面での保育の質について考える意識を養う								
授業の概要	多様なエピソードを用いながら、保育園での実務経験を活かし、子どもが何をどのように経験しているのか、どのような指導が必要であるかについて、理論と実践を往還しながら学ぶ。主にグループワークを行いながら、質の高い保育を協同的に学び合う。								
授業計画									
1	オリエンテーション 保育方法とは何か(要領・指針における保育方法の基本的事項)	9	3・4・5歳児の発達に応じた保育方法 自己の発揮と友だちとの関わり						
2	子ども理解にもとづいた保育方法と評価 子ども理解と評価とは(ディスカッション)	10	保育の計画・実践・評価 指導案作成の方法(グループワーク)						
3	子どもにふさわしい園生活と保育形態 さまざまな保育形態	11	家庭・地域と連携した保育 連携の意義と方法						
4	擁護と教育が一体となった保育の方法 擁護・教育・擁護と教育の一体について	12	小学校との接続のデザイン 遊びと学びの関係						
5	環境を通した保育の方法 環境構成の基本と	13	配慮を要する子どもへの保育方法 インクルーシブな保育の意義と方法						
6	遊びを通した保育の方法 遊びの意味と学び(プレゼンテーション)	14	機材や情報機器を活かした保育方法 新しい保育環境						
7	個と集団を活かした保育の方法 個を活かした集団づくり	15	まとめ						
8	0・1・2歳児の発達に応じた保育方法 乳児期からの豊かな経験								
成績評価の方法・基準	①学習状況20% ②各回ワークシート40% ③期末に作成するレポート40%								
留意事項	グループワークに積極的な姿勢で参加すること。私語、スマートフォン・携帯操作、居眠りはしないように。								
準備学習 (予習・復習等)	実習日誌や指導案を読み返し、実習での学びや経験を授業の学びに結び付けられるように意識すること。授業内容のテキストの該当箇所を熟読しておくこと。							必要時間:45分	
課題の フィードバック	ワークシートは次週の講義時に返却をして総評を行う。								
テキスト	『保育方法・指導法(新しい保育講座 6)』, 大豆生田 啓友・渡辺 英則, ミネルヴァ書房。								
参考書等	『幼稚園教育要領解説』文部科学省, フレーベル館。その他『保育所保育指針』等、適宜紹介する。								

科目名		開講時期	授業形態			単位数	必修/選択		担当者		
保育指導法Ⅱ Childcare Teaching MethodⅡ		2年後期	演習			1	卒業選択 免許必修・資格選択必修		宮地 あゆみ		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				○	○	○	◎				
授業の目的	園保育指導法Ⅰでの学びを踏まえ、保育現場における子どもの遊びと保育について理解し、保育を展開するための知識を身につけ実施できるようになる。										
到達目標	1. 保育のねらいと内容を理解したうえで、保育計画が立案出来るようになる。 2. 子どもに寄り添った保育計画を立案し、実施することが出来るようになる。 3. 子ども達一人ひとりに合わせた保育の視点を身につけ、より実践的な保育が展開できるようになる。										
授業の概要	担当者の保育士としての実務経験をもとに、子どもに寄り添った保育とは何かと考えるなかで、試行錯誤しながら保育を組み立てることが出来るようになる。また、より良い保育を実施するための配慮や工夫が出来るようになる。										
授業計画											
1	オリエンテーション うたあそびⅠ		9	保育の展開③ パラバルーンあそびと保育のねらい 制作ノートの計画 (グループワーク)							
2	保育のねらいと内容 うたあそびⅡ 振り返シート作成		10	保育の展開④ 制作ノート作成1 (グループワーク)							
3	保育の展開① プレゼントの制作 (グループワーク)		11	保育の展開④ 制作ノート発表と保育のねらい (グループワーク)							
4	保育の展開① プレゼントの制作と保育のねらい (グループワーク)		12	保育の展開⑤ ペープサート作成1 (グループワーク)							
5	保育の展開② お散歩		13	保育の展開⑤ ペープサート作成2 (グループワーク)							
6	保育の展開③ お散歩と制作 (グループワーク)		14	保育の展開⑤ ペープサート作成3 (グループワーク)							
7	保育の展開②③ お散歩と制作の保育のねらい (グループワーク)		15	保育の展開⑤ペープサート発表と保育のねらい (グループワーク)							
8	保育の展開③ パラバルーンあそび (グループワーク)										
成績評価の方法・基準	課題(50%)、発表(30%)、その他(受講態度・発言)(20%)										
留意事項	講義内で指示された課題は必ず提出すること。										
準備学習 (予習・復習等)	保育者(社会人)になることを意識し、講義内で指示された準備物および課題は、講義前までに必ず準備しておくこと。							必要時間:45時間			
課題の フィードバック	毎回の講義後に振り返りシートを配布し、授業の理解度を確認したうえで、その後の講義へと反映させる。										
テキスト	「教育課程・保育の計画と評価」岩淳子、及川留美、粕谷亘正(2018)萌文書林 「幼稚園教育要領解説」文部科学省「保育所保育指針解説書」厚生労働省										
参考書等	「保育の学びスタートアップ」瀧川光治、小栗正裕、宮地あゆみ(編)(2018)青鞥社 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館										

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者			
乳児保育 I Infant Care I	1年後期	講義	2	卒業必修 資格必修	山内 享子			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			◎	○			○	
授業の目的	乳児期は、人間形成の基礎を培う重要な時期である。全ての子どもが安全な環境のもとで安心感を抱き、生活できるような保育環境が求められている。3歳未満児の健やかな成長を支えるために、保育士に必要とされる乳児保育の知識・技能・関係機関との連携について理解する。							
到達目標	1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 2. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 3. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。							
授業の概要	保育士、幼稚園教諭、保育園園長としての実務経験を下にした実例解説から、現代における乳児を取り巻く環境について知り、乳児保育の重要性と意義・目的・役割について学ぶ。乳児保育の現状と課題について、グループワークやグループ討議を通して考察する。							
授業計画								
1	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷 乳児保育の役割と機能、乳児期における養護及び教育の一体性を学ぶ。	9	遊びと環境 0・1・2歳児の遊びと年齢に適した玩具、保育者の関わりについて学ぶ。 (グループワーク)					
2	乳児保育の現状と課題① (グループ討議) 乳児保育と子育て家庭支援の社会的状況と課題、保育所や児童福祉施設における乳児保育を学ぶ。	10	乳児保育の環境構成 乳児保育に必要な環境構成について学ぶ。 (レポート)					
3	乳児保育の現状と課題② (グループワーク) 家庭的保育等における乳児保育、3歳未満児と家庭を取り巻く環境と子育て支援の場について学ぶ。	11	乳児保育の計画・記録・評価とその意義 全体的な計画と指導計画、その計画に基づく実践や評価について学ぶ。 (レポート)					
4	0・1・2歳児の主な発達 発育・発達を踏まえた援助や関わりと保育における配慮について学ぶ。	12	乳児保育における連携・協働① 保護者との連携・協働、子育て支援の実際について学ぶ。 (グループ討議)					
5	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 0歳児の保育内容について、保育所保育指針等から事例を通して学ぶ。	13	乳児保育における連携・協働② 職員間の連携・協働について学ぶ。					
6	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 1歳以上3歳未満児の保育内容や3歳以上児の保育に移行する時期の保育について学ぶ。	14	乳児保育における連携・協働③ 自治体や地域の関係機関等との連携・協働について学ぶ。 (小テスト)					
7	生活と遊びの基本的事項 生活と遊びをデイリープログラムから確認し、健康や安全、防災対策について学ぶ。 (小テスト)	15	一人ひとりを健やかに育てていくために 乳児保育の重要性、保育者としての専門性と資質向上について学ぶ。					
8	生活と環境 0・1・2歳児の生活の基本(食事・睡眠と休息・排泄・着脱・清潔)について学ぶ。							
成績評価の方法・基準	授業で行う小テスト60% 課題レポートの提出30% 授業態度・姿勢10%							
留意事項	日常的に乳児、子育て関連の記事に目を通しておく。日常生活で遭遇する乳児に目を向けるようにする。							
準備学習(予習・復習等)	授業内容に関するテキストを読み、予習復習を行う。					必要時間:3時間		
課題のフィードバック	授業で実施した小テスト・レポートは、次週の授業時に総評を行い返却する。							
テキスト	「講義で学ぶ乳児保育」 小山朝子 亀崎美沙子 善本真弓 編著 わかば社							
参考書等	「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」							

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者			
乳児保育Ⅱ Infant CareⅡ		2年前期	演習	1	卒業選択 資格必修	山内 享子			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
				◎	○			○	
授業の目的	乳児期は、人格形成の基礎を培う重要な時期である。愛情豊かで受容的・応答的な乳児保育を展開することができるよう、3歳未満児の発達を捉える視点、適切な援助や環境構成を行うための基礎的な知識と技術を身につける。								
到達目標	1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、子どもの生活と遊び、保育の方法及び環境について理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際と計画の作成について、具体的に理解する。								
授業の概要	保育士、幼稚園教諭、保育園園長としての実務経験を下に、保育者として必要な保育技術や実例の解説から理解を深め、グループ討議やグループワークを通して乳児保育の実際について考察する。保育現場の映像や事例、演習を通して乳児保育の基礎的な知識や技術を身につける。								
授業計画									
1	オリエンテーション 乳児保育の意義 子どもと保育者の関係性の重要性、個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的関わりを学ぶ。	9	乳児保育における配慮の実際 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための援助について学ぶ。 (グループ討議)						
2	乳児保育の基本 子どもの主体性の尊重と自己の育ち、子どもの体験と学びの芽生えについて学ぶ。	10	3歳未満児の保育内容と遊び① 0歳児の生活や遊びを通しての保育とその環境、1日の生活の流れと配慮すべき事項について学ぶ。						
3	3歳未満児の発育・発達 0・1・2歳児の発育・発達と保育者の援助について学ぶ。	11	3歳未満児の保育内容と遊び② 集団での生活における配慮、環境の変化や移行に対する配慮を学ぶ。 (レポート)						
4	乳児保育における生活と援助の実際 ①食事の援助と環境 調乳、授乳、離乳食等の援助を学ぶ。(レポート)	12	3歳未満児の保育内容と遊び③ 子どもの生活や遊びを支える環境の構成や年齢に応じた玩具・遊具について学ぶ。(グループワーク)						
5	乳児保育における生活と援助の実際 ②排泄の援助と環境 (グループワーク) 実際の状況や配慮点を年齢ごとに学ぶ。	13	長期的な指導計画と短期的な指導計画 保育における計画の必要性、種類と作成を学ぶ。						
6	乳児保育における生活と援助の実際 ③睡眠・休息の援助と環境 睡眠時の保育者の援助と保育環境について学ぶ。	14	個別的な指導計画と集団の指導計画 (小テスト) 乳児の主体尊重の視点を指導計画作成から学ぶ。						
7	乳児保育における生活と援助の実際 ④着脱に関する援助と環境 着脱の援助と環境について事例を通して学ぶ。	15	乳児保育を支える連携と授業の全体のまとめ 乳児保育における職員間、家庭、地域との連携について実際の保育現場から学ぶ。						
8	乳児保育における生活と援助の実際 ⑤清潔に関する援助と環境 (小テスト) 沐浴・清拭等の清潔と配慮すべき環境を学ぶ。								
成績評価の方法・基準	小テスト60% レポート30% 授業態度・姿勢10%								
留意事項	日常的に乳児、子育て関連の記事に目を通しておく。日常生活で遭遇する乳児に目を向けるようにする。								
準備学習 (予習・復習等)	テキストを読み予習復習を行う。						必要時間:45分		
課題の フィードバック	提出された小テスト・レポートは、次週の授業内で総評を行い返却する。								
テキスト	「演習で学ぶ乳児保育」 善本真弓 小山朝子 亀崎美沙子 編著 わかば社								
参考書等	「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」								

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者		
特別支援教育・保育Ⅰ Special Needs Education・Child CareⅡ		1年後期	演習	1	卒業選択 免許・資格必修		園田 和江		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
				○	◎			○	
授業の目的	特別な配慮を要する子どもの多様性を理解したうえで、それぞれの子どもを尊重し、自己肯定感を育み、達成感を持ちながら生きる力を身につけられるように教育・保育ができるようになる。また、子ども同士が多様性を認め合っかかわれる教育・保育を目指し、特別支援教育・保育の実践力を習得する。								
到達目標	1. 特別の支援を必要とする子どもの基礎的理解を深める。 2. 特別の支援を必要とする子どもの教育課程及び支援の方法を学ぶ。 3. 障害はないが特別の教育的ニーズのある子どもの理解と支援について学ぶ。								
授業の概要	発達障害をはじめとする様々な障害のある子どもの「障害特性」や「発達」についての理解を深め、特別な教育的ニーズを持った子どもを含むノーマライゼーションにおける障害児保育を支える理念(インテグレーション、インクルージョン)を学ぶとともに、その子どもの生活上の困難や個別の教育的ニーズに対して幼稚園教諭や保育士の役割、関係機関との連携について必要な知識や支援方法を理解する。								
授業計画									
1	特別支援教育の基本的な考え方である「障害」の概念と変遷について:「グループワーク」障がい児・者との出会いや体験についてまとめる	9	特別な教育的ニーズのある子どもの把握と支援:「グループワーク」対応について協議し、発表する						
2	乳幼児期の発達と障害を理解するためのアセスメントについて:「グループワーク」実習先で出会った子どもについて考え、グループ毎に発表する	10	特別支援教育・保育の実際①TEACCH プログラム等の療育技法:「グループワーク」作成方法について協議し、発表する						
3	発達障害の理解と支援①「自閉スペクトラム症」:「グループワーク」対応について協議し、発表する	11	特別支援教育・保育の実際②個別の指導計画と個別の教育支援計画:「グループワーク」必要性について協議し、発表する						
4	発達障害の理解と支援②「注意欠陥多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)」:「グループワーク」対応について協議し、発表する	12	特別支援教育・保育の実際③家庭や関係機関との連携:「グループワーク」関係機関を図にして発表する						
5	障害の理解と支援③「知的障害」:「グループワーク」対応について協議し、発表する	13	特別支援教育・保育の実際④子ども同士のかかわりと育ち:「グループワーク」対応について協議し、発表する						
6	身体障害の理解と支援④「視覚障害」「聴覚障害」:「グループワーク」対応について協議し、発表する	14	特別支援教育・保育の実際⑤子ども同士がごく自然に遊ぶクラス運営について:「ロールプレイ」障がいのある子どもを含むクラスでの活動について発表する						
7	身体障害の理解と支援⑤「肢体不自由」「脳性まひ」:「グループワーク」対応について協議し、発表する	15	まとめ 特別支援教育の意義						
8	特別な支援を必要とする幼児・児童の理解ならびにアセスメント:「グループワーク」対応について協議し、発表する	16	定期試験						
成績評価の方法・基準	期末試験 50%、授業中の演習課題 30%、授業に取り組む態度 20%で採点し、60%以上取得で単位認定。								
留意事項	保育現場での実践力向上のため、演習課題に積極的に取り組むこと。								
準備学習(予習・復習等)	次回の講義のテーマを知らせるので、各自予習すること。						必要時間:45分		
課題のフィードバック	演習課題は、実施後に回収する。次週、理解の程度や、質問や疑問などを含めて解説する。返却は、授業期間中内に行う。								
テキスト	「実践的な特別支援を学びたい方へ 障害児保育ワークブック インクルーシブ保育・教育をめざして」星山麻木編著 萌文書林								
参考書等	授業の中で適宜紹介する。								

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修/選択		担当者		
特別支援教育・保育Ⅱ Special Needs Education・Child CareⅡ		2年前期	演習	1	卒業選択 資格必修		園田 和江		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
				○	◎			○	
授業の目的	特別な配慮を要する子どもの多様性を理解したうえで、それぞれの子どもを尊重し、自己肯定感を育み、達成感を持ちながら生きる力を身につけられるように教育・保育ができるようになる。また、子ども同士が多様性を認め合っかかわれる教育・保育を目指し、特別支援教育・保育の実践力を習得する。								
到達目標	1. 発達障害や特別な教育的ニーズをもつ子どもの「障害特性」や「発達」を理解する。 2. 保護者支援のあり方や関係機関(教育機関・医療・福祉など)との連携について理解を深める。 3. 他の子どもたちとの関わり合いの中で育ちあう保育実践について、適切な支援を考えられる。								
授業の概要	担当者の臨床発達心理士、保育士としての実務経験を活かし、特別支援教育・保育Ⅰで学んだ障害児その他の特別な配慮を要する子どもに関する理解を深め、具体的な支援方法について学ぶ。特に、個々の発達特性を理解し、個別の支援と子ども同士の育ち合いの視点を養う。また、家庭への支援や関係機関との連携について理解する。								
授業計画									
1	特別支援教育・保育Ⅰのまとめ 「グループワーク」特別支援教育・保育の理念や、個々の発達や障害等に応じた支援方法について。	9	障害児支援に関わる専門職 「グループワーク」専門職についてまとめる						
2	障害児の保育方法 ①保育者の基本姿勢 「グループワーク」子どもの強みを活かす	10	障害児へのアセスメント ①保護者面談等「ロールプレイ」保育者、保護者の立場で面談を行う						
3	障害児の保育方法 ②幼稚園・保育所での教育・保育方法 「グループワーク」実習先等の現状についてまとめる	11	障害児へのアセスメント ②行動観察 「グループワーク」子どもの行動の意味を知る						
4	保育実習課題での気になる子どもの対応 「グループワーク」実習先での気になる子どもの対応	12	障害児へのアセスメント ③心理調査「グループワーク」子どもに関する心理調査についてまとめる						
5	家庭への支援 ①障害のある子どもがいる保護者への支援「グループワーク」障害受容と子どもへの関わり方について	13	困った行動の捉え方とクラスメートへの対応 「グループワーク」事例検討：子どもの障害特性と対応について						
6	家庭への支援 ②障害のある子どもがいる兄弟への支援 「グループワーク」心理的課題と対応について	14	指導計画書の実際と評価 ①環境構成と留意点 「ディスカッション」子どもの特性と環境構成について						
7	発達支援の技法 ①ソーシャルスキルトレーニング(SST)「ロールプレイ」 SST指導、実例、具体的な方法について	15	指導計画書の実際と評価 ②園内外の支援体制・就学援助「ディスカッション」 子どもの特性と園内外の支援体制・就学援助について						
8	発達支援の技法 ②ペアレントトレーニング「グループワーク」ペアレントトレーニングの実際と重要性について								
成績評価の方法・基準	期末試験 50%、授業中の演習課題 30%、授業に取り組む態度 20%で採点し、60%以上取得で単位認定。								
留意事項	保育現場での実践力向上のため、演習課題に積極的に取り組むこと。								
準備学習(予習・復習等)	次回の講義のテーマを知らせるので、各自予習すること。						必要時間:45分		
課題のフィードバック	演習課題は、実施後に回収する。次週、理解の程度や、質問や疑問などを含めて解説する。返却は、授業期間中内に行う。								
テキスト	「実践的な特別支援を学びたい方へ 障害児保育ワークブック インクルーシブ保育・教育をめざして」星山麻木編著 萌文書林								
参考書等	授業の中で適宜紹介する。								

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者		
幼児音楽Ⅰ Infant Music Ⅰ		1年後期	演習	1	卒業必修 免許必修・資格選択必修		坂田 万代		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
						◎	○		
授業の目的	幼児教育において保育者として必要な音楽の基礎的な技能を身に付けることを目的とし、弾き歌いや伴奏法について学ぶ。さらに楽典やハーモニーなどを理解した上で実践することで、演奏技術の向上を目指す。								
到達目標	1. 幼児の前で童謡の指導ができるようになる。 2. 簡単な曲の伴奏ができるようになる。 3. 簡単な曲の弾き歌いができるようになる。								
授業の概要	「こどものうた200」の中から弾き歌いや伴奏づけを授業の中で毎時間発表し、実践することで歌唱力・伴奏力をつける。また、音楽の基礎である楽典やハーモニーについて個人もしくはグループで学び、それらを演奏技術の向上に生かす。								
授業計画									
1	オリエンテーション 弾き歌い・伴奏づけの説明・グループワーク		9	⑤弾き歌い 『いもほり』 『どんぐりころころ』					
2	①伴奏づけ 『てをたたきましょう』		10	⑥弾き歌い 『メリーさんのひつじ』 『こぎつね』					
3	②伴奏づけ 『おおきなくりのきのしたで』 『むすんでひらいて』		11	⑦弾き歌い 『ジングルベル』 『おしょうがつ』					
4	③伴奏づけ 『あたまであくしゅ』 『ごあいさつ』		12	⑧弾き歌い 『まめまき』 『ゆき』					
5	①弾き歌い 『ちょうちょう』 『チューリップ』		13	⑨弾き歌い 『うれしいひなまつり』					
6	②弾き歌い 『ぶんぶんぶん』 『かたつむり』		14	⑩選択課題 小テスト準備					
7	③弾き歌い 『しゃぼんだま』 『うみ』		15	弾き歌い小テスト					
8	④弾き歌い 『めだかのがっこう』 『とんぼのめがね』								
成績評価の方法・基準	伴奏づけ・弾き歌い課題60% 小テスト30% 受講態度10%								
留意事項	毎週の課題をよく練習し、授業に臨むこと。								
準備学習 (予習・復習等)	毎週の演奏課題を練習し、課題シートに記録すること。						必要時間:45分		
課題の フィードバック	毎週の演奏課題については、授業中に評価を行う。								
テキスト	「こどものうた200」小林美実編 チャイルド社								
参考書等	「続こどものうた200」小林美実編 チャイルド社								

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者		
幼児音楽Ⅱ Infant Music Ⅱ		2年前期	演習	1	卒業選択 免許必修・資格選択必修		坂田 万代		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
						◎	○		
授業の目的	子どもの発達や成長に合う教材曲を選び、指導することができるようになる。幼稚園実習・保育園実習を視野に入れ毎週の課題に取り組み実践することで、各自が弾き歌いのレパートリーを増やし、演奏技術の向上を目指す。また、日本の伝統的な行事における歌に触れ日本文化を理解する。								
到達目標	1. 子どもの心身の成長・発達に合わせた教材曲を選択できるようになる。 2. 日本の伝統的な行事における歌について理解を深める。 3. 四季の歌、動物の歌、行事の歌、日常生活の歌の弾き歌いができるようになる。								
授業の概要	子どもの発達段階に応じた教材を選び、適切な指導法を身に付けるために個人、またはグループで毎週の課題に取り組み、発表する。また、四季の歌、動物の歌、行事の歌、日常生活の歌を中心に弾き歌い実習を通して技能を高め、レパートリーを増やす。また、保育現場をイメージし、具体的な音楽指導について考え実践する。								
授業計画									
1	適切な導入・展開の仕方と弾き歌い実習① 『こいのぼり』 『おはながわらった』	9	弾き歌い実習⑥ 『おもちゃのチャチャチャ』 『赤鼻のトナカイ』						
2	適切な導入・展開の仕方と弾き歌い実習② 『おかあさん』 『すてきなパパ』	10	弾き歌い実習⑦ 『やぎさんゆうびん』 『ぞうさん』						
3	適切な導入・展開の仕方と弾き歌い実習③ 『はをみがきましょう』 『とけいのうた』	11	弾き歌い実習⑧ 『あらどこだ』 『あらどこだ』						
4	弾き歌い実習① 『あめふりまのこ』 『ありさんのおはなし』	12	弾き歌い実習⑨ 『カレンダーマーチ』 『おもいでアルバム』						
5	弾き歌い実習② 『アイアイ』 『たなばたさま』	13	弾き歌い実習⑩ 『せかいじゅうのこどもたちが』 『ホ！ホ！ホ！』						
6	弾き歌い実習③ 『おばけなんてないさ』 『南の島のハメハメハ大王』	14	弾き歌い実習⑪ 『いちねんせいになったら』 『はじめのいっぽ』						
7	弾き歌い実習④ 『まつぼっくり』 『ゆうやけこやけ』	15	実技小テスト 弾き歌いによる実技テスト レパートリーシート作成						
8	弾き歌い実習⑤ 『きのこ』 『やまのおんがくか』								
成績評価の方法・基準	伴奏づけ・弾き歌い課題60% 小テスト30% 受講態度10%で総合評価する。								
留意事項	毎週の課題をよく練習し、授業に臨むこと。								
準備学習 (予習・復習等)	毎週の演奏課題を練習し、課題シートに記録すること。							必要時間:45分	
課題の フィードバック	毎週の演奏課題については、授業中に評価を行う。								
テキスト	「こどものうた200」 小林美実編 チャイルド社 「続こどものうた200」小林美実編 チャイルド社								
参考書等	「子どもとともに歌ううた」 笠井キミ子他 権歌書房								

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者		
幼児音楽Ⅲ Infant Music Ⅲ		2年後期	演習	1	卒業選択 資格選択必修		坂田 万代		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
						◎			○
授業の目的	子どもの表現活動や日本の伝統的な行事に歌われる歌について幼児音楽Ⅱを踏まえた上で、さらに教育的価値を理解し、それによって果たす音楽の役割について学ぶ。また、四季の歌、動物の歌、行事の歌、日常生活の歌などの弾き歌いの技能を習得する。								
到達目標	1. 子どもの表現活動における音楽の果たす役割がわかる。 2. 日本の伝統的な行事における歌の教育的価値を理解し、演奏に活かす。 3. 四季の歌、動物の歌、行事の歌、日常生活の歌の弾き歌いができるようになる。								
授業の概要	担当者の幼稚園教諭としての実務経験を活かし、四季の歌、動物の歌、行事の歌、日常生活の歌を中心に弾き歌い実習を通して技能を高め、レパートリーを増やす。また、保育現場をイメージし、具体的な音楽指導についてグループで考え、シートを作成し実践する。								
授業計画									
1	オリエンテーション ・授業の概要・目的 ・弾き歌いシートの作成・グループワーク	9	⑧弾き歌い実習 選択課題						
2	①弾き歌い実習 『こおろぎ』 『虫のこえ』	10	⑨弾き歌い実習 『ゴリラのうた』 『ぞうさんのぼうし』						
3	②弾き歌い実習 『まっ赤な秋』 『うんどうかい』	11	⑩弾き歌い実習 『線路はつづくよどこまでも』 「小さな世界」						
4	③弾き歌い実習 『もみじ』 『あきのバイオリン』	12	⑪弾き歌い実習 『たのしいね』 『ふしぎなポケット』						
5	④弾き歌い実習 選択課題	13	⑫弾き歌い実習 『さよならぼくたちのほいくえん』						
6	⑤弾き歌い実習 『白熊のジェンカ』 『いぬのおまわりさん』	14	⑬弾き歌い実習 選択課題 ※弾き歌いシート提出						
7	⑥弾き歌い実習 『どんな色が好き』 『そうだったらいいのにな』	15	実技小テスト 弾き歌いによる実技テスト						
8	⑦弾き歌実習 『にんげんっていいな』 『こんこんクシャンのうた』								
成績評価の方法・基準	毎週の課題に対する評価60%、小テスト30%受講態度10%で総合評価する。								
留意事項	毎週の課題をよく練習して授業に臨むこと。								
準備学習 (予習・復習等)	毎週の演奏課題を練習し、課題シートに記録すること。							必要時間:45分	
課題の フィードバック	毎週の演奏課題については、授業中に評価を行う。								
テキスト	「こどものうた200」 小林美実編 チャイルド社								
参考書等	「子どもとともに歌ううた」 笠井キミ子他 権歌書房								

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者			
ピアノⅠ Piano I	1年前期	演習	1	卒業必修 免許必修	原 浩美 椎山 克己・他			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
					◎	○		
授業の目的	幼稚園教諭および保育士として必要なピアノ演奏の基礎を修得することを目的とする。ピアノⅠでは、楽譜に記載されているさまざまな記号や楽語の意味を理解し、楽譜を正しく読めるようになり、楽譜通りにピアノを演奏し、その知識・技術を習得する。							
到達目標	1. 楽譜を正しく読む力がつく。 2. 楽譜をよく理解し、ピアノ演奏が出来るようになる。 3. 1. 2で実践した基礎技術から、自己の改善点が理解できるようになる。							
授業の概要	個人指導で受講する。楽譜の読み方を学ぶと同時に、個々に実技指導を受けるため、事前の練習が必要である。バイエルを中心に基礎技術を習得していくが、実技小テスト前は、グループディスカッションを行い互いの演奏や練習方法などを確認する。実技の小テスト及び筆記テストでは、一斉授業になる。							
授業計画								
1	オリエンテーション 1. 授業の主旨・目的・概要の説明 2. 楽譜の読み方(1) 3. 課題曲 No12、13、20、23	9	個人指導 1. 楽譜の読み方(8) 2. 課題曲 No85、92					
2	個人指導 1. 楽譜の読み方(2) 2. 課題曲 No29、31、37	10	個人指導 1. 楽譜の読み方(9) 2. 課題曲 No92、75					
3	個人指導 1. 楽譜の読み方(3) 2. 課題曲 No48、44、52	11	個人指導 1. 楽譜の読み方(10) 2. 課題曲 No75、80					
4	個人指導 1. 楽譜の読み方(4) 2. 課題曲 No66、55	12	個人指導 1. 楽譜の読み方(11) 2. 課題曲 No80、81					
5	個人指導 1. 楽譜の読み方(5) 2. 課題曲 No61、72	13	個人指導 1. 楽譜の読み方(12) 2. ブルグミュラーの選曲 3. 課題曲の復習及び予備の練習曲 No79、83、84 等					
6	個人指導 1. 楽譜の読み方(6) 2. 課題曲 No72 3. グループディスカッション	14	個人指導 1. 楽譜の読み方(13) 2. ブルグミュラーの選曲 3. グループディスカッション					
7	1. バイエルの実技小テスト ① 2. 筆記小テスト 拍子、音符、調性等を問う	15	1. バイエルの実技小テスト② 2. まとめ					
8	個人指導 1. 楽譜の読み方(7) 2. 課題曲 No74、85							
成績評価の方法・基準	授業内で行う2回の実技小テスト70%(①30%・②40%)、筆記小テスト10%、受講態度・姿勢20%で総合評価する。							
留意事項	爪を切り、習熟度表を持参し出席すること。欠席した場合は、次週の範囲も自習しておくこと。							
準備学習 (予習・復習等)	課題曲を予習練習し、授業のあったその日のうちに復習すること。毎日の練習を怠らないようにすること。						必要時間:45分	
課題の フィードバック	実技小テスト終了後は、その日のうちに担当教員から各人に総評を行い、今後の課題を確認する。筆記テストは採点し次週の授業で返却し、総評を行う。							
テキスト	「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社							
参考書等	適宜、紹介する。							

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修/選択	担当者			
ピアノⅡ PianoⅡ	1年後期	演習	1	卒業選択 免許必修	原 浩美・他			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
					◎	○		
授業の目的	ピアノⅠからの継続で、ピアノ演奏の基礎技術の向上と表現について学び実践する。バイエルに加えブルグミュラー25の練習曲や同等の楽曲を併用し、楽譜上の表現記号に配慮した奏法を学ぶ。音で伝える表現を実践し、表現の多様さを理解することを目的とする。							
到達目標	1. 楽譜上の表現記号を理解する。 2. 表現記号の多様さを理解し、演奏する。 3. 「ブルグミュラー25の練習曲」等より選曲し、音楽性を引き出す表現活動をする。							
授業の概要	個人指導で受講する。実技小テストでは一斉授業となる。テスト前の回では互いの演奏を披露し、グループディスカッションをする。さらに表現力に重点を置いた演奏法を学ぶために「ブルグミュラー25の練習曲」等から1曲を選び、音楽表現が深まる奏法を習得し、音楽に対する理解を深めていく。							
授業計画								
1	個人指導 1. 楽譜の読み方(1) 2. 課題曲 No86、マーチ等	9	個人指導 1. 楽譜の読み方(8) 2. 課題曲 No97、ブルグミュラー等					
2	個人指導 1. 楽譜の読み方(2) 2. 課題曲 No88、マーチ等	10	個人指導 1. 楽譜の読み方(9) 2. 課題曲 No99、ブルグミュラー等					
3	個人指導 1. 楽譜の読み方(3) 2. 課題曲 No91、マーチ等	11	個人指導 1. 楽譜の読み方(10) 2. 課題曲 No101、ブルグミュラー等					
4	個人指導 1. 楽譜の読み方(4) 2. 課題曲 No93、マーチ等	12	個人指導 1. 楽譜の読み方(11) 2. 課題曲の復習、ブルグミュラー等 3. グループディスカッション					
5	個人指導 1. マーチの実技小テスト① 2. 楽譜の読み方(5) 3. 課題曲 No94、ブルグミュラー等	13	個人指導 1. 楽譜の読み方(12) 2. 課題曲の復習、ブルグミュラー等 3. グループディスカッション					
6	個人指導 1. 楽譜の読み方(6) 2. 課題曲の復習 3. ブルグミュラー等	14	1. バイエルの実技小テスト③ 2. ブルグミュラー等					
7	個人指導 1. 楽譜の読み方(7) 2. グループディスカッション 3. ブルグミュラー等	15	1. ブルグミュラー等の実技小テスト④ 2. まとめ					
8	1. バイエルの実技小テスト②と筆記テスト 2. ブルグミュラー等							
成績評価の方法・基準	授業で行う4回の実技小テスト80%(各20%)、筆記小テスト10%、受講態度・姿勢10%で総合評価する。							
留意事項	爪を切り、習熟度表を持参し出席すること。欠席した場合は、次週の範囲も自習しておくこと。							
準備学習(予習・復習等)	課題曲を予習練習し、授業のあったその日のうちに復習すること。毎日の練習を怠らないようにすること。						必要時間:45分	
課題のフィードバック	実技小テスト終了後は、その日のうちに担当教員から各人に総評を行い、今後の課題を確認する。筆記テストは採点し次週の授業で返却し、総評を行う。							
テキスト	「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社、ブルグミュラー25の練習曲 全音楽譜出版社、他							
参考書等	適宜、紹介する。							

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者		
器楽合奏 Instrumental Ensemble		2年後期	演習	1	卒業必修 免許必修		椎山 克己		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
					○	◎			
授業の目的	本科目では、保育現場において行われている幼児を対象とした合奏やマーチングの指導に必要な知識、並びに技術を習得することを目的とする。具体的にはパーカッションの奏法、リズム奏の創作、カラーガードの操法および合奏技術について、その知識・技術を習得する。								
到達目標	1. 保育で使われるパーカッションの奏法、カラーガードの基本的操法を習得する。 2. 基本的なリズムの構造について理解し、リズムフレーズの創作ができるようになる。 3. 合奏やマーチングの指導に関する知識を習得する。								
授業の概要	保育で用いられるリズム奏や器楽合奏を行う中で各楽器の奏法、合奏の指導方法を学び、カラーガードについても実際の創作演技を通してフラッグの操法を習得する。また、基本的なリズムの構造を学び、幼児に向けたリズム奏の創作を通して理解を深めて行く。								
授業計画									
1	器楽合奏の基礎知識 1. 授業オリエンテーション 2. 保育現場で行われている楽器を使った保育内容	9	リズムフレーズの創作 1. リズムフレーズの作り方 2. 自作したリズムを用いた合奏 3. 課題の提示						
2	カラーガードの操法Ⅰ 1. カラーガードに関する基本的知識 2. フラッグの基本的な操法	10	小テスト リズム奏の実技テスト						
3	カラーガードの操法Ⅱ 1. フラッグの様々な操法 2. 振り付けの創作方法	11	合奏Ⅰ 1. 子ども向けの曲の合奏 2. 合奏指導のポイント						
4	カラーガードの振りつけ 1. 子どもを対象とした振り付け 2. 振り付けの創作	12	合奏Ⅱ 1. 子ども向けの曲の合奏 2. 合奏指導のポイント						
5	小テスト カラーガード演技の実技テスト (グループごとに発表会形式で行う)	13	合奏Ⅲ 1. 子ども向けの曲の合奏 2. 各々の楽器のリズムフレーズの使い方						
6	パーカッションの奏法Ⅰ 1. スティックやマレットの持ち方、ストロークの方法 2. 簡単なリズム奏、小テストの課題提示	14	合奏Ⅳ 課題提出日 1. 子ども向けの曲の合奏 2. 課題の提出						
7	パーカッションの奏法Ⅱ 1. 基本的なリズムパターンを使ったリズム奏 2. パーカッションの各楽器の奏法	15	合奏Ⅴ 1. 子ども向けの曲の合奏 2. 提出課題の合奏						
8	リズムに関する基礎知識 1. 基本的なリズムの構造 2. リズム奏の創作方法								
成績評価の方法・基準	講義中に行う実技テスト(30%×2)、課題作品(30%)に受講態度(10%)で総合評価する。								
留意事項	2回～5回は体を動かすため、動きやすい服装(体操服等)で受講すること。								
準備学習 (予習・復習等)	カラーガードとリズム奏は必ず個人・もしくはグループで放課後等に練習を行い、操作を確実に習得しておくこと。また合奏の際には事前に楽譜を読んでおくこと。							必要時間:45分	
課題の フィードバック	提出作品は添削を行い、最終回に返却する。その際に、いくつかの作品を実際に合奏し、総評を行う。								
テキスト	「保育にいかすマーチング曲集」、「保育にいかす器楽合奏曲集」 椎山克己 権歌書房								
参考書等	「マーチングバンド・バントワーリング指導書」 上・下巻 日本マーチングバンド・バントワーリング協会								

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修/選択	担当者			
音楽保育 Method of Pre-school Music Education	2年後期	演習	1	卒業選択 資格選択必修	椎山 克己			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
					○			◎
授業の目的	幼児を対象とした音楽に関する保育実践について学ぶ。実際に保育の場で実践されているリミックやわらべ歌などのさまざまな音楽的表現に関する保育教材の研究、並びに指導法研究を行い、指導のために必要な知識と技能を習得する。							
到達目標	1. 音楽に関する保育の実践について知り、指導に必要な技術を修得する。 2. 音楽的な保育実践に必要な教材研究を行う能力が高まる。 3. 音楽的な保育実践の発表に必要な知識を習得する。							
授業の概要	リミックやわらべ歌、手遊び、楽器遊びなどの様々な保育実践の中から、興味・関心のある実践方法を選択しその事例研究を行う。また、グループワークでそれぞれが研究した教材の実践発表を行うことを通して、「実際の指導に必要な技術を身に付けて行く。							
授業計画								
1	講義ガイダンス 音楽の様々な保育実践について知るⅠ わらべ歌を用いた保育実践①	9	教材研究Ⅰ 研究テーマを決定する。(グループ分け) 研究計画作成					
2	音楽の様々な保育実践について知るⅠ わらべ歌を用いた保育実践② 各自が調べたわらべ歌遊びの発表	10	教材研究Ⅱ グループワーク① 発表内容の決定					
3	音楽の様々な保育実践について知るⅡ 手遊び、歌遊びを用いた保育実践① 音楽と身体表現について考える	11	教材研究Ⅱ グループワーク② 発表に向けての準備					
4	音楽の様々な保育実践について知るⅡ 手遊び、歌遊びを用いた保育実践② 各自が調べた歌遊びの発表	12	教材研究Ⅱ グループワーク③ 発表に向けての準備					
5	音楽の様々な保育実践について知るⅢ リミックを用いた保育実践① 保育におけるリミック教材	13	教材研究Ⅲ プレゼンテーション① グループごとの発表と相互評価					
6	音楽の様々な保育実践について知るⅢ リミックを用いた保育実践② 保育におけるリミック指導法	14	教材研究Ⅲ プレゼンテーション② グループごとの発表と相互評価					
7	音楽の様々な保育実践について知るⅣ 楽器を用いた保育実践① カール・オルフの音楽教育法	15	研究内容のまとめ グループごとのレポート作成 個人の振り返りシートの作成					
8	音楽の様々な保育実践について知るⅣ 楽器を用いた保育実践② 合奏やアンサンブルの指導法							
成績評価の方法・基準	各グループの発表(30%)、各グループのレポート(30%)、個人レポート(30%)、受講態度(10%)を総合して評価する。							
留意事項	グループごとで教材研究およびプレゼンテーションを行うので、積極的に授業に取り組むこと。							
準備学習 (予習・復習等)	次の講義までに準備することを各回で提示するので、必ず提示された内容を行うこと。						必要時間:45分	
課題の フィードバック	プレゼンテーションについてはその授業の中で振り返りを実施する。レポートについてはそれぞれにコメントを付けて返却する。							
テキスト	プリントにて配布する。							
参考書等	リミック百科 石丸由理 ひかりのくに、「幼児に生かす編曲法」 椎山克己 権歌書房							

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者	
基礎造形 I Basic Design and Art I		1年前期	演習	1	卒業必修 免許必修・資格選択必修		内野 香	
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7
						◎		○
授業の目的	幼児教育における造形教育の重要性を基礎知識の習得及び実制作で学ぶことを目的とする。 具体的な道具の使用方法・材料・技法などの知識を身に付け実際の保育の現場で生かせるように習得する。 さまざまな材料、技法に触れながら、造形が楽しく有意義であることに理解を深める。							
到達目標	1. 造形の基礎知識を学び、表現する技能を身に付ける。 2. 1. で学んだ基礎知識を制作に生かすことができる。 3. 新鮮な目で物・材料などを見て、制作のアイデアにつなげることができる。							
授業の概要	授業前半は基礎的な造形理解及び道具の使用方法を学ぶ。 後半はそれを基にさまざまな表現技法を習得し、実践的な作品制作を行い、造形表現の楽しさを感じさせる作品をグループで制作する。							
授業計画								
1	ガイダンス 造形教育において、保育者自身の美意識・創造性・表現力を育てる必要性の意味について考える。	9	様々な表現技法 ① 水彩絵の具でグラデーション・スパッタリング					
2	幼児の目で物を見る。 幼児の目線、幼児になったつもりで新鮮にモチーフを見て描く。	10	様々な表現技法 ② クレパスでスクラッチ・はじき絵					
3	描画材料を知る。 一つのモチーフを、様々な描画材料で違いが分かるように描く。	11	様々な表現技法 ③ 学んだ表現技法で作品を制作する。					
4	紙で立体を制作する。 ハサミ・カッター・テープ・接着剤などの道具の使用方を習得する。	12	身近な材料で「乗り物」を制作する。① 身近な材料から発想し、素材の利用方法を考える。					
5	三原色で模様を描く。 基礎的な色彩知識を学ぶ。	13	身近な材料で「乗り物」を制作。② 具体的な形にしていく方法を考え制作する。					
6	自然の中の形や色を見つける。 自然の中の色彩や形の豊かさを感じ取る。	14	修了制作 ① 基礎造形 I で学んだ表現方法を用い、音楽を絵にする。					
7	石・木・葉などで昆虫をつくる。① 昆虫の持つ形態の面白さを見つける。	15	修了制作 ② それぞれが制作した絵について、基礎造形 I で学んだ表現方法を再確認し、グループでディスカッションする。					
8	石・木・葉などで昆虫をつくる。② 生き生きとした昆虫を表現する。							
成績評価の方法・基準	提出物60%、基礎評価(受講態度等)40%で総合評価する。							
留意事項	日頃より、画集などに目を通し、美術館等にも足を運んで美術に触れることを心がける。							
準備学習(予習・復習等)	授業で難しいと感じた技法・技術に関しては、復習し、習得に努める。						必要時間:45分	
課題のフィードバック	提出された作品は、採点した上で次週の授業で総評を行う。							
テキスト	授業中にプリントを配布する。							
参考書等	「幼児の造形」編著:野村知子・中谷孝子 保育出版社							

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者		
基礎造形Ⅱ Basic Design and Art Ⅱ		1年後期	演習	1	卒業選択 免許必修・資格選択必修		内野 香		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
						◎			○
授業の目的	基礎造形Ⅰで習得した知識・技術・創造性を更に深め、幼児教育における造形教育の重要性を再認識する。習得した技術・技法を保育の現場で実践に活用・応用できる力を身に付け、指導者として必要な応用力と創造性を身につける。								
到達目標	1. 造形の基礎知識を更に学び、表現方法の幅を広げる。 2. 発想力を養い、1.と合わせて作品を制作する。 3. 幼児教育の現場で、習得したことを活用できるようにする。								
授業の概要	授業前半は、基礎的な造形理解及び道具の使用法、教材に使用する材料の知識などを学び、後半は、習得した技術・技法を用いて実践的な作品制作を行い、グループで一つの作品として発表し、ディスカッションを行う。								
授業計画									
1	ガイダンス 造形教育において、保育者自身の美意識・創造性・表現力を育てる必要性の意味について考える。(Ⅱ)	9	紙版画制作 ① 画用紙や厚紙で版を制作し、刷ることで出来る表現の面白さを学ぶ。						
2	描画材料と身の回りにある物で季節を描く。① 実際に季節を感じ取り、表現方法を考える。	10	紙版画制作 ② 偶然できる形や色彩のおもしろさを生かした作品を制作する。						
3	描画材料と身の回りにある物で季節を描く。② 小枝・葉・木の実などと組み合わせ、表現する。	11	ステンシル技法で蝶を制作する。 ステンシルの表現効果を理解して蝶の羽を制作する。						
4	粘土で動物を制作する。① 動物の身体的特徴を捉え、生き生きとした表現を試みる。	12	ペープサートを制作する。① 自画像をモチーフにして、様々な表情を考える。						
5	粘土で動物を制作する。② モデリング(肉付け)の方法を学ぶ。	13	ペープサートを制作する。② 厚紙・フェルトを使用して制作する。						
6	粘土で動物を制作する。③ 彩色の方法を学ぶ。	14	ペープサート劇の舞台制作。(グループワーク)						
7	詩を読んで絵を描く。① 詩から感じ取ったものをどのように表現するか考える。	15	ペープサート劇の上演会(グループワーク) 各グループの上演を相互に評価し、ディスカッションを行う。						
8	詩を読んで絵を描く。② 表現しようとするイメージにあった描画材で描く。								
成績評価の方法・基準	作品提出物60%、基礎評価(受講態度)40%で総合評価する。								
留意事項	日頃より、画集などに目を通したり、美術館等にも足を運んで美術に触れることを心がける。								
準備学習(予習・復習等)	授業で難しいと感じた技法・技術に関しては、復習し、習得に努めること。						必要時間:45分		
課題のフィードバック	提出された作品は、採点した上で次週の授業で総評を行う。								
テキスト	授業中にプリントを配布する。								
参考書等	「幼児の造形」 編著:野村知子・中谷孝子 保育出版社								

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者		
体育 Physical Education		2年前期	演習	1	卒業必修 免許必修・資格選択必修		新井 真実		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
					○	◎	○		○
授業の目的	保育者の心と身体の「しなやかさ」は、子どもたちが安心して身体表現活動を行うための、かけがえのない環境となる。本授業では、子どもの生き生きとしたからだづくりを援助する、からだあそびの基礎的な知識とレパートリーを習得する。また自身の身体意識を高め、からだを通した周囲とのコミュニケーション能力を養う。								
到達目標	1. 自身の身体と向き合う楽しさ、仲間の身体を感じる喜びを味わう。 2. からだあそびのバリエーションに触れ、レパートリーを習得すると共に、アレンジの方法を学ぶ。 3. 子どもたちの身体能力の目覚め、動きの発見を促す、効果的な働きかけ・言葉かけを身につける。								
授業の概要	各回テーマに沿ったからだあそびやリズム運動のバリエーションに触れ、子どもの育ちに視点を置きながら体験することで、理論と実践の両面から体得していく。グループワークでは、グループ毎の課題について模擬保育形式で発表を行い、これを実技試験とする。								
授業計画									
1	オリエンテーション —授業内容概説、評価方法の説明		9	素材を用いたからだあそび —身近な素材の特性を生かした動きの発見・発展					
2	アイスペイキング —自己紹介ゲーム、他己紹介ゲーム 等		10	手具を用いたからだあそび —手具の特性を生かした動きの発見・発展					
3	ストレッチ —柔軟性向上、姿勢の維持、リラクゼーションの為に		11	幼児体操・キッズダンスの基礎レッスン① —ステップワークを中心に					
4	コミュニケーションを楽しむからだあそび —表情・視線・身振り・相手との距離に着目して		12	幼児体操・キッズダンスの基礎レッスン② —コンビネーションを中心に					
5	手あそびうたを使ったからだあそび —身近な手あそびうたからの発展を楽しむ		13	グループワーク① —課題の確認と計画づくり					
6	わらべうたをつかったからだあそび —伝統的なわらべうたを使ったあそびの魅力を探る		14	グループワーク② —発表準備					
7	じゃんけん・鬼ごっこを使ったからだあそび —ポピュラーなあそびを、より豊かにアレンジ		15	グループワーク③ —最終確認 実技試験					
8	輪になって楽しむからだあそび —輪(サークル)の隊形の特性を生かして								
成績評価の方法・基準	受講態度・姿勢50%、実技試験30%、レポート20%を原則とし、総合評価する。								
留意事項	腕時計・アクセサリ類は外し、長い髪は束ね、動きやすく危険のない身なりを整えること。 自ら積極的に楽しみ、グループワークが円滑にできるよう心掛けること。								
準備学習 (予習・復習等)	取り扱ったテーマについて、授業後に関連する参考書やインターネット等を活用し、更に理解・考察を発展させること。							必要時間:45分	
課題の フィードバック	実技課題は授業内でグループ発表を実施し、並行して採点、総評を行う。								
テキスト	プリント資料								
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 プレーベル館、その他は授業内で適宜紹介する。								

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
モンテッソーリ教育法Ⅰ Montessori EducationⅠ		2年前期		演習		1		卒業選択 資格選択必修		関 聡	
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
					◎					○	
授業の目的		モンテッソーリ教育法に関心を持つ者に対して、①モンテッソーリ教育法の理論(思想・原理)、②モンテッソーリ法の実践(日常・感覚・数・言語・文化の領域)の基礎を講じ、モンテッソーリ法導入園への就職を支援し、将来モンテッソーリ教育法の実践者となる基礎を培う。									
到達目標		1. モンテッソーリ教育法の成立過程・基本原理及びモンテッソーリの子ども観・教育観を理解する。 2. モンテッソーリ教育法の実践について、教具の提供法の基礎を身につける。 3. 将来モンテッソーリ教育法導入園での教師となる自覚や資質を養う。									
授業の概要		90分を前半・後半に分け、前半はテキストを用いてモンテッソーリ教育法の理論についての学習を進める。後半は教具を用いてモンテッソーリ教育法の実践についての学習を進める。「モンテッソーリ教育法Ⅰ」においては、5領域(日常・感覚・数・言語・文化)のうち、日常生活の練習の領域について学習する。									
授業計画											
1	オリエンテーション 1、「モンテッソーリ教育法Ⅰ」の科目の意味 2、テキストと教具に関する説明	9		1、前半 誕生からの教育(乳児期の発達について)Ⅱ 2、後半 日常生活の練習【グループ・ワーク】 「磨く」							
2	1、前半 モンテッソーリ教育法の発見と展開Ⅰ 2、後半 日常生活の練習【グループ・ワーク】 「注ぐ」	10		1、前半 言語の神秘(乳児期の発達について)Ⅰ 2、後半 日常生活の練習【グループ・ワーク】 「絞る」							
3	1、前半 胎生学(胎生期の発達について)Ⅰ 2、後半 日常生活の練習【グループ・ワーク】 「巻き伸ばし」	11		1、前半 言語の神秘(乳児期の発達について)Ⅱ 2、後半 日常生活の練習【グループ・ワーク】 「お茶のサービス」							
4	1、前半 胎生学(胎生期の発達について)Ⅰ 2、後半 日常生活の練習【グループ・ワーク】 「巻き伸ばし」	12		1、前半 運動の意味(1歳～)Ⅰ 2、後半 日常生活の練習【グループ・ワーク】 「花の水替え」							
5	1、前半 胎生学(胎生期の発達について)Ⅱ 2、後半 日常生活の練習【グループ・ワーク】 「掃く」	13		1、前半 運動の意味(1歳～)Ⅱ 2、後半 日常生活の練習【グループ・ワーク】 「野菜の皮むき」							
6	1、前半 環境と人間(新生児期の発達について)Ⅰ 2、後半 日常生活の練習【グループ・ワーク】 「折る」	14		前期のまとめⅠ 1、グループディスカッション 2、レポート作成							
7	1、前半 環境と人間(新生児期の発達について)Ⅱ 2、後半 日常生活の練習【グループ・ワーク】 「拭く」	15		前期のまとめⅡ 1、グループディスカッション 2、レポート作成							
8	1、前半 誕生からの教育(乳児期の発達について)Ⅰ 2、後半 日常生活の練習【グループ・ワーク】 「洗う」										
成績評価の方法・基準		レポート(80%)・授業態度(20%)を原則として総合評価する。 この科目でいうレポートとはモンテッソーリ教育法の実践で使用する個人用の教本を指す。									
留意事項		モンテッソーリ教育法に興味・関心のある者が受講する科目である。 就職等の理由で履修届を出していない者の中途受講を認める。ただし単位認定はできない。									
準備学習(予習・復習等)		予習:テキストを読んでおくこと。復習:授業で行った提供法(M 教具の使用法)を指定の様式(アルバム)で次回までにまとめておくこと。								必要時間:45分	
課題のフィードバック		レポート作成前に、必要に応じて補習等を行う。学期途中にも確認の作業を行う。質問は授業中いつでも受け付けるが、オフィスアワーを十分に活用すること。									
テキスト		「新しい世界のための教育」 マリア・モンテッソーリ著 関聡訳 青土社									
参考書等		本学図書館に備えてあるものを中心に適宜、紹介する。									

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修/選択	担当者			
モンテッソーリ教育法Ⅱ Montessori Education Ⅱ	2年後期	演習	1	卒業選択 資格選択必修	関 聡			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
				◎				○
授業の目的	モンテッソーリ教育法に関心を持つ者に対して、①モンテッソーリ教育法の理論(思想・原理)、②モンテッソーリ法の実践(日常・感覚・数・言語・文化の領域)の基礎を講じ、モンテッソーリ法導入園への就職を支援し、将来モンテッソーリ教育法の実践者となる基礎を培う。							
到達目標	1. モンテッソーリ教育法の成立過程・基本原理及びモンテッソーリの子ども観・教育観を理解する。 2. モンテッソーリ教育法の実践について、教具の提供法の基礎を身につける。 3. 将来モンテッソーリ教育法導入園での教師となる自覚や資質を養う。							
授業の概要	90分を前半・後半に分け、前半はテキストを用いてモンテッソーリ教育法の理論についての学習を進める。後半は教具を用いてモンテッソーリ教育法の実践についての学習を進める。「モンテッソーリ教育法Ⅱ」においては、5領域(日常・感覚・数・言語・文化)のうち、日常生活の練習以外の領域について学習する。							
授業計画								
1	オリエンテーション 1、「モンテッソーリ教育法Ⅱ」の科目の意味 2、テキストと教具に関する説明	9	1、前半 意志の発達(3歳～6歳)Ⅱ 2、後半 感覚教育【グループ・ワーク】 「幾何立体」					
2	1、前半 活動のはじまり(1歳半～)Ⅰ 2、後半 感覚教具【グループ・ワーク】 「円柱さしⅠ」	10	1、前半 モンテッソーリ教師Ⅰ 2、後半 感覚教具【グループ・ワーク】 「布合わせ」					
3	1、前半 活動のはじまり(1歳半～)Ⅱ 2、後半 感覚教具【グループ・ワーク】 「円柱さしⅡ」	11	1、前半 モンテッソーリ教師Ⅱ 2、後半 数教具【グループ・ワーク】 「数の棒と数字カード」					
4	1、前半 自分をつくる(3歳)Ⅰ 2、後半 感覚教具【グループ・ワーク】 「ピンクタワー」	12	1、前半 モンテッソーリ教師Ⅲ 2、後半 言語教具【グループ・ワーク】 「絵カード」					
5	1、前半 自分をつくる(3歳)Ⅱ 2、後半 感覚教具【グループ・ワーク】 「茶色の階段」	13	1、前半 モンテッソーリ教師Ⅳ 2、後半 文化教具【グループ・ワーク】 「国旗」					
6	1、前半 性格の形成について(3歳～6歳)Ⅰ 2、後半 感覚教育【グループ・ワーク】 「赤い棒」	14	後期のまとめⅠ 1、グループディスカッション 2、レポート作成					
7	1、前半 性格の形成について(3歳～6歳)Ⅱ 2、後半 感覚教育【グループ・ワーク】 「色つき円柱」	15	後期のまとめⅡ 1、グループディスカッション 2、レポート作成					
8	1、前半 意志の発達(3歳～6歳)Ⅰ 2、後半 感覚教育【グループ・ワーク】 「色板」							
成績評価の方法・基準	レポート(80%)・授業態度(20%)を原則として総合評価する。 この科目でいうレポートとはモンテッソーリ教育法の実践で使用する個人用の教本を指す。							
留意事項	モンテッソーリ教育法に興味・関心のある者が受講する科目である。 就職等の理由で履修届を出していない者の中途受講を認める。ただし単位認定はできない。							
準備学習 (予習・復習等)	予習:テキストを読んでおくこと。復習:授業で行った提供法(M 教具の使用方法)を指定の様式(アルバム)で次回までにまとめておくこと。						必要時間:45分	
課題の フィードバック	レポート作成前に、必要に応じて補習等を行う。学期途中にも確認の作業を行う。質問は授業中いつでも受け付けるが、オフィスアワーを十分に活用すること。							
テキスト	「新しい世界のための教育」 マリア・モンテッソーリ著 関聡訳 青土社							
参考書等	本学図書館に備えてあるものを中心に適宜、紹介する。							

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修/選択	担当者			
レクリエーション概論 Introduction to Recreation	1年後期	講義	2	卒業選択 資格必修	原田 弘美			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
								◎
授業の目的	レクリエーションとは心を元気にすることを主旨として行われることを理解する。レクリエーションの歴史や支援者の役割、個人や社会の様々なニーズに多様に応えるレクリエーション運動の意義を理解し、楽しさや心地よさを活用した信頼関係づくりや自主的・主体的に楽しむ力を育む基礎的な考え方や技術を学ぶ。							
到達目標	1. レクリエーションが地域社会の課題に幅広く用いられていることを理解する。 2. レクリエーションの支援の知識を学び、対象者の主体性を尊重する姿勢を身につける。 3. レクリエーション・インストラクターの資格を取得する。							
授業の概要	現代社会のなかで余暇やレクリエーションの持つ意味を理解し、レクリエーションが充実した人生づくり・豊かな人間関係の基盤になることを学習する。レクリエーションの支援方法の幅広さ、対象者の主体性を尊重した姿勢などレクリエーション支援を理解し、一人ひとりの豊かなライフスタイルにむけてレクリエーションを意図的に活用することを学習する。							
授業計画								
1	ガイダンス レクリエーション概論 ① レクリエーション支援とは レクリエーションの主旨を理解する	9	レクリエーション支援の理論 ④ 良好な集団づくりの理論を学ぶ					
2	レクリエーション概論 ② レクリエーション・インストラクターの役割を理解する	10	レクリエーション支援の理論 ⑤ アイスブレイキングのプログラムと基本技術を理解する					
3	楽しさと心の元気づくりの理論 ① 楽しさをとおした心の元気づくりと対象者の心の元気について学ぶ	11	レクリエーション支援の理論 ⑥ 自主的・主体的に楽しむ力を育む理論を学ぶ					
4	楽しさ心の元気づくりの理論 ② 活動を心の元気づくりに活かす 2つの視点について理解する	12	レクリエーション支援の理論 ⑦ 楽しむ力を高める目標設定の方法・アレンジについてグループワークを通して理解する					
5	レクリエーション概論・楽しさとこころの元気づくりの理論のまとめと小テスト	13	レクリエーション支援の理論 ⑧ 相互作用を促進するコミュニケーション技術を理解する					
6	レクリエーション支援の理論 ① コミュニケーションと信頼関係づくりの方法を学ぶ	14	レクリエーション支援のプログラム リスクマネジメントの方法について理解する					
7	レクリエーション支援の理論 ② あたたかくもてなす意識と配慮についてグループワークをととして理解する	15	レクリエーション支援のまとめと小テスト 全体のふりかえり					
8	レクリエーション支援の理論 ③ 気持ちを一つにするコミュニケーション技術をグループワークを通して理解する							
成績評価の方法・基準	筆記試験60%、課題・提出物40%で総合評価する。							
留意事項	単元ごと的小テストを活用して、授業で理解できなかった点を質問し解決していくように努力すること。							
準備学習 (予習・復習等)	身近な地域のレクリエーション協会の組織や展開している事業など事前に調べておく。 身の周りの課題や対象者の課題にレクリエーション協会がどのように応えているのか自分なりにまとめる。						必要時間:3時間	
課題の フィードバック	単元ごと的小テストは添削、採点し総評をおこなう							
テキスト	「楽しさをとおした心の元気づくり」編集・発行(財)日本レクリエーション協会 「楽しいをつくる～レクリエーション・ハンドブック～」編集・発行NPO法人福岡県レクリエーション協会							
参考書等	随時、紹介する。							

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者			
スポーツ・レクリエーション概論 Overview of Sports recreation		2年後期	講義	2	卒業選択	新井 真実			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
					○			○	◎
授業の目的	スポーツを活用したレクリエーション活動を通じて、運動嫌いの子どもや、運動に親しんでいない人たちを含め、だれもがスポーツ・レクリエーションを継続的に楽しめる場を創出するための、基礎的な知識と手法を修得する。								
到達目標	1. 運動効果を、科学的な知見や客観的な数値にもとづき、わかりやすく解説することができる。 2. 運動やスポーツに無関心な人の意識を刺激し、参加を促す手法について理解する。 3. 楽しさと運動効果で、運動やスポーツを持続する意欲を高める手法について理解する。								
授業の概要	「レクリエーション概論」及び「レクリエーション指導法」で修得した内容を踏まえ、特にスポーツを活用したレクリエーションのあり方について学修する。グループワークでは、課題に基づき、スポーツ・レクリエーションのプログラムを立案・発表し、実践に必要な企画力とコミュニケーション能力を身に着ける。								
授業計画									
1	オリエンテーション			9	動機づけの支援技術(1) —スポレク効果の理解、意欲を高める指導法				
2	スポーツ・レクリエーション概論 —スポレク指導者の使命、役割の理解			10	動機づけの支援技術(2) —継続意欲を高める指導法				
3	スポーツ未実施者参加促進法 —スポーツ未実施者掘起しのための手法			11	スポーツ・レクリエーションプログラムの立案 —グループワーク(1) 対象者の主体性				
4	スポーツ行政の仕組みと実際 —スポーツ基本計画の推進に向けた取組み			12	スポーツ・レクリエーションプログラムの立案 —グループワーク(2) 双方向の関わり				
5	スポーツ・レクリエーション継続のための場づくり —活動の場づくりの必要性、継続させるための支援方法			13	スポーツ・レクリエーションプログラムの立案 —グループワーク(3) 継続への意欲促進				
6	スポーツ・レクリエーション生理学 —高齢期に訪れる危機を回避する運動効果			14	グループ発表				
7	スポーツ・レクリエーション心理学 —運動、レクリエーションの心理的効果			15	講評とまとめ				
8	安全管理の基礎 —安全管理の基礎、体調管理の手法								
成績評価の方法・基準	グループ発表(40%)、受講姿勢(60%)で総合評価する。								
留意事項	理論と実技の回があるため、服装・持ち物については都度確認の上、準備すること。								
準備学習 (予習・復習等)	授業計画に沿って予習・復習を行い、疑問点についてはオフィスアワーに質問し解決すること。また日頃からスポーツ行政に関心を持ち、自主的に調べておくこと。						必要時間:3時間		
課題の フィードバック	グループ発表については、授業最終回に講評を行う。								
テキスト	スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト—スポレク活動で健康寿命を延伸・編集 発行(財)日本レクリエーション協会								
参考書等	授業内で適宜紹介する。								

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修/選択			担当者	
レクリエーション指導法 Recreation Teaching Method		2年前期	演習	1	卒業選択 資格必修			原田 弘美	
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
					○	○	○		◎
授業の目的	様々な集団や個人のニーズに応じたレクリエーション活動の多様さを学ぶ。仲良く楽しい人間関係を作り出すためのコミュニケーションワークについて学習を深め、集団をリードし一体感を生み出す楽しい時間を演出する指導技術の習得をめざす。さらに目的や対象に応じたレクリエーションの支援を試みる。								
到達目標	1. レクリエーション、インストラクターに必要とされる各分野の指導法を身につけるとともに、自ら工夫、発見していく創造的姿勢を養う。 2. 授業全体を通して、楽しい人間関係を作り出す支援者の基本的な考え方、仲間づくり、人々のふれあい活動等の方法を学ぶ。 3. レクリエーション演習をととして企画・実施・評価の流れを体験し指導力を確かなものにする。								
授業の概要	レクリエーション活動における指導、援助の基礎を学び、仲良く楽しい人間関係を作り出すためのコミュニケーションワークについて学習する。さらに集団をリードし一体感を生み出すアイスブレイキングの技術を身につける。さまざまなレクリエーション活動を習得し、課題にそった集いを安全に留意しながら企画・実施し評価を共有することで指導力を確かなものにする								
授業計画									
1	レクリエーション支援の方法 信頼関係づくりの方法と技術を学ぶ		9	レクリエーション演習 対象や目的に合わせた行事の企画					
2	モデルプログラムの習得 1(子ども対象) 仲良く楽しい人間関係を作り出すための展開を学ぶ		10	レクリエーション支援の実施 ① 対象者の課題に合わせたレクリエーションのつどいの演習とふりかえり					
3	モデルプログラムの習得 2(子ども対象) 目的や対象に合わせたプログラムの展開を学ぶ		11	レクリエーション支援の実施 ② 対象者の課題に合わせたレクリエーションのつどいの演習とふりかえり					
4	レクリエーション活動の習得1 ルールや用具を工夫したニュースポーツを学ぶ		12	レクリエーション支援の実施 ③ 対象者の課題に合わせたレクリエーションのつどいの演習とふりかえり					
5	レクリエーション活動の習得2 音楽(うたやダンス)に合わせた身体活動を学ぶ		13	レクリエーション支援の実施 ④ 対象者の課題に合わせたレクリエーションのつどいの演習とふりかえり					
6	レクリエーション活動の習得3 つくって遊ぶ 創作活動を学ぶ		14	レクリエーション支援の実施 ⑤ 対象者の課題に合わせたレクリエーションのつどいの演習とふりかえり					
7	レクリエーション活動の習得4 レクリエーション支援のためのゲームを学ぶ		15	レクリエーション支援の実施 ⑥ 対象者の課題に合わせたレクリエーションのつどいの演習とふりかえり 全体のまとめ					
8	レクリエーション活動の習得5 レクリエーション支援のためのゲームを学ぶ								
成績評価の方法・基準	実技発表70%、受講態度・姿勢30%で総合評価する。								
留意事項	楽しい人間関係を作り出すよう心掛ける。								
準備学習 (予習・復習等)	必要時間:45分						必要時間:45分		
課題の フィードバック	ふりかえりシートを活用しながら演習の良かった点や改善点を全体で共有し、次回の単元に反映できるように総評をおこなう								
テキスト	「楽しいをつくる～レクリエーション・ハンドブック～」 編集・発行NPO法人福岡県レクリエーション協会 「楽しさをとおした心の元気づくり」 編集・発行(財)日本レクリエーション協会								
参考書等	随時、紹介する。								

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修/選択		担当者		
在宅保育論 At-home Childcare Theory		2年後期	講義	2	卒業選択 資格必修		濱元 篤子		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
					○			◎	○
授業の目的	少子高齢社会における子育て支援のあり方について考える。「子ども・子育て新システム」において家庭訪問保育(在宅保育)が位置づけられたことの意義を理解し、全国ベビーシッター協会認定のベビーシッター資格取得を目指して、在宅における乳幼児の個人もしくは、小集団の保育について学習する。								
到達目標	1. 多様な保育ニーズについて把握する。 2. 家庭訪問保育(在宅保育)の意義を理解する。 3. 家庭訪問保育者(ベビーシッター)の業務に必要なスキルを習得する。								
授業の概要	担当者のベビーシッターとしての実務経験を活かし、在宅における保育の特殊性や在宅保育の子育て支援としての役割について、また、職業としての在宅保育と法的責任を理解する。1対1, 2程度の少人数の保育に対する理解を深めると同時に、病後児保育、産後のケア等についても理解する。在宅保育におけるマナーや緊急時の対応についても学習する。								
授業計画									
1	居宅訪問保育の概要① ・児童福祉における居宅訪問保育の社会的背景 ・居宅訪問保育の実態 ・子供・子育て支援士信制度の概要			9	居宅訪問保育におけるマナー② ・社会人としてのマナー				
2	居宅訪問保育の概要②(グループワーク/ディスカッション) ・地域の子育て支援事業の概要 ・地域の子育て支援事業の中の居宅訪問保育事業			10	居宅訪問保育におけるマナー③ ・コミュニケーションスキル				
3	ベビーシッターの実務① ・乳幼児の発達と心理			11	さまざまなベビーシッターサービス① ・障害児保育 ・送迎保育 ・グループ保育 ・学童保育				
4	ベビーシッターの実務② 乳幼児の生活と遊び①			12	さまざまなベビーシッターサービス② ・病児、病後児保育・(体調不良時の保育)				
5	ベビーシッターの実務③(グループワーク) 乳幼児の生活と遊び②在宅保育に役立つ遊び			13	さまざまなベビーシッターサービス③ ・産後ケア				
6	ベビーシッターの実務④ 乳幼児の生活と遊び③ 絵本の読み聞かせ			14	ベビーシッターの実務⑤ ・訪問保育体験談				
7	ベビーシッターのマネジメント ・リスクマネジメントとクレーム処理 ・居宅訪問保育における保育内容と環境整備 ・事故防止と安全確保			15	まとめ…在宅保育論を学んで 「実習日誌の書き方」 ・保育計画の立案 ・実習日誌の作成				
8	・居宅訪問保育におけるマナー① ・家族との信頼関係								
成績評価の方法・基準	レポート課題(60%)に出席状況・受講態度等(40%)を加え、総合的に評価する								
留意事項	全国ベビーシッター協会認定によるベビーシッター資格が取得できる。欠席せず受講すること。								
準備学習(予習・復習等)	次回予定を伝えるので講義内容及びテーマを確認、準備をすること。						必要時間:3時間		
課題のフィードバック	各回の実習レポートは最終回に総評及び返却する。 課題レポートは評価の後返却する。								
テキスト	「在宅保育論—家庭訪問保育の理論と実際—」 社団法人全国ベビーシッター協会 中央法規								
参考書等	必要に応じて指示								

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者			
チャイルドプロジェクト Child Project	1年後期 2年通年	演習	2	卒業必修 資格選択必修	学科教員			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
						○		◎
授業の目的	地域社会が抱える子どもや子育てに関する様々な問題について、各自の興味・関心のある分野を選び自主研究を行うことを通して、保育者としての専門性を高める。また、学生が主体的に研究課題を設定し、地域社会と連携した研究を行うことにより、学生各自が自己研鑽力を高めていく。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 自分たちで研究テーマや課題を設定し、研究方法を立案できる。 研究の成果を文章にまとめる力を身につける。 地域社会が抱える子ども・子育てに関する問題を知り、その問題解決に取り組むことができる。 							
授業の概要	地域社会が抱える子ども・子育てに関する課題を見つけ、その問題解決を図るための研究をアクティブ・ラーニングの手法を用いて実施する。学生自身が取り組む分野・研究テーマを選び、各研究会に分かれて1年間の研究を行い、その成果を発表し報告集に掲載する。							
授業計画								
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 研究分野 令和2年度実績 表現研究会 ピアノ・トーンチャイム研究会 保育者のための「聞き方・話し方」研究会 からだあそび研究会 科学遊び研究会 造形の楽しみ研究会 声楽研究会 </div> <p>どの分野で学ぶかは、学生の希望を事前にアンケート調査し、調整の上、決定する。 具体的な研究課題・内容については講義の中で決定する。 研究の成果については報告会で発表を行い、研究報告書を30回目に提出する。</p>								
成績評価の方法・基準	各研究会での活動・成果80%、受講態度20%で総合評価する。							
留意事項	学生が主体的に研究をおこなうので、意欲的に取り組むこと。							
準備学習 (予習・復習等)	各自の課題についての取り組みを放課後等実施すること。					必要時間:45分		
課題の フィードバック	提出した研究報告書については、報告集を作成し配布する。							
テキスト	必要に応じてプリントを配布。							
参考書等	各研究会にて指示する。							

科目名		開講時期	授業形態			単位数	必修／選択		担当者		
保育実習指導Ⅰ Guidance to Childcare Field Study I		1・2年 通年	演習			2	卒業選択 資格必修		園田 和江 坂田 万代		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
							◎	○	○		
授業の目的	保育・施設実習の意義目的、実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。事前指導では、各施設での実習内容について具体的に理解する。実習直前指導では書類の準備を行い、オリエンテーションで具体的な実習の情報を習得する。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い新たな課題や実習目標を明確にする。										
到達目標	1. 実習の意義・目的を理解し、実習の内容と自らの課題を明確にする。 2. 事前指導では、各施設での実習内容について具体的に理解する。 3. 事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や実習目標を明確にできる。										
授業の概要	保育実習の意義・目的を理解し、プライバシーの保護と守秘義務、実習の計画、記録の方法や内容について学ぶ。施設実習の意義と目的を理解し、各種施設(児童養護施設、福祉型障害児入所施設、医療型障害児入所施設、その他)について学習する。事後指導では実習の総括と自己評価を行い、反省とまとめを行う。										
授業計画											
保育所					施設						
1	保育実習にいくための実習依頼の手順について				1	施設実習の意義と目的					
2	保育実習の意義と目的・実習の方法について				2	子ども・利用者の理解と保育士の役割					
3	実習生としての心構え、全国保育士倫理綱領について				3	子ども・利用者の人権					
4	実習に必要な事務手続きについて				4	種別の理解(1) 児童養護施設					
5	実習記録の意義と方法、観察の視点について				5	種別の理解(2) 乳児院					
6	実習記録の実際①日誌の各項目の理解				6	種別の理解(3) 障害児・者入所施設					
7	実習記録の実際②ワーク 実習先でのオリエンテーションについて				7	種別の理解(4) 放課後等デイサービスなど					
8	実習記録の実際③フィードバック				8	実習記録の取り方					
9	指導計画の意義と方法				9	個人票や書類の作成を通じた実習の目標設定や守秘義務等					
10	指導案作成の実際①基本的事項と設定(部分)保育				10	施設でのオリエンテーションについて(施設実習書類の準備)					
11	指導案作成の実際②教材研究の基本				11	施設実習班員での事前学習と打ち合わせ					
12	指導案のプレゼンテーション 腸内細菌検査について				12	施設実習直前指導(腸内細菌検査・実習生としてのマナー・諸注意他)					
13	学内直前指導				13	事後指導 振り返りと実習事例の検討					
14	事後指導における実習の総括と自己評価				14	実習報告会準備					
15	事後指導における振り返りと課題の明確化				15	実習報告会発表と総括					
成績評価の方法・基準	保育所実習指導50%(実習事前・事後レポート60%(各30%)、授業課題20%、事後報告書10%、受講態度10%)、施設実習指導50%(グループ発表40%、課題提出30%、受講態度30%)で評価する。										
留意事項	体調管理に特に注意を払い、欠席がないようにすること。施設でのプライバシー保護に留意する。										
準備学習 (予習・復習等)	授業後は講義内容を他の講義と関連付けながら確認していくこと。 実習前には実習指導のノートやテキストを読み返すこと。							必要時間:45分			
課題の フィードバック	提出課題については授業時に返却し総評を行う。										
テキスト	「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省及び各解説 フレーベル館 「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド―準備から記録・計画・実践まで―」編著者太田光洋 ミネルヴァ書房										
参考書等	授業中に知らせる。										

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者	
保育実習指導Ⅱ Guidance to Childcare Field Study Ⅱ		1年後期 2年通年	演習	1	卒業選択 資格選択必修		増田 吹子	
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7 8
				○	○	○	◎	
授業の目的	保育実習Ⅱの意義・目的、授業の内容を理解し、自らの課題を明確にする。事前指導では、指導案・日案等について準備を行う。また個人情報の取り扱い、子どもの安全に対する配慮、職員間の連携などについて学び、実習生として留意すべき事項を理解する。事後指導では、実習の総括と自己評価を行う。							
到達目標	1. 保育実習の意義と目的を理解し、実習に向けての自己の課題を明らかにする。 2. 今までの実習や既習の科目の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 実習の総括と自己評価を通して、保育実践における自己の課題を明らかにできる。							
授業の概要	保育実習Ⅱの意義と目的、内容について学ぶ。保育実習Ⅰを振り返り、自己の課題を明らかにして改善する。具体的には日誌、指導案等の振り返りや今までの学習を基に指導案や日誌等の作成を行う(課題解決型学習)。また、実習後には総括と自己評価を行い、自己の目標を明確にする。							
授業計画								
1	オリエンテーション 実習依頼の注意事項について 実習園探しの心得、依頼の手順とマナー	9	実習事前指導⑦ 作成した指導案の評価(グループワーク) 日案作成のポイント					
2	保育実習Ⅱの意義と目的、内容 実習の意義と目的、保育実習Ⅱの位置づけ・内容 ルーブリック評価を用いた到達度の確認	10	実習事前準備⑦ 実習生としての心得・マナー					
3	実習事前準備① 子どもの発達に合わせた教材研究 指導案作成のポイント	11	実習事後指導① 実習の自己評価					
4	実習事前準備② 指導案の作成	12	実習事後指導② 実習日誌・指導案の振り返り(グループワーク)					
5	実習事前準備③ 保育実習Ⅰの振り返りと自己課題の明確化 個人票作成	13	保育士資格の申請について 申請手続きの説明					
6	実習事前準備④ 子どもの姿の捉え方 個人情報の取り扱い及び誓約書作成	14	実習事後指導③ 実習報告会					
7	実習事前準備⑤ 実習日誌の書き方(子どもの活動・保育者の援助)	15	まとめ 保育者として成長するための課題を考える ルーブリック評価を用いた到達度の確認					
8	実習事前準備⑥ 実習日誌の書き方(気づき・反省・考察)							
成績評価の方法・基準	レポート①30%、レポート②30%、授業内課題20%、事後報告書10%、受講態度10%で評価する。							
留意事項	欠席が無いよう注意し、他教科との連携を意識すること。提出物の期限は厳守すること。							
準備学習(予習・復習等)	テキストに目を通し、授業内容を復習する。 理解が不足している点は質問して解決する。						必要時間:45分	
課題のフィードバック	各回提出のノートは添削して次週の授業時に返却し総評を行う。							
テキスト	太田光洋編、「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド—準備から記録・計画・実践まで—」、ミネルヴァ書房 保育所保育指針解説							
参考書等	適宜指示する。							

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者		
保育実習指導Ⅲ Guidance to Childcare Field Study Ⅲ		2年後期	演習	1	卒業選択 資格選択必修		園田 和江		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
				○	○		◎	○	
授業の目的	保育実習Ⅲ(保育所以外の施設実習)に関し、施設内処遇を中心に学びをすすめていくことにより、施設に関する一層の理解の一助とする。又、実習を通して児童の現状、地域社会、保護者(家庭)、関係機関、ボランティア等幅広い理解の機会とする。								
到達目標	1. 保育実習Ⅰの施設における実習を通して体得した知識、実践力の一層の進展をはかる。 2. 希望園(種別)に関する全般理解。 3. 施設保育士の専門性の視点から、実習後の自己評価及び施設に関する知識、理解、処遇の在り方を総合的にとらえる。								
授業の概要	保育実習Ⅰ(施設)の総括、自己評価を通して施設保育士としての処遇に関する実践力の確認と共に、実習園に関する概要についての詳細な理解により実習の意義を深めると共に実習終了後の自己評価、課題認識等を通して施設保育士としての専門性確立への一助とする。								
授業計画									
1	保育実習Ⅰの施設実習の総括と自己評価のふりかえり。	9	施設の全体計画(年間、月課、週間、日課)に基づく、実践の位置づけを学ぶ。						
2	施設実習の意義と目的を基盤に、施設処遇について総合的に学ぶ。	10	以上1～9の把握をもとに、学生個々の希望園、希望種別園について、意見交換、話し合いのうえ選定(決定)する。						
3	施設保育士としての専門性と職業倫理について学ぶ。	11	実習決定園及び種別等に関する概要の説明。 当該施設の変遷・現状等。						
4	施設実習に関するポイントの学び ①子どもの最善の利益を目指した処遇の在り方を理解する。	12	実習施設におけるオリエンテーション(その為の心得、事前準備等を含む)。						
5	②子どもの処遇と保護者支援の実際を学ぶ。 事例をもとに理解する。	13	実習施設におけるオリエンテーション内容をもとに、実習に関する心得・必要な知識等を確認する。						
6	施設処遇の実践力について学ぶ。 ①子どもの状態に応じた適切なかわりについて学ぶ。	14	事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い課題や認識を明確にする。						
7	②施設の専門性(処遇技術)をもとにした実践への応用を事例を通して学ぶ。	15	まとめ(補足) 実習を通して体得した施設に関する知識、理解の確認を行う。						
8	施設実習における観察、記録の意義及びポイントについて学ぶ。								
成績評価の方法・基準	毎回のノート45%、課題レポート20%、受講態度・姿勢20%、最終回ノート提出15%で総合評価する。								
留意事項	自ら主体的に問題意識を持ち希望施設(種別)の理解、把握に努めること。								
準備学習(予習・復習等)	授業内容の復習を通して、実習に伴う多様な要素の把握に努めること。						必要時間:45分		
課題のフィードバック	課題レポートに関し、解説及び復習を行う。								
テキスト	「保育所保育指針」厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 及び各解説 フレーベル館、「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド―準備から記録・計画・実践まで―」編著者太田光洋 ミネルヴァ書房								
参考書等	授業中に知らせる。								

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者			
保育実習Ⅰ Field Study in ChildcareⅠ	別に示す	実習	4	卒業選択 資格必修	園田 和江 坂田 万代			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
						○	◎	○
授業の目的	既修科目の内容を踏まえ、保育所、児童福祉施設等の役割や機能を理解し保育士の役割、職業倫理を学ぶ。保育所実習では、観察や子どものかかわりを通じて、発達過程に応じた保育内容や環境を学ぶ。児童福祉施設における実習では、種別ごとの養護内容や生活環境を学び個々の状態に応じた援助を理解する。							
到達目標	1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する 2. 観察や子どもとの関わりを通して子ども、利用者への理解を深める 3. 保育士の役割と倫理を理解する。							
授業の概要	保育所実習では、保育所で生活を営む乳幼児への理解を深め、保育所の機能やそこで働く保育士の職務について学ぶ。施設実習ではその意義と目的を理解し、各種施設(保育所、障害児入所施設、障害者支援施設、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、その他)で働く保育士の職務について学習する。							
授業計画								
<p>保育所実習2単位(学外):1年次2月(おおむね10日間) 施設実習2単位(学外):2年次9月(おおむね10日間)</p> <p>「保育所実習の内容」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設について理解を深める 2. 保育所の状況や一日の流れを理解する 3. 乳幼児の発達を理解する 4. 保育計画・指導計画を理解する 5. 保育技術を習得する 6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する 7. 家庭・地域社会との連携について理解する 8. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ 9. 保育士の倫理観を具体的に学ぶ 10. 安全及び疾病予防への配慮について学ぶ <p>「居住型福祉施設等及び障害児・者支援施設等における実習の内容」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設実習の意義と目的を理解する 2. 各種施設の役割と機能を理解する 3. 各種施設の利用児・者について理解する 4. 専門職としての施設保育士の役割と倫理を学ぶ 5. 各種施設の養護内容(支援内容)と生活環境を理解し、実習記録のとり方を理解する 6. 利用児・者の個別の支援計画と援助について理解する 7. 健康管理・安全対策について理解する 8. 多様な専門職との連携や役割分担について理解する 9. 宿泊実習に伴う生活上の注意点を理解する 10. 施設実習のふり返りを通して自己課題を明確化する 								
成績評価の方法・基準	保育実習の評価80%と、実習日誌20%で総合評価する。							
留意事項	体調管理に特に注意を払い、欠席がないようにすること。							
準備学習(予習・復習等)	保育実習指導Ⅰでの学びを準備学習とし、各回の内容を振り返っておくこと。 実習先でのオリエンテーションで指示された課題の準備を行うこと。						必要時間:指定せず	
課題のフィードバック	実習終了後、実習先からの評価票・実習日誌の内容を踏まえフィードバックを行う							
テキスト	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド―準備から記録・計画・実践まで―」編著者太田光洋 ミネルヴァ書房 「保育所保育指針 解説書」厚生労働省 フレーベル館							
参考書等	「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 及び 各解説 フレーベル館、および適宜、授業内で紹介する。							

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者			
保育実習Ⅱ Field Study in ChildcareⅡ	別に示す	実習	2	卒業選択 資格選択必修	増田 吹子			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
						○	◎	
授業の目的	保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、子ども・保育についての理解や保育所の機能や役割、職業倫理についての理解を深め、家庭や地域との連携について学ぶ。特に保育士としての配慮や援助についての理解に基づいて保育を実践し、保育士のあり方について体験的に学ぶことを目的とする。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育士の援助や配慮の意義や意図を理解し、子どもとの関わりの中で実践できる。 2. 子ども理解を基盤とした指導計画を作成し、保育を実践・評価することができる。 3. 子どもとの関わりや保育実践を通して、保育士としての課題を考えることができる。 							
授業の概要	保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、子どもとの関わりや指導の経験を通して子ども理解や保育士の職務内容についての理解を深める。また、指導計画を立案し、実際に指導を行い評価することを通して、子ども理解を深め、保育技術を向上させると共に、より質の高い保育を行う方法を考える。							
授業計画								
<p>実施時期: 2年次8月におおむね10日間実施する。</p> <p>実習の内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について理解を深める 2. 保育所の一日の流れ、保育士の援助や配慮について理解する 3. 子どもとの関わりを通して、乳幼児の発達を理解する 4. 指導計画を立案し、実践、評価する 5. 保育技術を習得する 6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する 7. 家庭・地域社会との連携について理解する 8. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ 9. 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育等の保育の基本についての理解を深める 10. 安全および疾病予防への配慮について学ぶ 11. 保育士の倫理観を具体的に学び、多様な保育の展開と業務を理解する 								
成績評価の方法・基準	実習園による評価80%、実習日誌20%で総合評価する。							
留意事項	体調管理に特に注意を払い、欠席がないようにすること。							
準備学習 (予習・復習等)	保育実習指導Ⅱでの学びを準備学習とし、各回の内容を振り返っておくこと。 実習先でのオリエンテーションで指示された課題の準備を行うこと。					必要時間: 指定せず		
課題の フィードバック	実習終了後、実習先からの評価票・実習日誌の内容を踏まえフィードバックを行う							
テキスト	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイドー準備から記録・計画・実践までー」太田光洋編著 ミネルヴァ出版 「保育所保育指針 解説書」厚生労働省 フレーベル館							
参考書等	適宜指示する。							

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者			
教育実習 Teaching Practice	別に示す	実習	5	卒業選択 免許必修・資格選択必修	原・桑原・新井			
学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			○	○			◎	
授業の目的	学校で学んだ理論や実技を幼児教育の場で実践し、直接子どもとふれあい、幼児の実態と保育のあり方を学ぶ。また、事前事後指導を行い、教育実習の意義や目的、幼児理解の観察の視点や援助方法を学ぶと同時に、実習後の振り返りを通して、現場での教育実習の効果を高めていく。							
到達目標	1. 幼稚園の施設、設備、教育方針とそれに基づく園生活のあり方を知る。 2. 幼児理解(興味、関心、年齢ごとの発達等)ができるようになる。 3. 保育者理解(保育場面での役割、その他の業務)ができるようになる。							
授業の概要	・久留米信愛幼稚園での教育実習 1年次6月の1週間と10月の1週間(計2週間) ・学外の幼稚園での教育実習 2年次5月から6月にかけての2週間 ・事前事後指導 1年次～2年次の期間で、教育実習の予定に合わせて行う。							
授業計画								
1	幼稚園教諭・教育実習の意義と目的について	14	後期信愛幼稚園実習の事後指導② 評価のフィードバック					
2	実習生としての心構え ルーブリック評価を用いた到達度の確認	15	実習先提出書類について					
3	実習先提出書類について	16	外部幼稚園実習に関するオリエンテーション 提出書類配布					
4	信愛幼稚園実習日誌の書き方① 日誌の基本的事項	17	実習生としての心構え					
5	信愛幼稚園実習日誌の書き方② 記録の実践	18	実習に関する準備 実習日誌及び指導案の研究					
6	信愛幼稚園実習日誌の書き方③ フィードバック	19	外部幼稚園実習直前指導 教材研究					
7	信愛幼稚園実習の心構え 信愛幼稚園園長先生の講話	20	外部幼稚園実習事後指導① 報告書作成と自己評価					
8	前期信愛幼稚園実習の直前指導	21	外部幼稚園実習事後指導② 外部評価より フィードバック					
9	前期信愛幼稚園実習に関する事後指導① 自己評価とグループ内評価(グループワーク)	22	外部幼稚園実習事後指導③ 実習についてグループディスカッション ルーブリック評価を用いた到達度の確認					
10	外部幼稚園実習の依頼手順について	23	外部幼稚園実習事後指導④ 訪問指導担当教員との報告会					
11	後期信愛幼稚園実習に関する準備 部分指導について	上述した 23 回の教育実習事前事後指導に加えて、久留米信愛幼稚園ならびに学外の幼稚園で合計4週間の実習を行う。						
12	後期信愛幼稚園実習の直前指導							
13	後期信愛幼稚園実習の事後指導① 自己評価とグループ内評価(グループワーク)							
成績評価の方法・基準	事前事後指導(30%)・信愛幼稚園実習(35%)・外部幼稚園実習(35%)を総合して評価する。							
留意事項	体調管理を常に意識し、実習指導の授業・実習共に欠席がないようにすること。 提出物は、期日を厳守すること。							
準備学習 (予習・復習等)	授業後は講義内容を他の講義と関連付けながら確認していくこと。 実習前には実習指導のノートやテキストを読み返すこと。						必要時間: 指定せず	
課題の フィードバック	実習終了後、実習先からの評価票・実習日誌の内容を踏まえフィードバックを行う							
テキスト	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド―準備から記録・計画・実践まで―」編著者太田光洋 ミネルヴァ書房 「保育所保育指針 解説書」厚生労働省 フレーベル館							
参考書等	実習指導の授業時に紹介する							

科目名		開講時期	授業形態	単位数	必修／選択		担当者		
保育・教職実践演習(幼稚園) Childcare and Practical Training Exercise (Kindergarten)		2年後期	演習	2	卒業選択 免許・資格必修		椎山・桑原・増田		
学科のディプロマ・ポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
							◎	○	○
授業の目的	今までの学修を振り返り、保育者の職責を果たすための自己研鑽力を身につけ、保育環境の理解を深め、コミュニケーション能力や課題への対処力を高める。また、子どもの状況に配慮した教育活動を行う知識・能力を身につけ、指導方法・教材研究を活かした指導案等を作成する力、子どもに対応した関わり方を学ぶ。								
到達目標	1. 今までの実習を含めた学修を振り返り、保育者となるために自己の不足している点を明らかにする。 2. 保育者の役割を認識し、それを果たすための自己研鑽力を身につける。 3. 指導案や教材研究、模擬保育を通して子どもへの対応力が高まる。								
授業の概要	保育者像やその職責、保育現場を取り巻く環境などについて、事例研究やグループディスカッションを通してその理解を深める。また、今までの学修の振り返りをもとに、各自の不足している点を明らかにすると共に、模擬保育を通して保育の実践力を高め、自己研鑽力を養う。								
授業計画									
1	学修・実習を振り返り(グループ討議)	【桑原】	16	指導案研究と模擬保育と相互評価⑤	【椎山】				
2	設定保育等の振り返りとグループ討議	【椎山】	17	保育現場を取り巻く人間関係	【桑原】				
3	保育職の意義・役割について	【桑原】	18	指導案研究と模擬保育と相互評価⑥	【椎山】				
4	履修カルテを活用した自己分析	【椎山】	19	保育者に必要な人間関係の構築	【桑原】				
5	事例研究① 子どもとの関わり	【桑原】	20	指導案研究と模擬保育と相互評価⑦	【椎山】				
6	分析、面談をもとにしたプログラム作成	【椎山】	21	保護者に対する子育て支援の事例研究	【桑原】				
7	事例研究② 子ども安全	【桑原】	22	指導案研究と模擬保育と相互評価⑧	【椎山】				
8	指導案研究と模擬保育と相互評価①	【椎山】	23	保護者や地域社会との連携の理解を図る。	【桑原】				
9	事例研究③ 保護者との関わり	【桑原】	24	倉橋惣三「育ての心」を読む	【増田】				
10	指導案研究と模擬保育と相互評価②	【椎山】	25	保護者支援についてのグループ討議	【桑原】				
11	事例研究④ 地域との関わり	【桑原】	26	幼児理解、保護者への対応の事例研究	【椎山】				
12	指導案研究と模擬保育と相互評価③	【椎山】	27	家庭との連携、クラスだよりの作成	【桑原】				
13	幼児理解の事例研究とグループ討議	【桑原】	28	子どもと楽しむ製作遊び	【増田】				
14	指導案研究と模擬保育と相互評価④	【椎山】	29	目指す保育者像、必要な資質・能力の確認	【桑原】				
15	学級経営に関する事例研究とグループ討議	【桑原】	30	模擬保育の振り返りと総評	【椎山】				
成績評価の方法・基準	事例発表25%、指導案20%、模擬保育20%、レポート20%、小テスト5%、受講態度10%で総合評価する。								
留意事項	日誌等で実習の振り返りを行っておくこと。								
準備学習(予習・復習等)	実習日誌、指導案等を振り返り、自己の課題を認識して模擬保育に臨むこと。理解できなかったこと、課題作成の質問はオフィスアワーを利用し解決すること。						必要時間:45分		
課題のフィードバック	指導案は模擬保育ごとに総評を行い返却する。模擬保育および相互評価については最終回で総評を行う。								
テキスト	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館、その他プリントを配布する。								
参考書等	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」 太田光洋編著 ミネルヴァ書房								

マークシートの記入方法

本マークシートは、履修届を電算化することにより履修漏れを未然に防いだり、適切な履修指導をおこなうための補助となるものです。

従来の履修届に本マークシートを添えて提出して下さい。

【マークシート記入要領】

- ①氏名を記入
- ②届出年月日を記入
- ③学科コードを記入し数字を塗りつぶす
- ④学年を記入し数字を塗りつぶす
- ⑤出席番号（2ケタ）を番号欄に記入し数字を塗りつぶす
- ⑥「履修届」の中の「マークシート問番号」の数字とマークシートの問1～問100は対応していますので、今回履修する科目（通年科目含む）については、マークシート「履修届(単位)」欄の①～⑤を塗りつぶす（①～⑤は単位数）。（すでに単位取得済みの科目や履修しない科目は「履修届(単位)」欄の○を塗りつぶす。）

【記入例】（マークシート問番号が82までの場合）

フリガナ	シンアイ	ハナコ
氏名	信愛	花子

年	月	日
3	4	6

記入上の注意

1. 記入は、必ずHBの黒鉛筆で、○の中を正確に、ぬりつぶしてください。
2. 書き損じた場合は、プラスチック製消しゴムで、きれいに消してください。
3. 用紙を、折り曲げたり汚さないでください。

良い例	●
悪い例	ノ

学科	学年	クラス	番号
7	1		05
①	●	①	①
②		②	②
③		③	③
④		④	④
⑤		⑤	⑤
⑥		⑥	⑥
⑦		⑦	⑦
⑧		⑧	⑧
⑨		⑨	⑨
⑩		⑩	⑩

学科コード

- 6 : フードデザイン学科
- 7 : 幼児教育学科

問	履修届(単位)	問	履修届(単位)	問	履修届(単位)	問	履修届(単位)	問	履修届(単位)
1	● ② ③ ④ ⑤ ○	21	① ● ③ ④ ⑤ ○	41	① ② ③ ④ ⑤ ●	61	① ② ③ ④ ⑤ ●	81	① ② ③ ④ ⑤ ●
2	① ● ③ ④ ⑤ ○	22	① ② ③ ④ ⑤ ●	42	① ② ③ ④ ⑤ ●	62	① ② ③ ④ ⑤ ●	82	① ② ③ ④ ⑤ ●
3	① ② ③ ④ ⑤ ●	23	① ② ③ ④ ⑤ ●	43	● ② ③ ④ ⑤ ○	63	① ② ③ ④ ⑤ ●	83	① ② ③ ④ ⑤ ○
4	① ② ③ ④ ⑤ ●	24	● ② ③ ④ ⑤ ○	44	① ② ③ ④ ⑤ ●	64	● ② ③ ④ ⑤ ○	84	① ② ③ ④ ⑤ ○
5	① ● ③ ④ ⑤ ○	25	① ② ③ ④ ⑤ ●	45	① ② ③ ④ ⑤ ●	65	① ② ③ ④ ⑤ ●	85	① ② ③ ④ ⑤ ○
6	● ② ③ ④ ⑤ ○	26	① ● ③ ④ ⑤ ○	46	① ● ③ ④ ⑤ ○	66	① ② ③ ④ ⑤ ●	86	① ② ③ ④ ⑤ ○
7	● ② ③ ④ ⑤ ○	27	● ② ③ ④ ⑤ ○	47	① ② ③ ④ ⑤ ●	67	① ② ③ ④ ⑤ ●	87	① ② ③ ④ ⑤ ○
8	① ② ③ ④ ⑤ ●	28	① ● ③ ④ ⑤ ○	48	① ② ③ ④ ● ○	68	● ② ③ ④ ⑤ ○	88	① ② ③ ④ ⑤ ○
9	① ② ③ ④ ⑤ ●	29	① ② ③ ④ ⑤ ●	49	① ② ③ ④ ⑤ ●	69	① ② ③ ④ ⑤ ●	89	① ② ③ ④ ⑤ ○
10	① ② ③ ④ ⑤ ●	30	① ② ③ ④ ⑤ ●	50	● ② ③ ④ ⑤ ○	70	① ② ③ ④ ⑤ ●	90	① ② ③ ④ ⑤ ○
11	● ② ③ ④ ⑤ ○	31	① ② ③ ④ ⑤ ●	51	① ② ③ ④ ⑤ ●	71	① ● ③ ④ ⑤ ○	91	① ② ③ ④ ⑤ ○
12	① ② ③ ④ ⑤ ●	32	① ② ③ ④ ⑤ ●	52	① ② ③ ④ ⑤ ●	72	● ② ③ ④ ⑤ ○	92	① ② ③ ④ ⑤ ○
13	① ● ③ ④ ⑤ ○	33	① ● ③ ④ ⑤ ○	53	① ② ③ ④ ⑤ ●	73	① ② ③ ④ ⑤ ●	93	① ② ③ ④ ⑤ ○
14	① ② ③ ④ ⑤ ●	34	● ② ③ ④ ⑤ ○	54	① ● ③ ④ ⑤ ○	74	① ② ③ ④ ⑤ ●	94	① ② ③ ④ ⑤ ○
15	● ② ③ ④ ⑤ ○	35	① ② ③ ④ ⑤ ●	55	● ② ③ ④ ⑤ ○	75	① ② ③ ④ ⑤ ●	95	① ② ③ ④ ⑤ ○
16	● ② ③ ④ ⑤ ○	36	● ② ③ ④ ⑤ ○	56	① ● ③ ④ ⑤ ○	76	① ② ③ ● ⑤ ○	96	① ② ③ ④ ⑤ ○
17	① ② ③ ④ ⑤ ●	37	① ② ③ ④ ⑤ ●	57	① ● ③ ④ ⑤ ○	77	① ② ③ ④ ⑤ ●	97	① ② ③ ④ ⑤ ○
18	① ② ③ ④ ⑤ ●	38	① ② ③ ④ ⑤ ●	58	① ② ③ ④ ⑤ ●	78	● ② ③ ④ ⑤ ○	98	① ② ③ ④ ⑤ ○
19	① ● ③ ④ ⑤ ○	39	① ● ③ ④ ⑤ ○	59	① ② ③ ④ ⑤ ●	79	① ② ③ ④ ⑤ ●	99	① ② ③ ④ ⑤ ○
20	① ② ③ ④ ⑤ ●	40	① ② ③ ④ ⑤ ●	60	● ② ③ ④ ⑤ ○	80	① ② ③ ④ ⑤ ●	100	① ② ③ ④ ⑤ ○